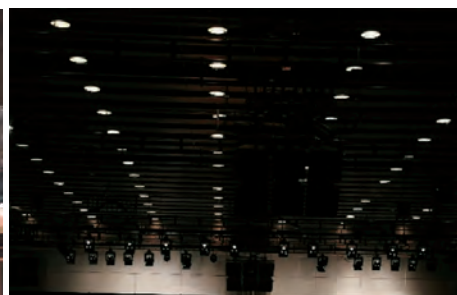


## 令和3年度入学式及び令和2年度入学者入学式の挙行 本学永年勤続者表彰に46氏 名誉教授に14氏

お知らせ

・令和3年度人間ドック・特定健康診査の実施について



## 全学ニュース

- 1 令和2年度学位記授与式の挙
- 5 令和3年度入学式及び令和2年度入学式
- 10 令和2年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙
- 11 名譽教授に14氏
- 12 令和2年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙
- 13 令和3年度北海道大学の予算
- 15 北海道と包括連携協定を締結
- 16 Academic Fantasia 3月は8名の研究者が高校生に向けた講義を実施
- 19 研究者のためのスキルアップセミナー<sup>⑭</sup>  
「オンラインコミュニケーションのかくし味」を開催
- 20 研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」を開
- 21 北大フロンティア基金
- 23 「みらいIT人材」の推進に関する連携協定締結式を実施
- 24 新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙
- 25 パイプオルガンの修理を実施
- 26 令和2年度北海道大学大塚賞受賞者の決定
- 26 令和2年度北海道大学クラーク賞受賞者の決定
- 26 令和2年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—被表彰者の決定
- 27 令和2年度北海道大学企業研究セミナー（オンライン）を開
- 28 第8回北海道大学オープンファシリティシンポジウムをオンラインで開
- 29 「onちゃん卒業式」を執り行いました
- 30 スーパースターグローバル大学（SGU）創成支援事業中間評価で「A」評価を獲
- 31 令和2年度北米ポートランドオフィス事業  
『English through Sustainability』に学生3名が参加
- 32 「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」によるITオンライン日本留学フェアを開催
- 33 「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」によるオンライン日本留学フェアを開催
- 34 北海道大学交流デー（オックスフォード大学）を開
- 36 サブサハラ・アフリカを対象に理工・農学系プログラムへの留学広報のウェビナーを開催
- 37 第15回ステーキホルダーミーティングをオンライン開
- 38 函館地区キャンパスマスタープラン説明会を開
- 39 オンラインセミナー「Networking & Collaboration in Global Science」を開
- 40 中高生対象オンラインイベント「大学生の24時間シリーズ」開

## 部局ニュース

- 41 医学研究院でコロナ禍における市民への成果発表：  
学内記者会見「ゲルでがんの親分を見つけ出す」の実
- 42 教育学院・中国人民大学教育学院とコチュネルに関する覚書を締結
- 43 経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催
- 43 国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学との  
教育・研究交流「TLLPスタディセッション・セミナー」を開



Academic Fantasia 3月は8名の研究者が高校生に向けた講義を実施



パイプオルガンの修理を実施



令和2年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙



令和2年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙

- 44 メディア・コミュニケーション研究院主催多層言語環境研究国際シンポジウム「多様性と言語」が終
- 44 附属図書館でWEB企画展示「北の動物たち-描かれた海獣-」を開
- 45 旧病理学第一講座関係資料を大学文書館で受贈
- 46 公共政策学連携研究部及び教育部と津別町が包括的連携協定を締結
- 47 北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム3期生修了式
- 49 「省エネアクションプラン」照明LED化を実施（先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター）
- 50 総合博物館で第13回「卒論ポスター発表会」を開
- 52 学生によるミュージアムグッズの企画開発—植物・海藻標本クリアカード、北大総合博物館 建物の四季ピンバッジ—
- 53 医学部が最終講義・退職記念式典を挙
- 54 医学研究院医理工学グローバルセンターが第3回分子医理工学サマースクール及び第7回医学物理サマースクールを開
- 55 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第17期修了生に修了証書授与
- 56 令和2年度保健科学院賞及び保健科学院修士課程研究発表賞授与式を挙
- 57 令和2年度医学部保健学科卒業研究優秀表彰授与式を挙

## お知らせ 58

## 博士学位記授与 60

## 諸会議の開催状況 80

## 学内規程 81

## 研修

- 89 令和3年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

## 表敬訪問 89

## 人事 90

- 96 新任部局長等紹介
- 100 部局長等（再任）紹介
- 102 新任部課長等紹介
- 106 新任教授紹介

## 訃報

- 110 名譽教授 大久保正彦 氏

## 資料

- 111 令和3年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
- 112 令和3年度入学者の都道府県分布及び地域比率



「onちゃん卒業式」を執り行いました



中高生対象オンラインイベント「大学生の24時間シリーズ」開

表紙：令和3年度入学式及び令和2年度入学式入学式の挙（関連記事5頁に掲載）

裏表紙：キャンパス風景<sup>⑬</sup> 北大生協会館前（北8条西7丁目）

## ■全学ニュース

# 令和2年度学位記授与式の挙行

令和2年度学士学位記授与式



学位記を受ける総代（札幌キャンパス）

令和2年度学士学位記授与式を3月25日（木）に、本学札幌キャンパスフロンティア応用科学研究棟レクチャーホール及び函館キャンパス講義棟大講義室において行いました。

学位記授与式は、新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小しつつ、札幌キャンパスと函館キャンパスの同時中継で実施するオンライン形式で開催され、役員、学部長等の列席の下、13学部等の卒業生2,552名（獣医学部共同獣医学課程のうち、帯広畜産大学が本籍の者を除く）を代表し、各学部等の総代へ学士学位記が授与されました。

また、新渡戸カレッジの修了者57名を代表し、総代へ修了証書が授与されました。

寶金清博総長は告辞の中で、卒業生に向けて「人類史上に残るコロナ禍の中、新たな人生の門出となる皆さんに、北海道大学総長として、最大限のエールを送りたいと思います。皆さんのこれからの人生の洋々たる前途を期待しております」との言葉を贈りました。

その後、北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」の合唱が流れ、式は終了しました。



学位記を受ける総代（函館キャンパス）



告辞を述べる寶金総長



修了証書を受ける新渡戸カレッジ総代

令和2年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

令和2年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式終了後に、札幌キャンパスフロンティア応用科学研究棟レクチャーホール及び函館キャンパス講義棟大講義室において、規模を縮小しつつ、両キャンパスの同時中継により執り行いました。

修士・専門職学位・博士学位記授与式では、役員、研究科等の長の列席の下、17研究科等の修士課程修了者1,659名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者19名、経済学院会計情報専攻修了者19名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者30名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位学位記が授与されました。

引き続き、19研究科等の博士課程修了者275名、論文博士16名を代表し、各研究科等の総代へ博士学位記が授与されました。

この後、寶金清博総長より告辞があり、最後に北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏が流れ、式は締めくくられました。

学部・研究科等別の卒業生数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号60ページに掲載しています。

(学務部学務企画課)



札幌キャンパス会場の様子



函館キャンパス会場の様子

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	186
教育学部	66
法学部	202
経済学部	182
理学部	302
医学部	297
歯学部	51
薬学部	76
工学部	706
農学部	229
獣医学部	(84) 41
水産学部	203
現代日本学プログラム課程	11
計	(2,595) 2,552

括弧書きの数字は本学及び帯広畜産大学の合計数

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
法学研究科	18	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	19
水産科学院	96	経済学院会計情報専攻	19
環境科学院	140	公共政策学教育部公共政策学専攻	30
理学院	122		
農学院	160		
生命科学院	111		
教育学院	41		
国際広報メディア・観光学院	44		
保健科学院	54		
工学院	(365) 350		
総合化学院	147		
経済学院	39		
医学院	18		
医理工学院	16		
国際食資源学院	15		
文学院・文学研究科	88		
情報科学院・情報科学研究科	200		
計	(1,674) 1,659	計	68

括弧書きの数字は本学及び九州大学の合計数

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
法学研究科	2	
水産科学院	6	
環境科学院	16	4
理学院	23	1
農学院	19	2
生命科学院	24	1
教育学院	4	1
国際広報メディア・観光学院	4	
保健科学院	5	
工学院	29	4

研究科等名	課程博士	論文博士
総合化学院	20	
経済学院	4	
医学院・医学研究科	42	
歯学院・歯学研究科	20	
獣医学院・獣医学研究科	8	1
医理工学院	1	
国際感染症学院	10	
文学院・文学研究科	16	2
情報科学院・情報科学研究科	22	
計	275	16

## 学士学位記授与式

北海道大学総長 寶金 清博

本日、無事に本学を卒業される2,552名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。北海道大学を代表して、心からお祝い申し上げます。また、海外から本学を選んでいただき、慣れない環境、異国の地で、本学を卒業された留学生の皆さんに対して、重ねて、お祝い申し上げます。

また、皆さんを支えてこられたご家族、関係者の皆さまに対しても、心より祝意をお伝えしたいと思います。さらに、この間、本学へのご支援を戴いた方々には、この場を借りて、深く御礼申し上げます。

皆さんは、本学において、最高の知識、技術、経験を得られました。それらに加えて、多くの人々との出会いを通じて、今後の人生の糧となる貴重な人間関係を築くことができたものと確信しています。言うまでもなく、卒業は、所定の教育プログラムの区切りに過ぎず、人間形成の道に終わりはありません。これまで、本学での学びで得た知識、経験を土台にして、どのような道に進まれるとしても、さらに、研鑽を重ね、お一人お一人が大成されることを期待しています。

卒業までの間、皆さんの周りでは、いろいろな出来事があったと思います。個人的な出来事もたくさんあり、その中には、辛いことや困難なことがあった一方で、人生を彩る素晴らしい時間も過ごされたと思います。

また、社会全体を見渡すと、皆さんが、本学で学んだこの数年間は、特別な時期であったと思います。

2018年9月の北海道胆振東部地震に起因する北海道全域のブラックアウトにより、本学の教育・研究活動も多大な影響を受けました。

そして、何より、2019年末からの新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が世界を一変させました。この、いわゆるコロナ禍は、現在も終息の光は見え、私たちは、暗いトンネルの中にいるようです。皆さんの卒業に向けての極めて重要な1年余りが、まさに、このコロナ禍であったことは、大変に辛い経験であったと思います。

授業はオンラインという慣れない環境で行われました。また、課外活動が大きく制限されました。さらに、友人や教員との授業以外での人間的交流は、厳しく制限される状況となりました。

また、皆さんの中には、支えてくれたご家族の経済状況の悪化や、飲食業を中心とする業界の経営難の影響によるアルバイト収入の激減など、従来とは次元の異なる、経済

的な困難に直面された学生が多かったことが、私たちの調査でも明らかになっています。

こうした厳しい環境の中で、研鑽を続けて、本日の卒業に至ったことは、大変高く評価されることです。もちろん、平時における卒業も称賛されるべきことですが、このコロナ禍における「有事」の中での卒業は、さらに高い称賛に値します。

確かに、今もその暗闇から抜け出せないコロナ禍は、大変過酷な世界的出来事です。その中で、学生生活の最終の重要な時期を過ごされたことは、大変な試練であったと思います。

しかし、このコロナ禍という歴史的な転換点で卒業を迎えることは、私たちを含め、この時代を生きる皆さん全てにとって、極めて重要なメッセージと捉えるべきです。このコロナ禍が私たちの生き方、価値観を大きく変える決定的なものになることを考える必要があります。そして、皆さんは、このコロナ禍の後に、New Norm, すなわち、「新しい規範」と言われる新しい社会の成立を迎えることとなります。

感染症の世界的パンデミックの後に、直接的に、ルネサンスのような「文明復興」が起こるわけではありません。ただ、今回のコロナ禍によるパンデミックは、世界秩序の再編、デジタル・トランスフォーメーションの加速、日常生活の新しいルールの広がりなどを既に定着させています。おそらく、このコロナ禍のパンデミックの後に訪れる「ポスト・パンデミック」は、根源的な社会の変革をもたらすことは間違いないでしょう。

皆さんは、その次の社会を作る中心的役割を担う世代となります。このことは、大きな責任でもありますが、皆さんの力を持ってすれば、大きなチャンスでもあります。どうか、その力を存分に発揮され、この変革の時代の担い手となってください。

本学は、まもなく創基150年の大きなマイルストーンを迎えます。この長い歴史の中で、多くのロールモデルとも言える先人達があります。初代教頭のウィリアム・S・クラーク先生や、グローバル化の先駆者であり日本精神の具現者であった新渡戸稲造先生がその代表ですが、歴史に名を残すことはなくとも、ご自身の領域で、一遇を照らす確かな社会貢献をされた多くの先人があります。

その先人達が残した言葉の中で、私たち北海道大学のメ

ンバーにとってのsoul sloganは、クラーク先生の残した「Boys be ambitious」という勇気を与える言葉だと思います。その精神は、皆さんも含めて、本学の関係者が、それぞれの立場で解釈できるものです。あるいは、時代によって、その解釈を変えることができる素晴らしい言葉だと思います。

私自身は、この言葉を、私たちの足元である北海道から、世界へ、私たちの教育、研究、そして、そこから生まれた人材を広げていくことだと解釈しています。これを「光は北から、北から世界へ」という言葉で自分なりの言葉でお伝えしています。「光」は、皆さんのような若い人材、そして、研究成果です。「北」は、もちろん、北海道大学のことも意味しますが、もっと広く、寒冷で厳しい気候・風土という私たちの環境を意味しています。

このコロナ禍も含めて、まさに、厳しい環境だからこそ、次の社会を先導するイノベーションの光を北海道大学の卒業生である皆さんが放つことを期待しています。

皆さんが卒業されるこの北海道大学は、長い歴史と四季の移り変わりを見せる素晴らしいキャンパスを持つ、他に例を見ない大学です。私は、北海道大学は、これまでも、そして、これからも、唯一無二の「比類なき大学」であると誇りに思っています。

美しい広大なキャンパスと日本全国、そして世界から集まる仲間達と過ごしたこの数年間は、まさに、「比類なき

大学」での「かけがえのない時間」であったのではないかと思います。

どうか、この誇りを胸に、今後の人生を力強く歩んでいただきたいと願っています。

最後になりますが、私たち、北海道大学は、次の大きな方針の一つとして、「社会との強い連携」を掲げています。本学は、社会の様々な組織や個人とのより強いつながりを求め、社会変革の起点となることを目指しています。

その中で、卒業生との連携、同窓会活動は、社会連携の最も重要な土台となります。卒業生との長く、強い連携を築けないようでは、広く多様な社会との連携など築けるわけがありません。

今後は、皆さんが、同窓会の一員として、生涯にわたって、本学卒業生であることを誇りに思い、また、良い意味で同窓会を活用していただきたいと思います。

別れは名残惜しいものですが、人類史上に残るコロナ禍の中、新たな人生の門出となる皆さんに、北海道大学総長として、最大限のエールを送りたいと思います。

皆さんのこれからの人生の洋々たる前途を期待しております。

本日はおめでとうございます。

# 令和3年度入学者入学式及び令和2年度入学者入学式の挙行



総代による入学者宣誓（令和3年度入学者）

令和3年度入学者入学式及び令和2年度入学者入学式を、4月6日（火）に札幌コンベンションセンターにおいて執り行いました。

入学式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、令和3年度入学者の入学式を午前と午後の2回に分散して行うとともに、昨年度開催を見送りとした令和2年度入学者の入学式についても希望者を対象に行いました。

式は、役員、副学長及び学部長の列席の下、新渡戸カレッジフェローの森順子さんの司会により開始され、寶金清博総長から新入生に対し告辞が述べられました。

はじめに、総長は告辞の中で、本学の概要について歴史的経緯や4つの基本理念を含めて紹介され、本学は歴史や立地において「比類なき大学」であると述べられました。

続いて、本学の「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」と題した近未

来戦略に触れ、世界の課題解決に貢献するためには自分自身の考えを持たなければならず、そのためには多様性の尊重が重要であり、多様な学問領域に触れ、異なる考えの人々と意見を交わすことが必要であると述べられました。

さらに、現在のコロナ禍は、世界中の人にとって大きな試練であり、皆さんが思い描いていた大学生活とはかけ離れたものになるかもしれないが、同時に、社会が、デジタル・トランスフォーメーション、Society 5.0、持続可能なカーボン・ニュートラル実現へ向けて急速な進展を遂げる歴史上の大きな転換点に皆さんはおり、コロナ禍での厳しい経験が必ずや大きな力になるものと確信していると述べられました。

そして最後に、4つの基本理念、多様性の尊重、デジタル・トランスフォーメーション、SDGsの実現、ポスト・コロナの社会創造などは、北海道

大学に関わる全ての人間にとっての「高邁なる大志」であり、日々、新しい高邁な大志の実現に向けて、私たちと一緒に進みましょうと、激励の言葉を述べられました。

総長告辞に続いて、2回に分けて行われた令和3年度入学者入学式では、2,546名の入学者を代表して杉本雪穂さん及び原田輝さんによる入学者宣誓が行われ、令和2年度入学者入学式では、2,553名の入学者を代表して寺西進之丞さんによる代表学生宣誓が行われました。

その後、本学理事、監事、副学長及び学部長の紹介が行われ、式は終了しました。

入学式終了後には、山口淳二理事・副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」についてのガイダンスが行われ、全ての行事が終了しました。

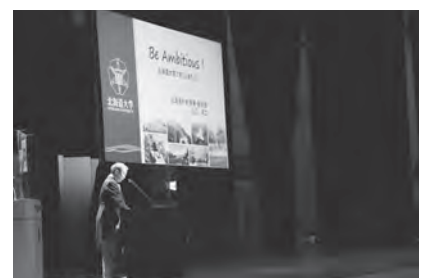
（学務部学務企画課）



代表学生による宣誓（令和2年度入学者）



告辞を述べる寶金総長



山口理事・副学長によるガイダンス

## 令和3年度入学式

北海道大学総長 寶金 清博

この春、北海道大学は、2,546名の新入生を迎えました。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

北海道大学を代表して、皆さんを心から歓迎するとともに、皆さんを支えてこられたご家族、関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

入学式における総長の告辞は、毎年繰り返される挨拶ですが、社会では注目されるメッセージです。通常、大学の代表者が、新入生に対して、歓迎の意を表し、大学の歴史とその理念を伝達するものです。その意義はもちろん重要ですが、私は、大学自身が、その構成員や社会に対して、その方向性を表明する重要な機会であると考えています。そのため、本日は、まず初めに、北海道大学の概要とその理念を皆さんにお伝えし、その後、新しく構成員になられた皆さんと共に、今後の北海道大学の進むべき方向について確認したいと思います。

今から145年前の1876年、北海道開拓に資する人材育成のため、欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して、明治政府により「札幌農学校」が設立されました。ご存知のように、北海道大学の基礎はこの「札幌農学校」です。

当時は、明治維新を経て、我が国が近代国家へ歩み始めた時期です。幾つもの帝国大学が、ヨーロッパ、特にドイツの大学を手本として、国家の近代化を担う人材育成を目的として、創立されました。

これに対して、札幌農学校では、まず、リベラルアーツ教育が行われました。リベラルアーツという言葉は、耳馴染みがないかもしれませんが、本学に入学された皆さんに、本日の入学式で、一つだけ覚えてほしい言葉があるとすれば、この「リベラルアーツ」です。これを短い時間で説明することは困難ですが、分かりやすい類似語で言えば、「幅広い一般教養」であり、ある意味では、「知識」「技術」という道具の習得に過ぎないと思われるかもしれませんが、札幌農学校において、リベラルアーツ教育を大学教育の原点に置き、農学だけではなく、数学、化学、生物学から語学、歴史学、経済学に至るまで多様な基礎教育が英語により実施されていたことは驚くべきことで、現代においても、極めて先進的なことです。

以来、北海道大学はリベラルアーツ教育を通して、教育と研究に関わる4つの基本理念を培ってきました。すなわち、未踏の学問領域を探索する「フロンティア精神」、国際人としての素養を身に付け、多様性を尊重する「国際性

の涵養」、人間形成の基盤を培う「全人教育」、そして、得られた成果を社会に還元する「実学の重視」です。

本学は、札幌市の中心に位置し、日本でも有数の規模を誇る札幌キャンパスのほか、函館キャンパス、広大な研究林、臨海・臨湖実験所、果樹園、植物園、牧場などを有し、自然に恵まれた環境の中で教育・研究が行われています。

私は、海外を含む多くの大学キャンパスを歩いたことがあります。北海道大学は、世界で最も美しいキャンパスと、雪に覆われた冬も含め、素晴らしい四季に恵まれています。このように、北海道大学は、その歴史や立地において、オンリーワン、「比類なき大学」です。

さて、5年後の2026年に本学は、創基150年の歴史的な年を迎えます。その創基150年に向けて、北海道大学は、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」と題した近未来戦略を掲げ、不断の改革を行っています。

「世界の課題解決」という壮大な使命は、自分に貢献できることなどないと思える方もたくさんいると思います。

ただ、どのような大きな課題であっても、まず、自身の身近な課題を解決することから始まり、その小さな日常の努力が、世界の課題解決に繋がります。近年、「SDGs（持続可能な開発目標）」に取り組む姿勢として、Think Globally, Act Locallyという行動規範が唱えられています。これは、言うまでもなく、世界のことを考えながら、日々、目の前の事柄の一つ一つ向き合うことの大切さを伝えています。

難しいことではありません。まず、基礎となる広い知識を習得する情報のインプットはもちろん大切です。そして、それに基づく自分なりの整理とアウトプットはさらに重要です。

自分自身の考えを持つためには、異なる考えを持つ人を排除してはいけません。大学における教育・研究の前提となるのは、diversity、多様性を尊重することです。これが、社会変革、イノベーションを起こす知の拠点として期待されている大学にとって最も重要なことです。

多様性、diversityという言葉を書かない日がないほど、現在の世界では多様性が重視されています。ただ、多様であることは決して容易なことではありません。均一な集団、親密な環境は、安堵感を感じやすいものです。他方、



多様性は、緊張感を伴うものです。しかし、これから、私たちは、多様性の厳しさと緊張感を経験しつつ、これを克服し、力に変える必要があります。そのためには、単に、海外の文化や人々に触れることばかりでなく、多様な学問領域に触れ、異なる考えの人々と意見を交わすことが必要です。

幸い、本学には、皆さんの目標となるロールモデルというべき先人がいます。札幌農学校の初代教頭であるWilliam Smith Clark博士が赴任したのは1876年です。これは、アメリカ合衆国建国からわずか100年後、明治維新からわずか8年後のことです。この一人の外国人教師にとって、この極東の小さな国の最北の地は、まさに異国の地であり、多くの困難に遭遇したものと想像します。そうした中でも、クラーク先生は、本学の基本理念である「国際性の涵養」の種を蒔いてくれました。

また、本学の前身である札幌農学校の第2期生である新渡戸稲造博士は、国際連盟の初代事務次長として国際舞台で活躍し、国際的な名著「武士道」を著しました。明治時代の新渡戸博士の日本人としての矜持に裏付けられた国際性と多様性は、令和の時代の私たちから見ても、驚くべきものです。

さらに、内村鑑三や有島武郎は、社会運動や文学活動を通じて、日本社会に大きな影響を与えました。彼らは、社会的弱者や世界の片隅にいる人々に寄り添う精神を私たちに伝えてくれました。

現在、私たちは、COVID-19の世界的な流行によるコロナ禍の真ただ中にいます。本日の入学式は、この困難な状況下で、関係者の尽力により、感染防止に最大限の配慮をしながら開催することができました。

コロナ禍は、世界中の人にとって大きな試練であり、皆さんの新学期の授業も厳しい感染防止策を講じたうえで行われます。皆さんがコロナ禍の前に思い描いていた大学生活とは、かけ離れたものになるかもしれません。

残念ながら、このコロナ禍の終息を予測することはできません。しかし、私たちがこの試練を克服する日が来ることは間違いありません。そして、このコロナ禍と同時に、社会が、デジタル・トランスフォーメーション、Society 5.0、持続可能なカーボン・ニュートラル実現へ向けて急速な進展を遂げる歴史上の大きな転換点に、皆さんはいます。次の社会、ポスト・コロナの社会を創っていくのは、間違いなく、ここにいる皆さんです。このコロナ禍での厳しい経験は、今後、未踏の領域に足を踏み入れる皆さんにとって必ずや、大きな力になるものと確信しています。

最後に、皆さんに、クラーク先生が残された言葉“Girls and boys, be ambitious!”「青年よ、大志を抱け」という

言葉を贈りたいと思います。大変有名な言葉であり、短文で覚えやすく、かつ、深い意味を持った言葉です。日本で、このように有名なメッセージを持つ大学は、本学以外に思いつきません。

“Girls and boys be ambitious!”, この言葉は、今後の大学生活や人生において、困難に直面した時や、悲しいことがあった時に、皆さんに勇気を与えてくれる生涯にわたる魂の言葉になるでしょう。

最初に述べたように、総長の告辞は、大学が、その構成員や社会に対してその決意を表明する重要な機会であると考えています。

こうして、皆さんの前で、話をしている私自身や壇上の役員、あるいは教職員も、この“Ambitious!”の意味を考え続けています。これまで私が述べてきた4つの基本理念、多様性の尊重、そして、デジタル・トランスフォーメーションやSDGsの実現、ポスト・コロナの社会創造などは、私たち北海道大学に関わる全ての人間にとって、lofty ambition, すなわち、高邁なる大志であると思います。ここに集まった新入生の皆さんと共に、北海道大学は、創基150年に向けて、日々、新しい高邁なる大志の実現に向けて、歩んでゆきたいと考えます。私たちと一緒に進みましょう。

以上をもちまして、私から新入生の皆さんへの告辞といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

## 令和2年度入学者入学式

北海道大学総長 寶金 清博

昨年、令和2年4月に入学された皆さん、改めて、入学おめでとうございます。

昨年は、COVID-19の感染が北海道を始め日本各地で日々拡大していた状況に鑑み、入学式を中止する苦渋の決断をしました。

現在も、私たちは、COVID-19によるコロナ禍の真ただ中にいます。現在の感染状況を考えますと、入学式を開催して良いものか、私たちも熟慮しました。しかし、皆さんが一同に集まって、本学の歴史や精神を共有する機会を持つことは、かけがえのないものであると考え、一年遅れではありますが、入学式を開催することとしました。

私は、1973年に北海道大学に入学しました。この年は、残念なことに、学生運動による混乱のため、入学式は行われませんでした。当時は、仕方がないことと諦め、4月にキャンパスに来て、授業を受けはじめ、数年後に学生生活を終えました。

しかし、今になって、やはり、節目の入学式がなかったことを大変残念に思っています。当然のことながら、当時は、オンラインもなく、私は、大学の公式行事として、大学の歴史や理念、あるいは大学生活を送る心構えを聴く機会を逸しました。振り返ってみて、私の大学生活が、高校生活の延長として漫然と始まったことは、決して良いことではなかったと思っています。

2年次の授業が始まっている学部もあり、全員の参加はできませんでしたが、この会場、あるいはオンラインで多くの皆さんに参加いただいたことを嬉しく思います。一年遅れにはなりましたが、この入学式は、後年、人生を振り返った時、皆さんにとって特別なものになるでしょう。

入学式における総長の告辞は、毎年繰り返される挨拶ですが、社会では注目されるメッセージです。通常、大学の代表者が、新入生に対して、歓迎の意を表し、大学の歴史とその理念を伝達するものです。その意義はもちろん重要ですが、私は、大学自身が、その構成員や社会に対して、その方向性を表明する重要な機会であると考えています。そのため、本日は、まず初めに、北海道大学の概要とその理念を皆さんにお伝えし、その後、皆さんと共に、今後の北海道大学の進むべき方向について確認したいと思います。

今から145年前の1876年、北海道開拓に資する人材育成

のため、欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して、明治政府により「札幌農学校」が設立されました。ご存知のように、北海道大学の基礎はこの「札幌農学校」です。当時は、明治維新を経て、我が国が近代国家へ歩み始めた時期です。幾つもの帝国大学が、ヨーロッパ、特にドイツの大学を手本として、国家の近代化を担う人材育成を目的として、創立されました。

これに対して、札幌農学校では、リベラルアーツ教育が行われました。札幌農学校において、このリベラルアーツ、すなわち幅広い教養教育を大学教育の原点に置き、農学だけではなく、数学、化学、生物学から語学、歴史学、経済学に至るまで多様な基礎教育が英語により実施されていたことは驚くべきことで、現代においても、極めて先進的なことです。

以来、北海道大学はリベラルアーツ教育を通して、本学の教育と研究に関わる4つの基本理念を培ってきました。すなわち、未踏の学問領域を探究する「フロンティア精神」、国際人としての素養を身に付け、多様性を尊重する「国際性の涵養」、人間形成の基盤を培う「全人教育」、そして、得られた成果を社会に還元する「実学の重視」です。

私は、海外を含む多くの大学キャンパスを歩いたことがあります。北海道大学は、世界で最も美しいキャンパスと、雪に覆われた冬も含め、素晴らしい四季に恵まれています。このように、北海道大学は、その歴史や立地において、オンリーワン、「比類なき大学」です。

さて、5年後の2026年に本学は、創基150年の歴史的な年を迎えます。その創基150年に向けて、北海道大学は、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」と題した近未来戦略を掲げ、不断の改革を行っています。

「世界の課題解決」という壮大な使命は、自分に貢献できることなどないと思える方もたくさんいると思います。ただ、どのような大きな課題であっても、まず、自身の身近な課題を解決することから始まり、その小さな日常の努力が、世界の課題解決に繋がります。近年、「SDGs（持続可能な開発目標）」に取り組む姿勢として、Think Globally, Act Locallyという行動規範が唱えられています。これは、言うまでもなく、世界のことを考えながら、日々、目の前の事柄に一つ一つ向き合うことの大切さを伝えていきます。

難しいことではありません。まず、基礎となる広い知識を習得する情報のインプットはもちろん大切です。そして、それに基づく自分なりの整理とアウトプットはさらに重要です。

自分自身の考えを持つためには、異なる考えを持つ人を排除してはいけません。大学における教育・研究の前提となるのは、diversity、多様性を尊重することです。これが、社会変革、イノベーションを起こす知の拠点として期待されている大学にとって最も重要なことです。

多様性、diversityという言葉を開かない日がないほど、現在の世界では多様性が重視されています。ただ、多様であることは決して容易なことではありません。均一な集団、親密な環境は、安堵感を感じやすいものです。他方、多様性は、緊張感を伴うものです。しかし、これから、私たちは、多様性の厳しさと緊張感を体験しつつ、これを克服し、力に変える必要があります。そのためには、単に、海外の文化や人々に触れることばかりでなく、多様な学問領域に触れ、異なる考えの人々と意見を交わすことが必要です。

幸い、本学には、皆さんの目標となるロールモデルというべき先人がいます。札幌農学校の初代教頭であるWilliam Smith Clark博士が赴任したのは1876年です。これは、アメリカ合衆国建国からわずか100年後、明治維新からわずか8年後のことです。この一人の外国人教師にとって、この極東の小さな国の最北の地は、まさに異国の地であり、多くの困難に遭遇したものと想像します。そうした中でも、クラーク先生は、本学の基本理念である「国際性の涵養」の種を蒔いてくれました。

また、本学の前身である札幌農学校の第2期生である新渡戸稲造博士は、国際連盟の初代事務次長として国際舞台で活躍しました。

さらに、内村鑑三や有島武郎は、社会運動や文学活動を通じて、日本社会に大きな影響を与えました。彼らは、社会的弱者や世界の片隅にいる人々に寄り添う精神を私たちに伝えてくれました。

現在、私たちは、COVID-19の世界的な流行によるコロナ禍の真ただ中にいます。コロナ禍は、世界中の人にとって大きな試練であり、皆さんの第一学年の大学生活は、コロナ禍の前に皆さんが思い描いていた大学生活とは、かけ離れたものになりました。精神的にも、経済的にも、非常に厳しい年間であったと思います。

安易に、このコロナ禍の終息を予測することはできません。しかし、私たちがこの試練を克服する日が来ることは間違いありません。そして、このコロナ禍と同時に、社会が、デジタル・トランスフォーメーション、Society 5.0、

持続可能なカーボン・ニュートラル実現へ向けて急速な進展を遂げる歴史上の大きな転換点に、皆さんはいます。次の社会、ポスト・コロナの社会を創っていくのは、間違いなく、ここにいる皆さんです。このコロナ禍での厳しい経験は、今後、未踏の領域に足を踏み入れる皆さんにとって必ずや、大きな力になるものと確信しています。

最後に、皆さんに、クラーク先生が残された言葉“Girls and boys, be ambitious!”「青年よ、大志を抱け」という言葉を贈りたいと思います。大変有名な言葉であり、短文で覚えやすく、かつ、深い意味を持った言葉です。日本で、このように有名なメッセージを持つ大学は、本学以外に思いつきません。

“Girls and boys be ambitious!”, この言葉は、今後の大学生活や人生において、困難に直面した時や、悲しいことがあった時に、皆さんに勇気を与えてくれる生涯にわたる魂の言葉になるでしょう。

最初に述べたように、総長の告辞は、大学が、その構成員や社会に対してその決意を表明する重要な機会であると考えています。

こうして、皆さんの前で、話をしている私自身や壇上の役員、あるいは教職員も、この“Ambitious!”の意味を考え続けています。これまで私が述べてきた4つの基本理念、多様性の尊重、そして、デジタル・トランスフォーメーションやSDGsの実現、ポスト・コロナの社会創造などは、私たち北海道大学に関わる全ての人間にとって、lofty ambition、すなわち、高邁なる大志であると思います。皆さんと共に、北海道大学は、創基150年に向けて、日々、新しい高邁なる大志の実現に向けて、歩んでゆきたいと考えます。私たちと一緒に進みましょう。

以上をもちまして、令和2年度入学生の皆さんへの告辞といたします。

改めて、入学おめでとうございます。

# 令和2年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙



表彰状を受ける被表彰者

3月31日（水）、学術交流会館において、令和3年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された46氏に対する「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式が執り行われました。

関係者列席のもと、被表彰者の代表

として、大学院メディア・コミュニケーション研究院 教授 北村倫夫氏に、寶金清博総長から賞状及び記念品が授与された後、寶金総長から被表彰者の本学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せら

れました。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

## 北海道大学永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所 属	氏 名	所 属	氏 名
総務企画部	片 桐 明 子	大学院メディア・コミュニケーション研究院	橋 本 聡
国際部	太 田 裕 美	大学院保健科学研究院	安 積 陽 子
附属図書館	結 城 憲 司	大学院工学研究院	安 住 和 久
〃	土 田 健 治	〃	小 泉 均
大学院法学研究科	吉 田 徹	大学院医学研究院	中 山 若 樹
法学研究科・法学部	徳 山 雅 一	〃	古 田 伊都子
大学院水産科学研究院	平 譚 享	〃	鈴 木 正 己
水産学部附属練習船おしよる丸	高 木 省 吾	大学院文学研究院	武 田 雅 哉
水産学部附属練習船うしお丸	澤 田 信 之	〃	和 田 博 美
大学院地球環境科学研究院	久保川 厚	北海道大学病院	清 水 勇 一
環境科学事務部	長 野 剛 志	〃	澁 谷 斉
大学院理学研究院	加 藤 敦 之	〃	山 谷 敦 子
〃	加 藤 昌 子	〃	新 谷 理恵子
〃	蓬 田 清	〃	本 田 秀 子
理学・生命科学事務部事務課	岩 松 珠 美	〃	一 宮 香 織
〃	渡 辺 栄 伸	〃	加 賀 沼 朋 子
薬学事務部	鈴 木 正 章	〃	菅 野 香
大学院農学研究院	有 賀 早 苗	〃	佐 藤 雅 子
大学院先端生命科学研究院	幸 田 敏 明	〃	原 田 幸 子
大学院メディア・コミュニケーション研究院	北 村 倫 夫	〃	須 田 範 行

所	属	氏名	所	属	氏名
北海道大学病院		齋藤英一	北方生物圏フィールド科学センター		佐藤省吾
北海道大学病院事務部		深澤博昭	北極域研究センター		杉本敦子
北方生物圏フィールド科学センター		成澤顕久	北キャンパス合同事務部		笹原英明

## 名誉教授に14氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月17日（水）開催の教育研究評議会において、次の14氏に対し名誉教授の称号を授与することを決定し、本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月10日（木）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

### 北海道大学名誉教授

笠原正典	（元総長代行，元大学院医学研究科教授）	齋藤健	（元大学院保健科学研究院教授）
長谷川晃	（元理事・副学長，元大学院法学研究科教授）	安住和久	（元大学院工学研究院教授）
久保川厚	（元大学院地球環境科学研究院教授）	武田雅哉	（元大学院文学研究院教授）
杉本敦子	（元大学院地球環境科学研究院教授）	和田博美	（元大学院文学研究院教授）
加藤昌子	（元大学院理学研究院教授）	山下啓子	（元北海道大学病院教授）
有賀早苗	（元大学院農学研究院教授）	原登志彦	（元低温科学研究所教授）
橋本聡	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）	三澤弘明	（元電子科学研究所教授）

## 令和2年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行



左から、寶金総長、菅原氏、西田氏、山口理事

3月5日（金）、事務局において「北海道大学職員表彰」表彰式が執り行われ、関係者列席のもと、寶金清博総長から被表彰者に賞状及びメダルが授与されました。

この表彰は、職務上顕著な功績等があった方及び職務外において職員の模範として表彰に値する善行を行った方を対象とするものです。

このたび表彰された方は、永年にわたり、岩石試験装置の維持・管理及び現場計測機器の開発等における技術支援に精励され、多大な貢献をされるとともに、論文の発表等を積極的に行い、学術研究に貢献された工学研究院工学系技術センター技術部嘱託職員の菅原隆之氏、ならびに超音波検査の検査体制を集約し、飛躍的に検査件数を

増加させ、職務の能率増進に多大な貢献をされるとともに、論文の発表等を積極的に行い、学術研究に貢献された北海道大学病院医療技術部臨床検査技師長の西田 睦氏の2名です。

（総務企画部人事課厚生労務室）

# 令和3年度北海道大学の予算

## 令和3年度 北海道大学収入・支出予算書

(単位：千円)

収入				支出			
事項	前年度 予算額	令和3年度 予算額	増減額	事項	前年度 予算額	令和3年度 予算額	増減額
[一般会計]	44,791,827	45,962,577	1,170,750	[一般会計]	44,791,827	45,962,577	1,170,750
運営費交付金収入	32,659,114	34,001,162	1,342,048	人件費	27,608,529	27,180,766	△427,763
学生納付金	10,712,186	10,604,256	△107,930	共通政策課題分	477,805	511,137	33,332
雑収入	1,420,527	1,357,159	△63,368	特殊要因経費	1,673,394	3,136,471	1,463,077
				退職手当	1,468,364	2,977,654	1,509,290
				建物新営に伴う設備費	43,847	15,490	△28,357
				移転費	161,183	143,327	△17,856
				調整費	200,000	200,000	0
				特定経費	3,844,179	3,876,020	31,841
				電子計算機借料	281,375	249,164	△32,211
				電子ジャーナル経費	457,356	433,743	△23,613
				公租公課、保険料等	1,029,455	1,052,000	22,545
				燃料費	0	0	0
				授業料等減免費	766,717	704,537	△62,180
				収入見合経費	1,309,276	1,436,576	127,300
				学長裁量経費	4,906,074	5,024,006	117,932
				学長裁量経費	2,400,670	2,209,990	△190,680
				機能強化促進事業 (基幹経費化分)	1,031,113	1,506,970	475,857
				(機能強化促進分)	1,474,291	1,307,046	△167,245
				基盤配分経費	6,081,846	6,034,177	△47,669
[病院会計]	33,368,396	34,091,382	722,986	[病院会計]	33,368,396	34,091,382	722,986
運営費交付金収入	2,428,045	2,425,496	△2,549	人件費	8,729,979	8,743,069	13,090
附属病院収入	30,700,705	31,483,384	782,679	学長裁量経費	515,686	507,435	△8,251
雑収入	239,646	182,502	△57,144	機能強化促進事業 (基幹経費化分)	515,686	507,435	△8,251
				病院診療経費	23,375,720	24,481,134	1,105,414
				債務償還経費	643,892	258,275	△385,617
				基盤配分経費	103,119	101,469	△1,650
[外部資金会計]	25,568,400	24,604,531	△963,869	[外部資金会計]	25,568,400	24,604,531	△963,869
施設費補助金等収入	2,185,470	1,251,876	△933,594	施設整備費	2,185,470	1,251,876	△933,594
保育園運営費補助金収入	95,758	93,622	△2,136	保育園運営費補助金事業費	95,758	93,622	△2,136
授業料等減免費交付金収入	300,086	222,822	△77,264	授業料等減免費交付金事業費	300,086	222,822	△77,264
寄附金収入	2,418,447	2,420,061	1,614	直接事業費	19,885,157	19,935,757	50,600
受託研究収入	6,725,292	6,838,149	112,857	寄附金事業費	2,374,357	2,380,462	6,105
共同研究収入	1,810,030	2,207,432	397,402	受託研究費	5,725,360	5,857,118	131,758
受託事業収入	1,275,756	1,362,793	87,037	共同研究費	1,477,625	1,790,461	312,836
大学改革補助金等収入	3,620,623	3,258,206	△362,417	受託事業費	1,246,011	1,339,506	93,495
文部科学省科学研究費補助金	6,995,323	6,710,381	△284,942	大学改革補助金等事業費	3,534,535	3,186,792	△347,743
厚生労働省科学研究費補助金	93,497	180,576	87,079	文部科学省科学研究費補助金	5,398,262	5,165,785	△232,477
その他助成金等	48,118	58,613	10,495	厚生労働省科学研究費補助金	81,089	157,020	75,931
				その他助成金等	47,918	58,613	10,695
				間接経費	3,101,929	3,100,454	△1,475
				特定経費(電子計算機借料)	785,160	785,160	0
				特定経費(燃料費)	580,272	558,925	△21,347
				特定経費(電子ジャーナル経費)	142,644	166,257	23,613
				部局配分経費	1,593,853	1,590,112	△3,741
合計	103,728,623	104,658,490	929,867	合計	103,728,623	104,658,490	929,867

[その他繰越金：令和2年度末残額見込]

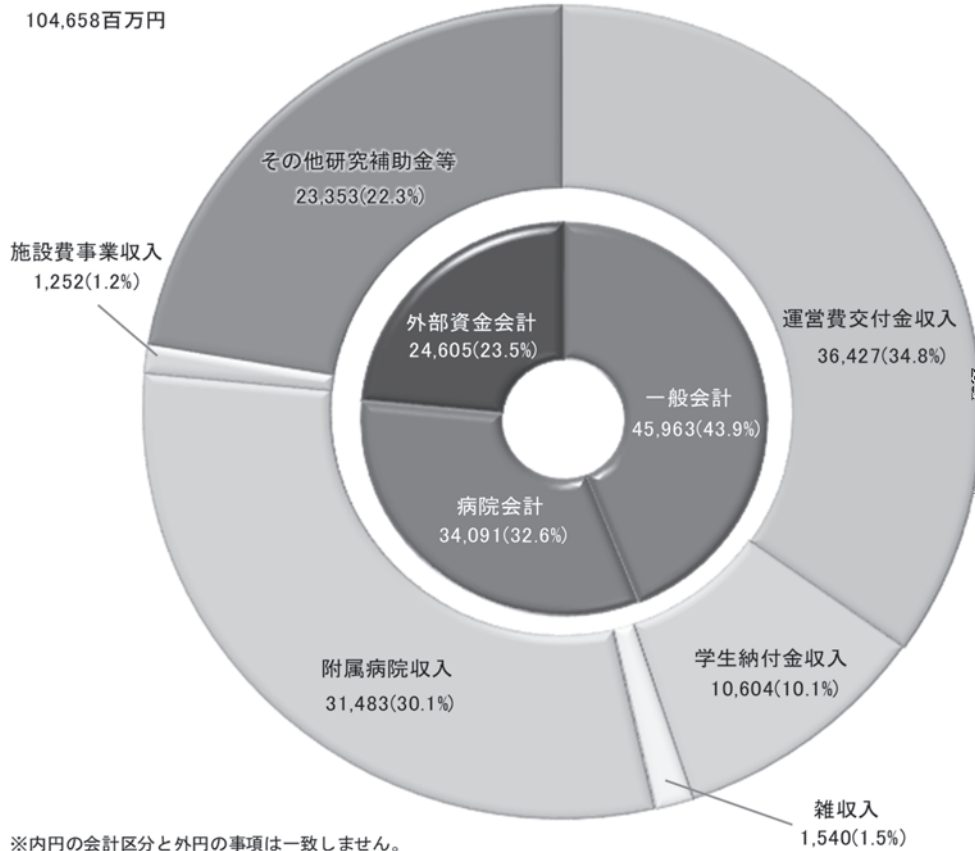
目的積立金(第3期中期目標期間：H28-R1)	2,627,460千円
寄附金(フロンティア基金)	2,458,558千円
寄附金(フロンティア基金以外)	6,135,419千円
計	11,221,437千円

令和3年度 北海道大学収入・支出予算（グラフ）

（単位：百万円）

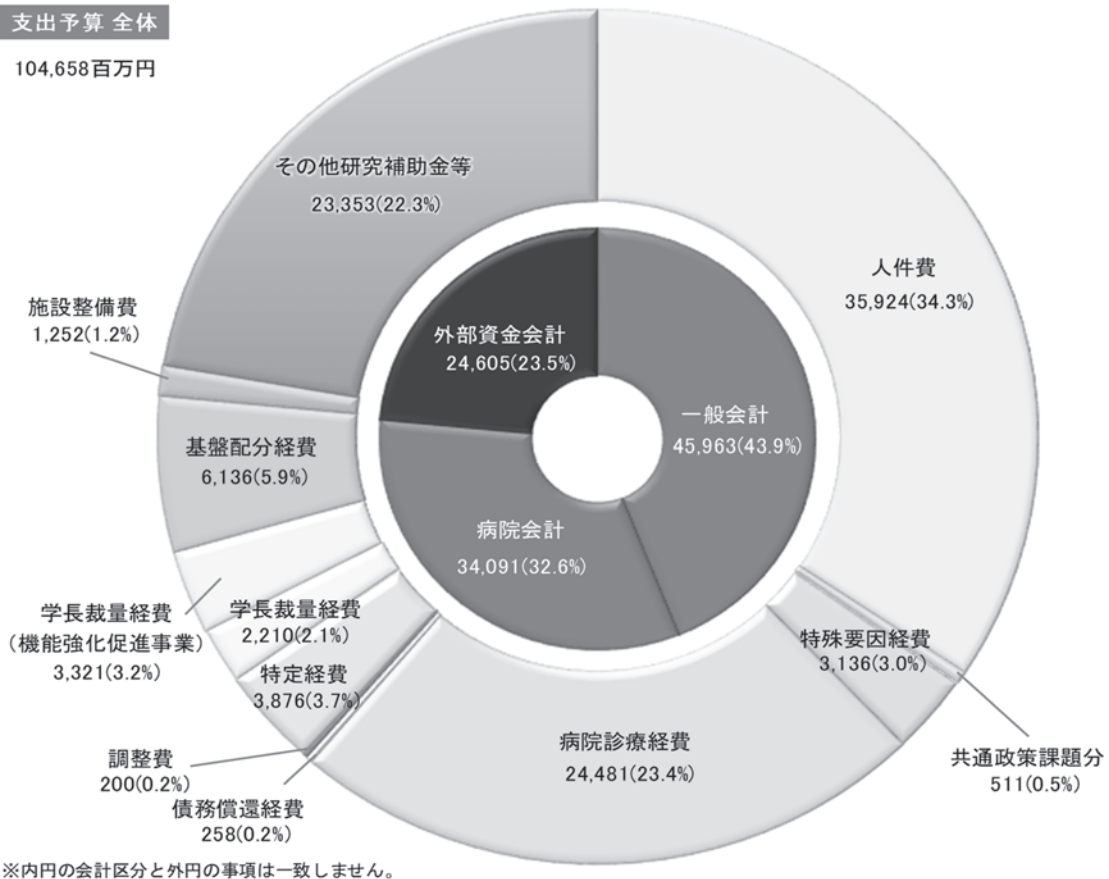
収入予算全体

104,658百万円



支出予算全体

104,658百万円



※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）



## 北海道と包括連携協定を締結

4月7日（水）、北海道と本学は、「人材育成の推進」、「SDGsの推進」、「経済・産業の振興」、「Society5.0」の実現等について、お互いが有する様々な資源を提供し、双方の強みを発揮することによって北海道の活性化に資することを目的として、包括連携協

定を締結しました。

調印式には、北海道から鈴木直道知事と藤原俊之総務部長、本学からは寶金清博総長と吉見 宏理事・副学長が出席し、鈴木知事と寶金総長からそれぞれ、今後の展望が述べられました。本学は、この協定に基づき、北海道の

人材育成や産業振興、地域社会の発展に寄与する取組の一層の推進を図ります。

（総務企画部総務課）



今後の展望を述べる寶金総長



協定書を手にする寶金総長（右）と鈴木知事（左）



右から、吉見理事・副学長、寶金総長、鈴木知事、藤原総務部長

# Academic Fantasia 3月は8名の研究者が 高校生に向けた講義を実施

本学の第一線の研究者が、出張講義等を通じて高校生に研究を伝える「Academic Fantasia (アカデミックファンタジスタ)」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと、平成24年度から実施しています。3月は8名の研究者が出張講義やオンライン講義を実施しました。2020年度

は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行い、オンライン開催も交えて、15名の研究者が7つの高校で600名を超す生徒に講義を実施しました。「Academic Fantasia (アカデミックファンタジスタ)」は次年度も実施する予定です。多くの教職員の方々の参加をお待ちしています。

Facebookや研究広報ウェブサイト「リサーチタイムズ」でも講義レポート等を随時更新していきます。ぜひご覧ください。

@Hokkaido.univ.taiwa

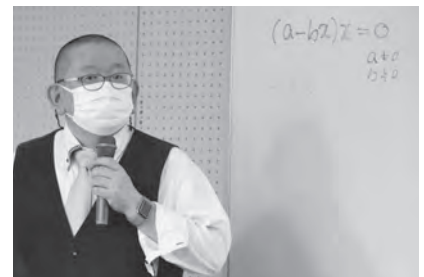
<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasia/>



事業報告広告 (2021年3月30日 北海道新聞朝刊)

## 「様々な現象を数式にしてみよう！」

- 講 師：長山 雅晴 教授 (電子科学研究所附属社会創造数学研究センター)
- 日 時：令和3年3月12日 (金) 10:40-12:10
- 会 場：札幌創成高等学校
- 参加生徒：2年生40名



あらゆる現象を数式で表現できると語る長山教授

## 「がんと薬物療法、最新の治療開発」

- 講 師：川本 泰之 助教 (北海道大学病院 腫瘍センター)
- 日 時：令和3年3月16日 (火) 15:45-16:35
- 会 場：札幌光星高等学校
- 参加生徒：1-2年生26名



がんの薬物療法について解説する川本助教

### 「動くがんを狙い撃つ！精密放射線治療」

- 講 師：清水 伸一 教授（医学研究院）
- 日 時：令和3年3月16日（火）16：45－17：35
- 会 場：札幌光星高等学校
- 参加生徒：1－2年生26名



動体追跡陽子線治療装置について語る清水教授

### 「いま学ぶアイヌ民族の歴史－先住民研究で世界を繋ぐ－」

- 講 師：加藤 博文 教授（アイヌ・先住民研究センター）
- 日 時：令和3年3月17日（水）10：40－12：10
- 会 場：札幌創成高等学校
- 参加生徒：2年生34名



発掘された遺物をもとに先住民の歴史と文化を紹介する加藤教授

### 「金属ナノ粒子への興味とSDGs－合金触媒と低温接合－」

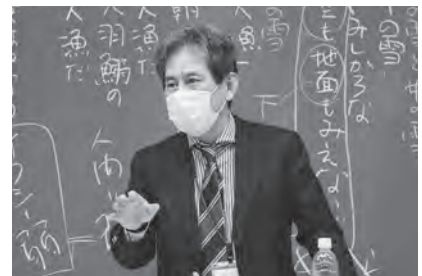
- 講 師：米澤 徹 教授（工学研究院）
- 日 時：令和3年3月19日（金）16：40－18：20
- 会 場：北海高等学校
- 参加生徒：1－2年生24名



金属ナノ粒子の性質、機能について解説する米澤教授

### 「文学を平べったく味わう」

- 参加講師：竹内 康浩 教授（文学研究院）
- 日 時：令和3年3月19日（金）16：40－18：20
- 会 場：北海高等学校
- 参加生徒：1－2年生9名



文学作品の読み解き方を伝える竹内教授

### 「AIは何を問えるか？」

- 講 師：池田 文人 教授（高等教育推進機構）
- 日 時：令和3年3月23日（火）13：00－14：30
- 会 場：札幌日本大学高等学校
- 参加生徒：1－2年生8名（オンライン参加8名）
  
- 日 時：令和3年3月30日（火）10：30－12：00
- 会 場：北海道旭川東高等学校
- 参加生徒：1－2年生19名



AIと人の思考の仕方の違いについて語る池田教授

### 「鳥類から考えるコミュニケーションの進化」

- 講 師：相馬 雅代 准教授（理学研究院）
- 日 時：令和3年3月23日（火）14：40－16：10
- 会 場：札幌日本大学高等学校
- 参加生徒：1－2年生8名（オンライン参加8名）
  
- 日 時：令和3年3月30日（水）13：00－14：30
- 会 場：北海道旭川東高等学校
- 参加生徒：1－2年生8名



人の音楽と鳥のコミュニケーションには類似点もあると話す相馬准教授

（総務企画部広報課）

## 研究者のためのスキルアップセミナー⑭ 「オンラインコミュニケーションのかくし味」を開催

研究者のためのスキルアップセミナー⑭「オンラインコミュニケーションのかくし味」を3月4日（木）、オンラインで開催しました。当日は100名以上の教職員や学生が参加し、盛況のうちに終了しました。

講師2人の講演に先立ち、吉見宏理事・副学長から開会の挨拶をいただきました。続いて、高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター（OEC）の重田勝介准教授が「OEC

のお〜い知ってる？オンライン教育【特別編】」と題して講演し、オンライン授業やセミナーを実施する際に役立つノウハウを紹介しました。その後、立教大学 理学部 共通教育推進室（SCOLA）の古澤輝由特任准教授が「よりうまく？！オンラインコミュニケーションの仕込み方【実践編】」と題し、双方向コミュニケーションを促す為のテクニックやツールについて実演を交えながら、講演しました。

参加者からは、「知らないノウハウがたくさんあり、もっとお話を伺いたかったです。第2弾を期待しております」、「参加者に質問やコメントを促す方法、便利ツールなど、大変参考になりました」、「このセミナーで学んだことを、今後のオンライン授業、イベントで実践してみたいと思います」などの声がありました。

（総務企画部広報課）

### 【開催概要】

タイトル：研究者のためのスキルアップセミナー⑭

「オンラインコミュニケーションのかくし味」

日時：令和3年3月4日（木）17時30分～19時00分

会場：オンライン開催（Zoom）

対象：本学の学生及び教職員（非常勤教職員含む）

主催：大学力強化推進本部，広報室

共催：高等教育推進機構 オープンエデュケーションセンター，URAステーション



挨拶する吉見理事・副学長



講演する重田准教授



講演する古澤特任准教授



オンラインセミナーの様子



セミナー参加者で記念撮影

# 研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」を開設

総務企画部広報課学術国際広報担当ではこのたび、本学の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」を開設しました。インタビュー記事やイベントレポート、映像などを通して、研究者たちが幅広いフィールドで活躍する様子を随時配信していきますので、ぜひご覧ください。

## 研究広報特設サイト

「リサーチタイムズ」URL

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/>



## 研究紹介映像

「リサーチタイムズvideo」URL

<https://youtube.com/playlist?list=PLCA83PefXC1h0ihqv8ApRPT0eNqUH2QAz>



こちらも合わせてご覧ください。

(総務企画部広報課)



リサーチタイムズストップページ



インタビュー取材の様子



北大公式ウェブサイト内の掲載箇所



# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報  
基金累計額（3月31日現在）

29,365件 5,440,236,575円

## 3月のご寄附状況

法人等23社、個人229名の方々から106,751,498円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

岩見沢市立総合病院、エア・ウォーター・ライフサポート株式会社、栄研化学株式会社、株式会社エルムプロジェクト、株式会社OHEN、おきつ歯科医院、特定非営利活動法人 環境リレーションズ研究所、北ガス囲碁同好会、社会医療法人仁生会 西堀病院、株式会社日水コン、ニューオータニイン札幌、株式会社日立製作所、北海道ガス株式会社、北海道大学校友会エルム、北海道中央労災病院

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青木 俊介	網島 優	荒田キヌコ	五十嵐 毅	石井 哲夫	稲葉 猛志	乾 賢
猪股 路子	井原 博	今村 道明	入澤 秀次	蛭澤 一	縁記 和也	大塚 紀幸	大原 正範
岡崎 寛太	奥田 英信	長内 康志	小田原一史	金川 眞行	金子豊三郎	川瀬 誠	河本 充司
木村 雅一	木村 亮	工藤 隆夫	窪田 朋代	久米 尚雄	藏田 伸雄	黒川 一哉	小坂 則生
越野 武	小林 賢人	齊藤 栄子	齊藤 晋	齊藤 久	斎藤瑠衣子	坂本 大介	坂本 大蔵
櫻庭 衡	澤井 一彦	三升畑元基	志済 聡子	申 偉秀	菅原 新也	杉江 和男	鈴木 貴之
鈴木 拓幸	関崎 勉	瀬名波栄潤	高岡 和夫	高橋 弘	田原 泰夫	土家 琢磨	土屋 裕
角井 淳一	寺澤 睦	戸田 純子	戸田 智弘	富岡 祐子	富田 裕	豊田 威信	鳥潟 肇
長尾 公彦	中塚 英俊	中西 孝	中野 光	中村 克宏	西田 実弘	野口 伸一	乃生 勲
蓮池 清美	花田 秀一	林 倫太郎	原田 博幸	菱川 龍樹	福士 幸治	福富 京	福永 悟郎
福原 正和	星野 フサ	本村 文宏	前田 博	松田 健一	松野 正吾	松原 謙一	松本伊智朗
三浦 國子	三澤 信博	宮田 信幸	村上 泰一	村上 幸夫	矢嶋 剛	山本 高志	横山 考
吉田光太郎	吉田 広志	渡部 直己					

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

#### （法人等）

おきつ歯科医院、特定非営利活動法人 環境リレーションズ研究所、社会医療法人仁生会 西堀病院、株式会社日水コン、北海道中央労災病院

#### （個人）

今村 道明、大塚 紀幸、高橋 弘、中西 孝、蓮池 清美、菱川 龍樹、星野 フサ、松野 正吾

---

## ご寄附のお申し込み方法

---

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

### ①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

### ②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

### ④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）



## 「みらいIT人財」の推進に関する連携協定締結式を実施

3月25日（木）、工学研究院フロンティア応用科学研究棟において、北海道・札幌市・北海道大学・株式会社ニトリホールディングスの4者による「みらいIT人財」育成の推進に関する連携協定締結式を実施しました。この連携協定は、ITを活用して地域課題を解決できる人材である「みらいIT人財」を育成することを目的とした

もので、①データ駆動型の新しい社会デザインに資する研究の推進、②大学・大学院におけるデータサイエンス等の高度情報科学分野の人財育成、③小中学生・高校生など若年層に向けたIT人財育成を主たる連携の内容として取り組んでいきます。

連携協定締結式では、まず長谷山美紀副学長から協定の概要について説明

があり、鈴木直道北海道知事、秋元克広札幌市長、寶金清博北海道大学総長、似鳥昭雄株式会社ニトリホールディングス代表取締役会長による調印後、各人から今回の連携協定締結に際し、今後の展望や期待などが述べられました。

（学務部教育推進課）



連携協定締結式の様子

## 新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙

令和2年度新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を3月24日（水）に高等教育推進機構にて執り行いました。

修了式は、基礎プログラム大学院教育コース修了生8名のうち6名、及びオナーズプログラム大学院教育コース修了生10名のうち8名が出席する中、弐 和順副校長から修了生代表の2名に修了証書が授与されました。また、オナーズプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた2名に

対し、優秀賞を授与しました。

続いて、弐副校長から挨拶が行われ、「グローバル化の進む社会で逞しく生き抜き、そして社会に貢献するためには、これまでの時代よりも一層多くの能力が求められる」ことに触れ、基礎プログラム修了生に対しては、「オナーズプログラム入校の上、修得した知識やスキルの応用と発展をめざしてほしい」との激励の言葉が贈られ、またオナーズプログラム修了生に対しては「高度な専門性とそれらを「活かす力」を存分に発揮して、グロ

ーバル化社会において自らの道を切り拓くと共に、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを心より祈念いたします」との期待の言葉が贈られました。

修了生代表の挨拶として、オナーズプログラム代表の山瀬和葉さんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについて挨拶を行い、修了式は終了となりました。

（学務部教育推進課）

### 優秀賞受賞者

山瀬 和葉（工学院）

池田 拓誉（文学院）

修了証書・優秀賞及び記念品の授与



小山正登さん



池田拓誉さん

修了生代表による挨拶



山瀬和葉さん

## パイプオルガンの修理を実施

3月15日（月）から18日（木）にかけて、クラーク会館講堂に設置されているパイプオルガンの修理を実施しました。

修理は、公益財団法人杉野目記念会（理事長：杉野目浩本学名誉教授）から本学フロンティア基金への寄附により実現したもので、（株）マナオルゲルバウ（東京都町田市）に依頼し、同社のマイスターである松崎譲二さん、中里 威さんが中心となって、往事の音色を取り戻すことが出来ました（写真1）。

本学のパイプオルガンは、創立80周年記念事業として、大規模なものとしては国立大学初の課外活動施設（現クラーク会館）が構想され、杉野目晴貞元学長の「これからの総合大学は学問の場であると同時に教養文化人として

芸術を愛する者を育てる場所であるべき」との理念により、西ドイツ（当時）ボン市のパイプオルガンメーカーであるヨハネスクライスオルガン製作合資会社に発注され、昭和41年（1966年）に本学クラーク会館講堂に設置されました（写真2）。

設置に当たっては、西ドイツから同社のオルガン技師が来日し、日本人技師と共に行ったと伝わっており、その当時を忍ばせるものがオルガンの内部に今も残っています（写真3）。

国立大学法人でパイプオルガンを保有しているのは、芸術系大学を除くと、本学の他には東京大学のみであり、道内においては、札幌コンサートホールKitaraに次ぐ大きさを誇るもので、過去には本学の主催で世界的な演奏家を招き演奏会を実施していま

た。

また、本学では、このパイプオルガンを活用して、教養科目で音楽に関する授業を開講している他、本学学生公認団体である本学パイプオルガン研究会の活動と発表の場になっています。残念ながら昨今のコロナ禍により、現在パイプオルガン研究会によるコンサートは行われていません。

なお、今回の修理がきっかけとなり、杉野目晴貞元学長の遺品の中から、パイプオルガンに纏わる品が発見され、ご子息の杉野目浩名誉教授から本学文書館に寄贈されました（写真4）。

（学務部学生支援課）



写真1 作業の様子  
左は、パイプオルガン研究会会長の学生。オルガンに触れているのは、マナオルゲルバウ社の中里さん。

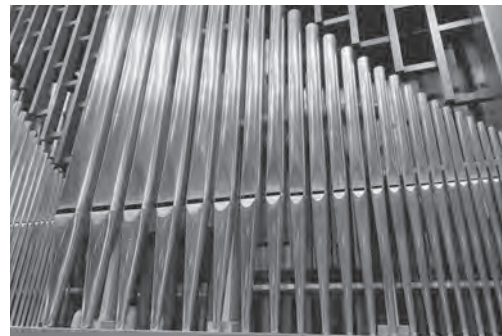


写真2 オルガンのパイプ部分

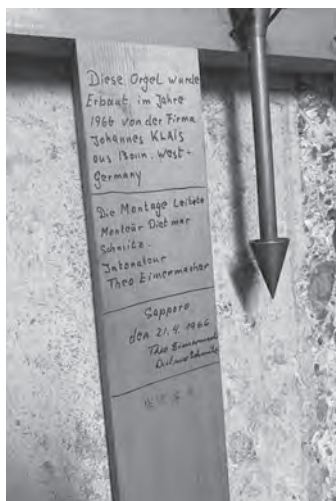


写真3 オルガンビルダーたちの記念の署名。  
金属パイプ部分は、西ドイツで製造され、船で小樽に荷揚げされ、本学に届けられこの場で組み上げられたとのこと。



写真4 オルガン設置を記念して、ヨハネスクライス社より贈られたオルガンのパイプを象った記念品。杉野目晴貞元学長の遺品の中から見つかり、このたび本学文書館に寄贈された。

## 令和2年度北海道大学大塚賞受賞者の決定

令和2年度北海道大学大塚賞受賞者10名を決定しました。

大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。「大塚賞」という名称は、本学名誉教授の大塚榮子先生の名に因んでいます。

今回は令和2年度内の博士課程修了

予定者9名及び既修了者1名、計10名が受賞者として選ばれました。今年度の授与式は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止しましたが、受賞者には、賞状と奨励金が贈呈されました。

(学務部学生支援課)

### 受賞者

工学院	小林香苗
工学院	戸田賀奈子
農学院	菊池麻子
獣医学院	大谷祐紀
国際感染症学院	中村有紀子
水産科学院	閻乃箏
医学院	笹森瞳
生命科学院	石原すみれ
保健科学院	蘇雅
環境科学院	難波瑞穂

## 令和2年度北海道大学クラーク賞受賞者の決定

令和2年度北海道大学クラーク賞受賞者13名を決定しました。

北海道大学クラーク賞は、平成27年度末で解散した公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が、特に優秀な学業成績を修め、かつ、人格に優れた本学学部卒業予定者を対象に実施していたクラーク賞を本学が継承して、平成28年度から北海道大学クラーク賞として制定した新しい賞です。

北海道大学クラーク賞は、北海道大

学を卒業する学部学生の中から、所属の学部において、最も優秀な学生であると推薦された1名を表彰するものです。

今年度の授与式は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止しましたが、受賞者には、所属学部等において賞状盾が手交されるとともに、奨励金が贈呈されました。

(学務部学生支援課)

### 受賞者

文学部	嶋田多希
教育学部	岡本愛香
法学部	佐々木絃
経済学部	高山優希
理学部	山田裕也
工学部	坂井達成
農学部	鈴木花奈子
獣医学部	山下晃矢
水産学部	東坂和樹
医学部医学科	岸岡歩
医学部保健学科	相馬希帆
歯学部	宗片勇史
薬学部	上原里穂

## 令和2年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—被表彰者の決定

令和2年度北海道大学鈴木章記念賞—自然科学実験—の第2学期被表彰者4名を決定し、第1学期とあわせて今年度8名の受賞が決定しました。

本表彰制度は、鈴木章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設されたもので、今回を含め65名の学生に授与されています。賞の内容は、第1年次学生が履修する全学教育科目「自然科学実験」において、特

に優秀な成績を修め、かつ本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。

今年度の授与式は新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止しましたが、被表彰者には、賞状と記念品が贈呈されました。

(学務部学生支援課)

### 被表彰者

#### 【令和2年度第1学期被表彰者】

19組	北原樹
27組	南野友弥
30組	仲條智陽
32組	越川藍

#### 【令和2年度第2学期被表彰者】

38組	宮島凜
44組	正田晟
47組	安部恵理子
50組	桑原拓也

## 令和2年度北海道大学企業研究セミナー（オンライン）を開催

キャリアセンターでは、北海道大学校友会エルムとの共催により、3月1日（月）から11日（木）までの平日9日間にわたり、「令和2年度北海道大学企業研究セミナー」をオンラインで開催しました。

本セミナーは、本学学生の地理的ハンディキャップを解消し、学生が主体的に業界・企業研究を行うことで「就職活動へ向けての礎を築く」ことを目的に平成16年度から開催しています。

例年はクラーク会館においてブースを設置し、対面で開催していましたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインとしたところ、全国から本学学生の採用に積極的な延べ538の企業・団体の参加及び約4,900名の学生が視聴しました。

また、本セミナーにあわせ、本学学生の採用に積極的な77の企業・団体からオンデマンド動画配信の申込をいただき、こちらは3月1日（月）から1

か月間、ELMS（教育情報システム、学内限定）で学生が視聴できるようにしました。

キャリアセンターでは、引き続き、各種の就職ガイダンス・セミナーや個別相談等を通じて、学生の就職支援を継続していきます。

（キャリアセンター）



構内循環バスによる広報

# 第8回北海道大学オープンファシリティシンポジウムをオンラインで開催

1月22日（金）に創成研究機構グローバルファシリティセンター（GFC）主催、大学力強化推進本部共催で、第8回北海道大学オープンファシリティシンポジウムをオンラインで開催しました。当初の予定では、現地とオンラインのハイブリッドで開催する予定でしたが、札幌は昨年末に新型コロナウイルス感染拡大の第3波があったため、オンラインのみに切り替えての開催となりました。

GFCは大学の研究を支える研究基盤の強化、研究環境の充実をミッションとし、研究機器の共用および研究支援を推進しています。本シンポジウムでは、令和2年度採択の先端研究基盤共用促進事業「北大コアファシリティ構想」及び同年度採択の「先端研究設備整備補助事業（研究活動再開等のための研究設備の遠隔化・自動化による環境整備）」の初年度報告のほか、「ニ

ューノーマル時代の新たな研究・教育活動の在り方を考える」をテーマに、コロナ禍における教育・研究活動について、文部科学省、他大学の関係者にも参加いただき、パネルディスカッションが行われ、学内外から190名の方に参加申込をいただき約8割の方が実際に参加しました。なお、本シンポジウムは研究基盤イノベーション分科会主催、文部科学省共催の『研究基盤EXPO2021』の一環としても開催されました。

開会の辞は北海道大学増田隆夫理事・副学長により行われ、基調講演では、文部科学省科学技術・学術政策局研究開発基盤課課長補佐の下須賀雅壽氏から「研究基盤政策のこれまでとこれから」という演題で、第5期科学技術基本計画（2016～20年度）期間中の取り組みから見てきた成果と課題及び研究DX（デジタルトランスフォーメーション）におけるインフラ整備やコアファシリティの構築など、最新の研究基盤政策について講演いただきました。

講演では、グローバルファシリティセンター網塚 浩センター長から「北大コアファシリティ構想先端研究設備整備補助事業」という演題で、北大コ

アファシリティ構想の概要と研究活動再開等のための研究設備の遠隔化・自動化による環境整備事業の実施事例について講演いただきました。

また、技術支援本部五十嵐敏文副本部長から「北大コアファシリティ構想事業 技術支援人材育成プログラムについて」という演題で、技術支援本部技術支援人材育成プログラム実施専門部会において実施予定の、北大コアファシリティ構想事業人材育成プロジェクトについて講演いただきました。

続いて東京工業大学戦略的経営オフィス教授／総括理事・副学長 特別補佐 江端新吾氏から『東工大コアファシリティ構想 - 教職員を「元気」にするTeam 東工大型革新的研究開発基盤イノベーション-』と題して、東京工業大学の研究基盤戦略について報告が行われました。

その後、GFC事業経過報告としてGFCの1年間の主な活動及び今後の方向性に関して報告がありました。

引き続き、網塚センター長による進行のもと、パネルディスカッションが行われました。パネリストには、先の下須賀氏、江端氏、五十嵐副本部長に加え、出村 誠教授、大谷文章教授を迎え、「ニューノーマル時代の新たな



増田隆夫理事・副学長による開会の辞



文部科学省科学技術・学術政策局下須賀研究開発基盤課課長補佐による基調講演



技術支援本部 五十嵐副本部長による講演



東京工業大学戦略的経営オフィス 江端教授／総括理事・副学長 特別補佐による講演



司会を務める機器分析受託部門 岡 征子部門長

研究・教育活動の在り方を考える」というテーマで討論が行われました。最後に、GFC網塚センター長による閉会の辞をもって閉会となりました。

本シンポジウムのアンケートの回答からは、下須賀氏の基調講演をはじめとし、各報告それぞれについて参加者から反響があったことが分かり、今後の各機関における取り組みの参考にな

ったことと思われます。また、シンポジウム全体を通して、9割以上の方から、内容に『満足』『まあ満足』との回答が得られました。参加者数が過去最大となった今回のシンポジウムは、「オンラインで参加しやすかった」という回答からも開催形式がオンライン開催という初めての試みに対する高評価が見て取れます。「北大の先進的な

取り組みに感動しました」「これからの技術職員像について盛り上げていただきたいです」などの意見も寄せられ、北海道大学及びGFCの今後の取り組みに対する期待、情報・課題の共有及び情報発信の重要性がうかがえました。

(創成研究機構)



パネルディスカッションの様子



GFC網塚センター長による閉会の辞

## 「onちゃん卒業式」を執り行いました

産学・地域協働推進機構は、3月25日(木)、総長室において「onちゃん卒業式」を執り行いました。

本式は平成29年3月29日(水)に締結した本学と北海道テレビ放送株式会社との「連携協定プログラム実施協定」の一環として、北海道テレビ株式会社のマスコットキャラクター「onちゃん」を特別学部学生として平成29年度に本学に迎えたことに由来します。

新型コロナウイルス対策のため、平成29年に行った入学セレモニーのような同級生とのセレモニーは実施せず、総長室にて学位記授与を行いました。

寶金清博総長より直々に学位記を授与いただき、関係者に見守られる中での温かい式となりました。

onちゃんは在学中の4年間、大学祭等の行事参加や、学生生活の様々な体験を通じて、本学や北海道の魅力を発

信してくれました。卒業後は北大OBとしての活躍に期待します。

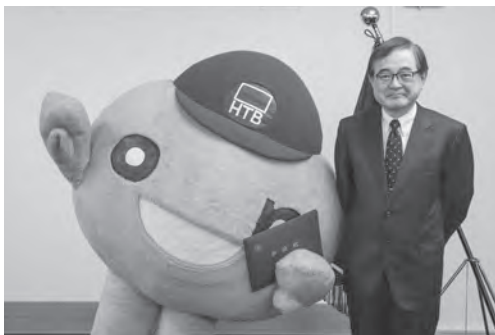
<これまでのonちゃん学生生活の配信>  
ビデオオンデマンド「onちゃんキャンパスライフ」

[https://hod.htb.co.jp/pg/pg\\_oc](https://hod.htb.co.jp/pg/pg_oc)

Instagram「onちゃんキャンパスライフ」

@onchan\_campuslife

(産学・地域協働推進機構)



onちゃんと寶金清博総長



未来に向けて気合いを入れるonちゃん

# スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業中間評価で「A」評価を獲得

本学は、平成26年度に採択された文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業（事業期間：平成26年度～令和5年度）」の令和2年度中間評価において、SからDの5段階評価のうちA評価を獲得しました。

本事業の採択構想である「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ（HUCI）」では、1つのガバナンス強化プラン、4つの教育改革プランである「新渡戸カレッジ」、「国際大学院群の新設」、「海外ラーニング・サテライト」、「Hokkaidoサマー・インスティテュート」、及び4つのシステム改革プランを柱とした「1-4-4改革

プラン」をベースとしており、これらの取組が着実に進んでいることが評価されました。

今回の中間評価で主に評価された点は、以下のとおりです。

- 全体として改革プランは当初の計画に沿って着実に進んでおり評価できる
- Hokkaido サマー・インスティテュートは、招へい研究者数、参加学生数など目標を上回る取組に発展しており注目に値する
- 新渡戸カレッジについても、令和元年度までに学部生543名、大学院生402名の修了を認定し、着実に成

果を挙げている

- 海外ラーニング・サテライトの展開や海外機関との共同教育プログラムの積極的な開拓も進められている
- 外国籍教員数及び海外からの留学生数や国際共著論文率が目標を超えて増加し、教育研究の国際化が図られている

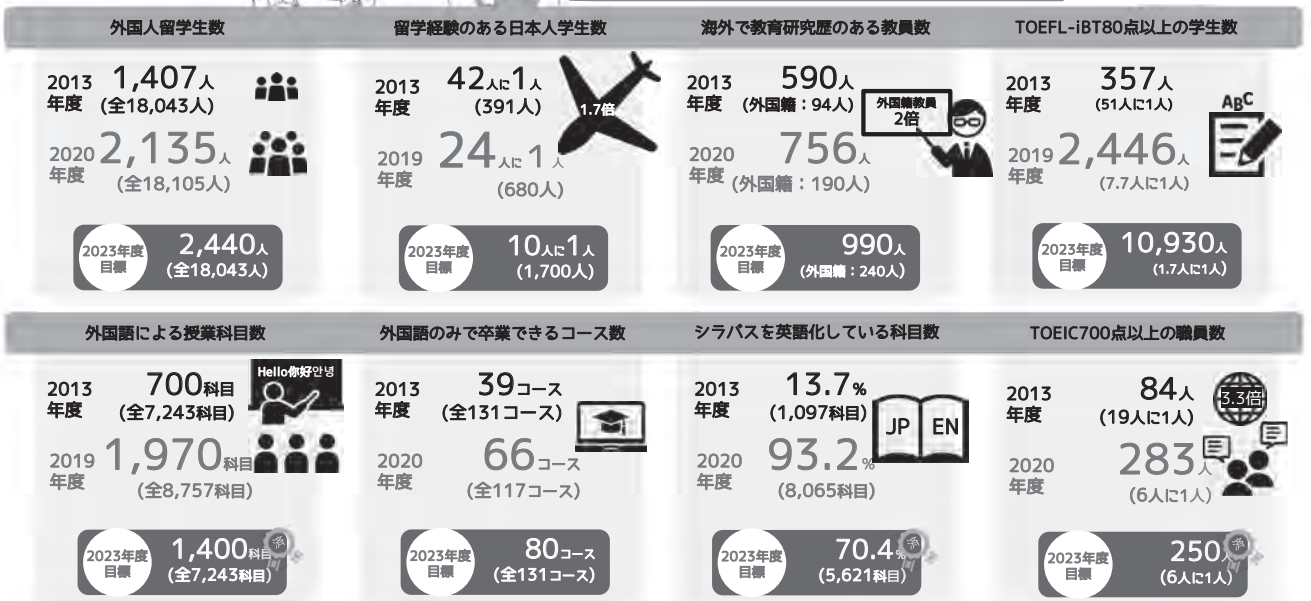
2026年の創基150年に向けてさらに取組を充実させ、「世界の課題解決に貢献する人材の育成」を目指すとともに、国際通用性の向上と国際競争力の強化を推進します。

（国際部国際企画課）

## 数字で見るSGUの成果 —共通指標編—



本学は、世界レベルの教育研究を行うトップ大学として文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）」に採択され、採択構想「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ」の実現を目指しています。（事業期間：2014～2023年度）



数字で見るSGUの成果



# 令和2年度北米ポートランドオフィス事業 『English through Sustainability』に学生3名が参加

2月8日（月）～26日（金）の間、オンラインで開催された、ポートランド州立大学集中英語プログラム『English through Sustainability Remote Programme（持続可能性を通しての英語 リモート・プログラム）』に、本学経済学部の学生3名が参加しました。ポートランド市及び同州立大学に優位性があり、本学が推進してきた分野であるサステナビリティを通して英語を学ぶという3週間の本プログラムを、令和2年度の北米ポートランドオフィスの事業の一環と位置づけました。

本学からは経済学部2年（当時）の小堆幹生さん、木下立也さん、吉岡琴音さんが参加し、韓国の大学生をコースメイトに、前半は集中英語プログラムの教師やポートランド州立大学

院生との一対一の会話練習、小さなグループでのディスカッションを経験し、後半はチームを組む韓国の大学生とともに、それぞれの選定したテーマの下、ポートランド州立大学内外にオンライン・インタビューを敢行し、インタビュー相手も見守る中、最終日の発表を終えました。

8歳からパワーポイントに触れるという、ICT教育先進国のコースメイトから効果的なスライド作りを学び、彼らと一緒に、大学関係者へのインタビュー依頼メールを書き上げ、発表台本を作り、Zoomでの発表練習を繰り返し、3週間を終えた3名は、自信と向上心、適応力を得たようでした。

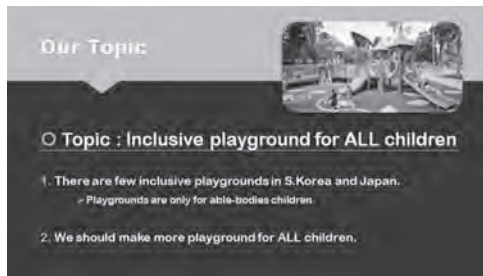
教師が英文依頼メールを添削する等のバックアップ体制があるとはいえ、学生が大学内外に直接インタビューを

することが成り立つのは、ポートランド州立大学の活動が地域コミュニティに広く認知され、正に街の大学であるところにもよると思われます。また、学生3名もコースメイトと協力し、「大気汚染」「すべての人が遊べる遊び場」「ゴミの削減」というそれぞれのテーマについてよく調べ、チームに貢献し、あまり経験したことのないインタビューでも多くの情報を聞き出すことに成功していました。コロナ禍のオンライン派遣という形態で得た経験を、今後に役立てることを期待しています。

（国際連携機構）



3週間のオンライン研修を終えて、報告準備をする3名



発表スライドの一部



研修フライヤー

# 「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」によるITオンライン日本留学フェアを開催

本学ロシアモスクワオフィスでは、文部科学省の委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として、2月27日（土）に「オンラインIT日本留学フェア」を開催しました。本フェアには、本学のほか4の大学や語学学校等が参加しました。日本留学といえば、日本文化や日本語、アニメを始めとするサブカルチャー等に高い関心を示す学生が多い中、理工学系の学生、特にIT分野において留学後も高度外国人材として我が国に定着するような学生を誘致できるかも重要な課題となっています。そのため、今回はロシアにおいてIT分野での日本留学の需要を再確認する意味もあり、特定分野に特化した形での留学フェアを初めて実施しました。開催に当たっては、参加者数の伸び悩みが懸念されましたが、延べ約270人を動員し、当該分野においても日本留学に対して一定の需要があることを示す結果となりました。また今回は、土曜日開催としたことで留学を目指す学生のみならず、保護者の参加もあったほか、IT分野での就職を望む社会人の参加も多く、こ

れまで開催した留学フェアに比べ日本語学校や専門学校へ高い関心が寄せられたことが特徴でした。

今回、事前登録者から集計したアンケートでは幾つか興味深い結果が得られました。授業は何語で受けたいかとの質問には、理工学系学生対象だったため、当然「英語」との回答が突出すると考えられましたが、実際は、日本語39%、日・英の両方52%、英語9%という結果になりました。日本語学習経験についても有りが68%、無しが32%であり国際交流基金の日本語教室、家庭教師や独学での学習など趣味で日本語を勉強する人も多いことが判明し、文系＝日本語プログラム、理系＝英語プログラムという概念が覆され、日本留学に関心を抱くロシア人の向学心の高さを目の当たりにするところとなりました。その他、留学フェアに求める情報では、卒業後のキャリア・就職の可能性が43%、次いで願書提出方法などの入学手続きに関する情報が30%でした。また、留学先を選定する際の基準としては、就職の可能性、勉強や研究環境の良さがそれぞれ51%と23

%で上位に来ており、2018年に本事業を開始した当初に最も需要のあった「奨学金」は僅か7%という結果になっていることを考慮すると、徐々に奨学金ありきの考えから将来設計として「日本へ留学する意義や費用対効果について」を現実的に考える層が増加している可能性が指摘できそうです。

出口、すなわち就職を見据えた留学は、今後も確実に留学生獲得のキーワードになると言えます。北海道大学ロシアモスクワオフィスでは日本留学の魅力アピールするため、今後も大学、日本語学校、専門学校はもちろん、企業とも協力し、積極的に留学フェアを開催していきます。

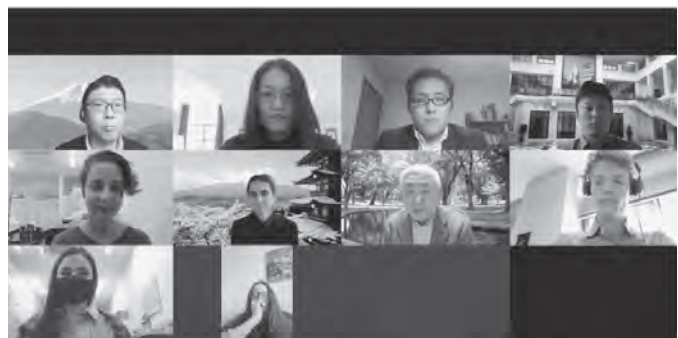
## 参加機関

北海道大学、北見工業大学、電気通信大学、東京国際大学、奈良先端科学技術大学院大学、早稲田文理専門学校、ライセンスアカデミー、Study in Japan Guide、株式会社テクノソリューション

(国際部国際連携課)



留学フェアポスター



フェア参加機関登壇者

# 「日本留学海外拠点連携推進事業（ロシア・CIS）」による オンライン日本留学フェアを開催

本学ロシアモスクワオフィスでは、文部科学省委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として、3月4日（木）に「オンライン日本留学フェア」を開催しました。本フェアには、同事業採択校である本学、筑波大学および新潟大学の他、16の大学や語学学校が参加しました。日本留学に関心のある参加者は計19機関のプレゼンテーションを視聴するとともに、オンラインで参加した各大学関係者とその場で質疑応答するなどインタラクティブなフェアとなりました。

モスクワ時間の午前9時30分（日本時間15時30分）から開始された本フェアは、在ロシア日本国大使館の山本敏生公使（広報文化部長）の挨拶で幕を開け、本学を含む計19機関（国立・私立大学、日本語学校）の関係者は各機関の特色や各種奨学金、英語プログラム等の内容を含んだプレゼンテーションをオンラインで行いました。約4時間半に及んだ本フェアは、本学ロシアモスクワオフィス所長の加藤博文教授（アイヌ・先住民研究センター長）の

閉会の挨拶をもって閉幕しました。

約300人を動員した本フェアには、学部生（53%）以外にも、修士課程（10%）や博士課程（3%）に在籍する院生、さらには社会人（31%）の参加がありました。また、今回のフェアはヨーロッパ・ロシアの学生等を対象にしたため、当該地域からの参加が74%を占めました。モスクワやサンクトペテルブルといった大都市からの参加者が多かった（47%）ものの、ウラル山脈以東のシベリアや極東地域等（17%）、さらに独立国家共同体諸国（CIS）を中心とするロシア国外（9%）からの参加もありました。フェア視聴登録時に実施したアンケートの結果によれば、参加した現役学生や社会人の多くは入学手続きや奨学金に係る情報を求めており、自身のキャリアアップを目指した参加が多かったようです。

留学目的については、参加者の多くが学位取得（学士号（12%）・修士号（27%）・博士号（13%））や日本語能力の向上（21%）を挙げていました。

留学後には日本企業への就職を希望する声が圧倒的に多い（43%）ことから、本事業では、日本留学に係る情報のみならず、留学後のキャリアパスを含めた魅力的な情報を提供できるよう、企業との連携も進めロシアからの留学生誘致に取り組んでいきます。また、大都市の他、日本への興味関心が比較的高い地域からの参加を促すためにも、オンラインでの利点を生かした広報活動について検討し実施していきます。

## 【参加機関】

北海道大学、新潟大学、筑波大学、流通科学大学、札幌ランゲージセンター、名古屋大学、近畿大学、東海大学、立命館アジア太平洋大学、南山大学、東京国際大学付属日本語学校、大原日本語学院、北見工業大学、京都先端科学大学、大阪大学、秋田大学、京都大学、東京外国語大学、Study in Japan Guide（ロシアの民間企業）

（国際部国際連携課）



ロシアモスクワオフィス 徳田特任講師のプレゼンテーション

## 北海道大学交流デー（オックスフォード大学）を開催

オックスフォード大学との共同研究及び学生交流を更に促進するため、3月16日（火）、17日（水）、23日（火）の3日間に渡って、北海道大学交流デーを開催しました。

初日となる16日（火）の全体会には、本学から横田 篤理事・副学長をはじめ教職員約60名が参加しました。全体会では、欧州ヘルシンキオフィス所長の田畑伸一郎教授が司会を務め、はじめに横田理事・副学長とオックスフォード大学考古学研究所所長であるChris Gosden教授から挨拶がそれぞれ行われました。続いて、薬学分野における研究・教育交流について大学院薬学研究院・国際連携研究教育局バイオサーフィス創薬グローバルステーション長の前仲勝実教授から、また、文化人類学・考古学分野における研究・教育交流についてアイヌ・先住民研究センター長の加藤博文教授から、それぞれ紹介が行われました。

分科会は、16日（火）、17日（水）及び23日（火）に国際連携研究教育局（GI-CoRE）の活動において特に密接

な関係を持つ薬学分野、文化人類学・考古学分野の2つの分野で以下の通り実施されました。

今後も国際連携機構では、英国をはじめとしたヨーロッパにおける教育・研究機関等との連携拡大、教員や学生

の相互交流の促進、卒業生ネットワークの構築を行い、幅広い面での交流を強化していきます。

（国際連携機構、大学院薬学研究院、アイヌ・先住民研究センター）



挨拶を行う横田理事・副学長



挨拶を行うGosden教授



全体会の様子

### 3月17日（水） 分科会（第1回GSD/GI-CoRE国際シンポジウム／第26回ファーマサイエンスフォーラム）

機能強化経費“バイオサーフィス国際連携研究教育拠点の構築”の下、令和2年3月にスタートした国際連携研究教育局バイオサーフィス創薬国際連携拠点GSD（Global Station for Biosurfaces and Drug Discovery）/GI-CoREのキックオフシンポジウムとして、第1回GSD/GI-CoRE国際シンポジウム・第26回ファーマサイエンスフォーラム・創薬センター合同シンポジウムを開催しました。

シンポジウムには、ウイルス・免疫学分野及び構造生物学の分野において顕著な業績のある、オックスフォード大学のSarah Rowland Jones教授、Simon Davis教授、ヘルシンキ大学のJuha Huiskonen准教授をお招きしました。第一線で活躍中の研究者から直接、最新の知見をお話いただき、創薬へ向けた戦略を知る貴重な機会となりました。また、本学教員3名が最先端イメージング研究から天然

化合物を利用したバイオサーフィス・創薬モダリティー研究の成果を発表しました。参加者は本学及びオックスフォード大学のほか、国内他大学を併せて計130名に上りました。（写真4）。学生を含む多くの参加者から様々な質問がオンラインのchatで寄せられ、講演者との間で活発な質疑応答が行われました。

今後、このシンポジウムで得た知見が新型コロナウイルス感染機構の解明



国際シンポジウムの様子



オンラインメンタリングの様子

や治療薬・ワクチン開発へとつながり、また、今回の講演者である3名の先生方には上述のようにGSD/GI-CoREメンバーとして、来年度以降もオックスフォード大学との間でより充実した交流・連携を行っていくことで、グローバルな創薬研究教育拠点へと発展する

ことが期待されます。

さらに、3月16日（火）には、GSDメンバーに参画予定のRowland Jones教、Davis教授、Huiskonen准教授（P31写真右）に学部生及び大学院生の指導をオンラインでいただきました。研究室に配属済みの学生たち

が英語で自分の研究を説明し、それに対してアドバイスをいただく形で少人数のオンラインメンタリングとして実施しました。このオンライン指導を来年度のHSIサマーインスティテュートの講義にも活かす予定です。

### 3月23日（火） 分科会（オンラインワークショップDiscourse on Cultural Diversity: Beyond Archaeology and Anthropology）

4月1日（木）発足のGI-CoRE 8 番目のグローバルステーションGSI（先住民・文化的多様性研究グローバルステーション）へとつながるオンラインワークショップDiscourse on Cultural Diversity: Beyond Archaeology and Anthropology を行い、18名が参加しました。

アイヌ・先住民研究センター長の加

藤教授の挨拶及びGSIの紹介に続き、若手研究者4名による人類生態学と考古学に関する研究発表が行われ、オックスフォード大学の考古学研究所のChris Gosden教授（北海道大学アンバサダー）とRick Schulting教授、社会・文化人類学研究所のStanley Ulijaszek教授、ニッサン研究所のSho Konishi教授らからコメントや質問が

行われました。ワークショップ後半では、GSIに参画が予定されている本学とオックスフォード大学のメンバーによる研究テーマや課題についてのフリートークが行われ、本学GSIをプラットフォームとして展開される共同研究と新たな研究シーズの開拓へ期待が寄せられました。



オンラインワークショップの様子

# サブサハラ・アフリカを対象に理工・農学系プログラムへの留学広報のウェビナーを開催

本学アフリカルサカオフィスでは、2021年1月～3月にかけて、サブサハラ・アフリカ地域を対象に、理工・農学系の学部と大学院留学に関するウェビナーを開催しました。

従来、日本留学は理系の人気が高く、また、進学課程も、サブサハラ・アフリカ出身者の7割ほどが日本国内の大学院に在籍しています（2019年5月時点）。他方、日本には学部を英語で就学できる機会も多くあり、今回、南アフリカに所在するAfrican Leadership Academyと協力し、本学のIntegrated Science Programをはじめ、名古屋大学（Global 30 International Program）と会津大学（ICT Global Program）を紹介するウェビナー・シリーズを1月20日（水）、1月27日（水）と2月10日（水）に開催しました。

同アカデミーには、サブサハラ・アフリカ各地からの優秀な高校生が在籍し、現在はそのほとんどが欧米の大学へ進学するなか、日本留学の関心が高いことを受けて、今回のウェビナーを企画しました。アカデミー所属者に限

らず、アフリカ諸国から延べ90人がライブで参加しました。Zoomを用いたウェビナーでは、高校生からの質問に、現地留学中の学生が回答することで、長らく対面での留学広報が叶わないうなか、ライブでのやりとりを実施しました。なお、本ウェビナーにライブで参加できなかった266人にも、当日の録画映像と資料を後日送信しました。現地の機関と連携し、高校生の日本留学を促進することで、学部におけるサブサハラ・アフリカ出身者が増えることが期待されます。

3月17日（水）には、ケニア共和国向けに、理工・農学系の日本への大学院留学を広報するウェビナーを開催しました。ジョモケニヤッタ農工大学（JKUAT）物理学科が後援に入り、在ケニア日本国大使館、JICAケニア事務所、JKUATにプロジェクトサイトを置くアフリカ型イノベーション振興・JKUAT/PAU/AUネットワークプロジェクト、JETROナイロビ事務所が登壇するなど、ケニアにおける関係機関と連携して実施しました。

奨学金制度の紹介に加えて、農・工学に関する日本の大学での学びについて、現在日本に留学中の元JKUAT講師等、各分野の専門家の視点からの発表や、日本での就職についての発表もあり、具体的な研究生活や卒業後の可能性を参加者に提示することで、日本留学の魅力アピールすることができました。約300人が参加した本ウェビナーは、活発な質疑応答も行われ、事後アンケートからも満足のいく内容であったことがわかっています。

これらのイベントは、サブサハラ・アフリカ地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に、文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として実施されました。今後もアフリカルサカオフィスは、アフリカ現地の関係機関及び日本国内の大学との連携を深め、双方に実のある細やかな活動を続けていきます。

（国際部国際連携課）



学部プログラムを紹介するウェビナーの様子



ケニア向けのウェビナーでの本学アフリカルサカオフィス所員の発表

## 第15回ステークホルダーミーティングをオンライン開催

サステイナブルキャンパスマネジメント本部では、3月19日（金）、第15回ステークホルダーミーティングをオンラインで開催しました。

当該ミーティングは、ステークホルダーエンゲージメントの一環として毎年開催しており、今年で15回目となります。今回は、新型コロナウイルス感

染症拡大による教育・研究活動への影響を考えながら、今後の大学キャンパスの在り方についての意見交換の場を設けました。

本ミーティングでは、学内外の有識者の方からコロナ禍における大学関連の活動実態について、各々の知見に基づくレクチャーをしていただいた後、

「これからのキャンパスに真に求められるものとは」をテーマに、意見交換を行いました。本ミーティングの詳細は、2021年9月末公開の「北海道大学サステナビリティレポート2021」に掲載する予定です。

（サステイナブルキャンパスマネジメント本部）

### <参加者>（敬称略）

岡山 咲子（千葉大学 国際未来教育基幹 特任助教）  
 中山 柚希（凸版印刷 キャンパスラボ代表プロデューサー）  
 中村 峻大（北海道大学 情報科学院 修士1年）  
 弓削龍之介（北海道大学 水産学部3年）  
 川手紅梨子（北海道大学 総合教育部1年）  
 小篠 隆生（北海道大学 工学研究院 准教授）  
 伊藤 一馬（北海道大学 学務部 教育推進課 全学教育・総合教育担当 主任）

ファシリテーター／今津 秀紀（凸版印刷 情報コミュニケーション事業部長）  
 グラフィックレコーディング／酒井 麻里（レゾナントサイン 代表）  
 進行／平 裕（サステイナブルキャンパスマネジメント本部 特任助教）

### <次 第>

11:00～12:00 レクチャー

- 1 「コロナ禍における全国大学キャンパス利用実態調査分析  
北海道大学と全国の傾向分析から見たキャンパス空間の意義」小篠 隆生
- 2 「コロナ禍における千葉大学の学生委員会の活動」岡山 咲子
- 3 「キャンパスラボの活動および女子大学生のコロナ禍におけるインサイトご紹介」中山 柚希

13:00～16:00 意見交換

テーマ「これからのキャンパスに真に求められるものとは」

議題1 コロナ禍を経て、これからの教育・研究活動に真に必要なと思われるものとは

議題2 これからの大学キャンパスに真に求められるものとは



参加者記念撮影

## 函館地区キャンパスマスタープラン説明会を開催

サステイナブルキャンパスマネジメント本部及び施設部では、3月15日(月)、函館地区キャンパスマスタープラン説明会をオンラインで開催しました。

キャンパスマスタープランは、キャンパス空間の長期的な将来像を明確にし、施設・環境の整備と運営の具体的

な計画を示すものですが、函館キャンパスとしては今回初めて「キャンパスマスタープラン」が策定され、その計画内容を広く共有することを目的に、本説明会を開催したものです。

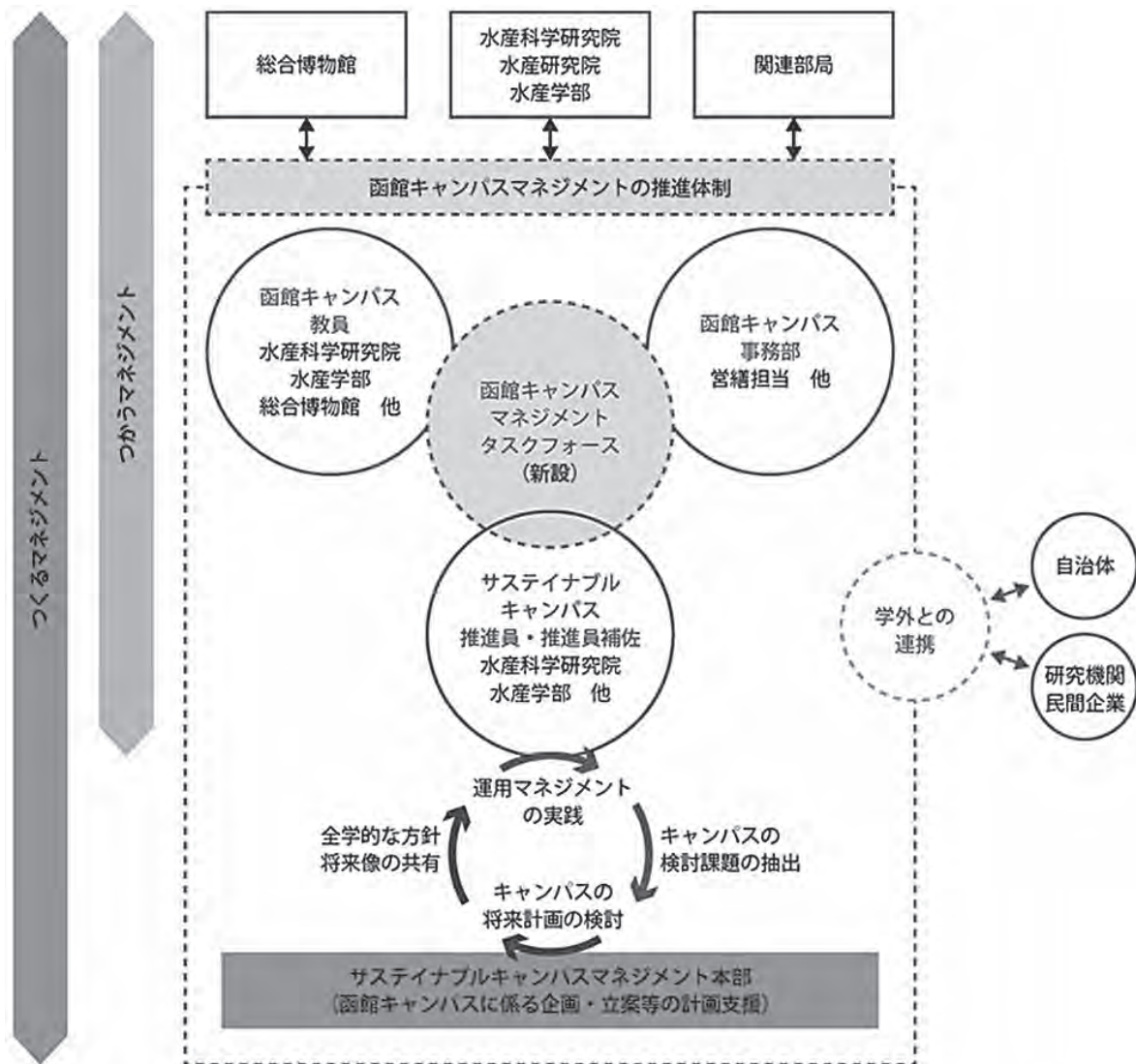
今後はこのマスタープランをベースに、本学内外の関係者と協議を重ねながら、さまざまな個別の短・中期計画

を慎重に検討・策定し、「知と人材の集積拠点」としての機能を継続的に発展していくキャンパスを、学生、関係者及び地域の皆様と協働してつくりあげていきたいと考えています。

(サステイナブルキャンパスマネジメント本部、施設部)



オンライン説明会の様子



函館キャンパスマネジメントの推進体制



# オンラインセミナー「Networking & Collaboration in Global Science」を開催

本学は室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社と共に、科学技術人材育成費補助事業（文部科学省）「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」によって、北海道地域におけるダイバーシティの推進を目指して様々な活動をしています。

その一環として、人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室では3月10日（水）、女性研究者のリーダーシップ・マネジメント力育成を目的としたセミナー「Networking & Collaboration in Global Science」を開催しました。本セミナーは2020年9月から2021年2月まで全5回のプログラムとして開催した「PIを目指す女性研究者のためのLeadership Development Training Program」の継続セミナーとして実施

し、合計6モジュールのプログラムとなりました。

講師にはIRIS科学・技術経営研究所代表 Dr. Iris WIECZOREK (Dr. I. ヴィーツォレック) をお招きし、全6回すべてのプログラムをオンラインで開催しました。使用言語が英語であったため外国人研究者の参加も多く、Irisさんのレクチャーを受けて参加者同士でディスカッションを行うなど、非常に活発でインタラクティブなセミナーとなりました。

参加者からは、「異なるバックグラウンドを持つ参加者の経験や悩みを共有し、異なる視点から見る事ができた」、「自分の科学的キャリアを進展させるのに役立つアドバイスを得ることができた」、「より効果的なコミュニケーションのために、コミュニケーションにおけるバイアスやミスを意識

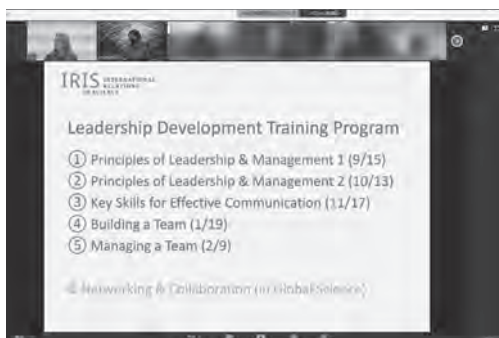
することを学んだ」といった声が寄せられ、大変有意義なセミナーとなりました。

ダイバーシティ研究環境推進室では、引き続きワークライフバランスに配慮した研究環境の整備、女性研究者・技術者のリーダー育成、次世代の女性研究者のキャリアパス構築など、多くの取組を展開するとともに、すべての構成員が能力を最大限に発揮できる環境づくりに努めて参ります。ご意見・ご要望等ございましたらお気軽にお寄せください。

ダイバーシティ研究環境推進室の活動については、こちらのWebサイトをご覧ください。

<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/>

(人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室)



オンラインセミナーの様子



ダイバーシティ研究環境推進室 長堀紀子特任教授

## 中高生対象オンラインイベント「大学生の24時間シリーズ」開催

人材育成本部ダイバーシティ研究環境推進室は、公益財団法人KDDI財団と共催で、2月27日（土）ならびに3月6日（土）に中高生対象理系進路選択促進イベント「大学生の24時間」をオンラインにて実施しました。本企画はKDDI財団の「青少年啓発・育成活動助成」により実施しています。

北海道内の中学生・高校生にイベントを周知し、事前申し込み制で参加を募ったところのべ187名（女性107名、男性80名）の参加申込がありました。中学生・高校生だけでなく、教員や保護者からの申し込みも多数あり、理系進路への関心の高さがうかがえました。

本学所属の2名の大学院生（工学院D1岩井 愛さん、生命科学院D1杉山 葵さん）に研究場面や研究室での日常の様子等を事前に撮影してもらい、当日はさらに2名の大学院生（理学院D2宮崎彩音さん、農学院M2栗原利奈さん）も加わり、撮影動画を見ながら4名の大学院生がそれぞれの研究生活について話し合う様子を放送しました。所属部局や研究室が異なると研究生活環境も異なり、たくさんの発見もありました。

事前のアンケートでは、大学生活全般の過ごし方や受験勉強に向けたモチベーションの保ち方、勉強方法についての質問もあり、出演の大学院生それ

ぞれに事例を紹介しました。また、オンラインイベント中もたくさんの質問が寄せられ時間の許す限りお答えしました。

このイベントはシリーズ化し、2021年度も展開していく予定です。

ダイバーシティ研究環境推進室では、女子を中心とした中高生に対し、様々な理系進路選択支援の取組を行っています。その他ダイバーシティ研究環境推進室の活動については、こちらのWebサイトをご覧ください。

<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp/>

（人材育成本部）



第1回の撮影の様子



第2回の撮影の様子

## ■ 部局ニュース

# 医学研究院でコロナ禍における市民への成果発表： 学内記者会見「ゲルでがんの親分を見つけ出す」の実施

3月29日（月）午後3時から、医学研究院の大研修室で、研究成果を社会へ発信するため、医学研究院/ICReDDの田中伸哉教授が“会場参加型”と“WEB参加型”のハイブリッド形式で記者会見を実施しました。当日は、12社14名の報道陣が参加し、NHKの道内テレビニュース、北海道新聞紙面掲載、日本経済新聞全国版紙面掲載、日経電子版、日経バイオビジネス電子版、47都道府県全ての地方紙の電子版に掲載となりました。また会見翌日未明に公開となったNature Biomedical Engineering電子雑誌のAltmetricは117と世界的なインパクトもありました。コロナ禍で通常の記者発表のしくみが使えない会見の開催状況について、お知らせします。以下会見主催者からの報告です。

(1) プレスリリースの準備：コロナ禍での特別な準備はありません。一般市民にわかりやすい内容を心がけました。特にタイトルには気を配りわかりやすいものとししました。従来は「Double network hydrogelによるがん幹細胞の迅速誘導」でしたが、一般の読者を意識して「ゲルでがんの親分を見つけ出す」として、コロナで区切って「がん幹細胞の迅速誘導法の開発にはじめて成功～がんの再発予防、がん根絶新治療薬の開発に期待～」と説明を加えました。本学

の広報課に迅速に修正サポートしていただきました。また今回、国立がん研究センターとの共同発表でしたが、事務的なやりとりも全て行っていただきました。また英文プレスリリースは、全て担当者の方に作成いただきました。英文プレスについては、英語18社、ドイツ語1社、スペイン語4社、中国語20社が発信しています。

(2) 記者会見：文部科学省での記者会見を希望する場合、通常は文部科学省の記者クラブに連絡すると、日時が決定され開催することとなります。現在コロナ禍で通常の形での記者レク（記者少人数への説明）や会見は行っておらず、文部科学省記者クラブからは、本学を会場とするよう指示があり、情報のみ文部科学省記者会で共有するとの事でした。記者会見の日程は、論文発表の解禁日直前が効果的ということでしたが、今回は準備期間がなくNature Biomedical Engineering誌が指定した3月30日（火）午前1時の報道解禁前日の3月29日（月）の開催となりました。

(3) 会場の設営：コロナ禍であることを考慮して、十分な間隔をあけて開催できるように可能な限り広い会場を準備しました。医学部の大研修室は本来150名用の部屋で

すが、説明者から記者までの距離は3m以上離して、記者席12席を十分な間隔をあけて設定できました。また、会見中は窓を開けて換気し、廊下につながるドアも前方、後方ともに常時開け放しました。

(4) 会見設備の設定：今回、参加メディアは、会場で6社、WEBで6社が入りましたので、説明者の音声と会場での質問者の音声、WEBの質問者の音声が滞りなく行き渡るような設定を目指しました。配信側のパソコンは、メインは会場用パソコンとして、全ての会場の画像・音声のWEBへの発信とWEBからの音声の受信・会場スピーカーへの発信を行いました。WEB配信には、Zoomを使用しましたが、会場用パソコンとは別に、配信用パソコンを準備して、Zoomの管理を行いました。また、説明者は自分のパソコンでZoomに繋いで発信しました。会場では、説明者も、質問者もワイヤレスマイクを使用して、その音はすべて、会場用パソコンが配信します。特に音響関係は、調整がかなり難航し、株式会社オープンコンテンツサービスに協力していただきました。プロでもミキサーを用いて、最終的に音響設定が完全に出来上がるまでには、数時間



会見場の様子  
正面スクリーン左横のモニターに参加者各社名・写真が映し出されている。後方はNHKのカメラと音声。



オンライン質疑応答の様子  
質問者の顔写真がスクリーンに映しだされており、音声も会場に良好に響いていた。

を要しました。安定したネットワーク環境のため、配信はWi-Fiを使用せずにLANケーブルとしました。必要な人員は、説明者1名、受付・会場5名、会場用パソコン担当1名、配信用パソコン担当1名、マイク担当1名、カメラ担当1名、音響担当1名と合計11名でした。

(5) WEB参加記者：オンライン上の、名前を社名・氏名にして、差し支えない範囲で常時カメラをONとしました。参加者の姿は正面の説明用スクリーンの隣に、65インチのモニターを設置して写しました。そのことで、オンライン上の参加者の顔もよく見えて、会場に一体感が生まれました。

(6) 実験材料体験コーナー：今回の記者会見は、先端生命科学研究院の龔 劍萍教授が開発した

Double networkハイドロゲルが、がん幹細胞を迅速に誘導することを示した内容でしたので、記者の方にハイドロゲルに実際に触れてもらうためのコーナーを会場の後方に準備しました。会見終了後、皆様とても興味深く体感しており、テレビカメラも熱心に撮影していました。

(7) 事前事後の記者対応：今回、プレスリリースに記者会見を行う旨を記載しました。記者クラブに所属していないメディアもあるので、WEBサイトに掲載するプレスリリース原稿にも会見の有無を記載してもらうとありがたいとのことでした。実際、事前に数社の記者から電話連絡があり、内容に関する質問がありました。また会見後も記者がから記事にする際の事実確認として電話連絡がありま

した。今回は会見の9時間後に解禁だったため、記者の方も締め切りの時間が迫っている状況のため、当日は遅い時間でもメールや携帯電話で対応する旨をあらかじめ伝えておきましたが、実際に多数連絡があり、遅くまでの対応に對して感謝されました。

今回、記者会見について急な対応を迫られましたが、広報課、医学部庶務担当、教務担当及び教室スタッフ、企業の方に大変お世話になりました。当日は多数の記者に参加していただき有益な会見となりました。関わった皆様に感謝します。

以上、部局で会見を実施する際のご参考にいただけますと幸いです。

(医学研究院)

## 教育学院・中国人民大学教育学院とコチュテルに関する覚書を締結

教育学院は3月29日(月)、中国人民大学教育学院との間で、部局間交流協定に基づくコチュテルプログラムに関する覚書の締結を行いました。

オンラインにより執り行われた調印式には、中国人民大学教育学院から

劉 復興学院長ら5名、当学院からは宮崎隆志学院長をはじめ7名が出席しました。

調印式に引き続き、オンラインシンポジウムの開催、雑誌の出版等、交換留学等について意見交換が行われ、今

後、両学院の教員が協力していくことが確認されました。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)



協定書を交わす宮崎学院長(上)と劉学院長(下)

## 経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催

経済学院では、令和元年度より、教育・研究の国際化および留学生支援を促進することを目的として、優れたチューターへ「ベスト・チューター賞」を授与しており、本賞設置2年度目となる今年度は、最優秀賞に修士課程2

年生の山口久瑠実さん、専門職学位課程（会計情報専攻）2年生の西山奈生さん、修士課程1年生の藤本誠也さんの計3名、優秀賞に修士課程1年生の長桶和也さんが選出され、令和3年3月25日（木）に授与式が行われまし

た。授与式後には、経済学研究院長や国際交流委員を務める教員を交えて、留学生支援のあり方について議論が行われました。

（経済学院）



ベスト・チューター賞授与式の様子



ベスト・チューター賞授与式後の懇談会の様子

## 国際広報メディア・観光学院がフィンランド・ヘルシンキ大学との教育・研究交流「TLLPスタディセッション・セミナー」を開催

国際広報メディア・観光学院では、3月1日（月）に「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project：TLLP）・スタディセッション・セミナー2021」を開催しました。

TLLPとは、国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院、英国シェフィールド大学、リーズ大学、フィンランド・ヘルシンキ大学、オーストラリア・メルボルン大学の間で行われている研究教育の交流プログラムです。このプロジェクトの目的は、①学生・教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築、②研究遂行（データ収集、インタビュー、研究発表、研究討論）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得にあります。具体的な教育プログラムの内容は、両大学の大学院生同士がペアを組み、互いに相手の研究のサポートをするタンデム・ラーニング、またその進展をウェブ上で支援する教員のアドバイス・システムが中心です。さらに、相互に相手の大学を訪

問して研究発表や教育交流を行う「TLLPスタディセッション・セミナー」を年に1回開催しています。

本年度のスタディセッション・セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初めてのオンライン開催となりました。セミナーでは、本学院の浅野友紀准教授による講義や、本学院とヘルシンキ大学からの6名の大学院生による研究発表など、オンライン開催のメリットを生かした活発な研究・教育交流が行われました。TLLPの趣旨に基づき、本学の学生は英語で、ヘルシンキ大学の学生は日本語で研究発表を行いました。数か月に

わたり、発表要旨、パワーポイント、発表原稿などについてお互いの研究をネット上で研鑽してきた成果が、スタディセッション・セミナーで発揮されました。

2014年以降開催されてきたTLLPスタディセッション・セミナーも8年目を迎えました。今後も国際社会を舞台に活躍する研究者を育成することを目指し、海外諸大学とのより活発な教育・研究交流を続けていきます。

（国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院）



TLLPスタディセッション・セミナーの様子

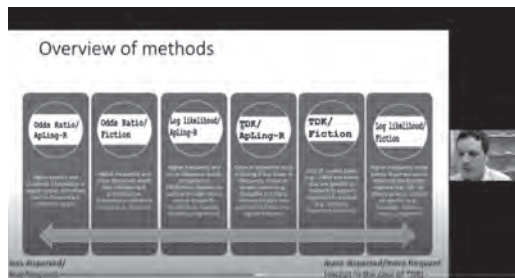
# メディア・コミュニケーション研究院主催 多層言語環境研究国際シンポジウム「多様性と言語」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、多層言語環境研究国際シンポジウム「多様性と言語」を、2月21日（日）に実施しました。本シンポジウムは、2011年公開シンポジウム「アジアで第2言語を学び教える研究集会」を東京と札幌で開催したのを皮切りに、海外からの研究者を招聘して実施してきたもので10回目となります。日本各地の他、米国、台湾、韓国、ドイツ、イギリスなどから68名の参加がありました。

多層言語環境研究国際シンポジウムでは、これまで、複言語主義共同体、トランスランゲージング、タンデム学習などをキーワードに研究会を続けてきました。今回は、レベッカ・L・オックスフォード氏（メリーランド大学名誉教授）が、Weaving Peacebuilding

into Language Teaching and Learning（平和構築の言語教育・学習への融合）と題して、高校・大学の第二言語教育の教室で実施可能な平和構築へ向けたコミュニケーション能力の育成について講演しました。午後からの言語別ラウンドテーブルでは、英語テーブルと日本語テーブルが設けられ、英語発表者5名（台湾、米国、香港、ロシ

ア、日本からの発表者）、日本語発表者10名（台湾、日本からの発表者）が、プロジェクト学習、継承語教育、タンデム学習、ライティング能力の育成、協働学習型意見交換タスクなどについて、指定討論者によるコメントを交えながら、熱心に議論を交わしました。（メディア・コミュニケーション研究院）



言語別ラウンドテーブルでのジョー・ジェルソ氏（日本大学）のFrequency and dispersion in keyword analysis: Comparing and contrasting statistical methodsと題する発表

## 附属図書館でWEB企画展示「北の動物たち-描かれた海獣-」を開催

附属図書館の「北方資料コレクション」には、開拓使の写真や地図に加え、江戸時代の和漢書から現代の出版物までを含む、北海道を中心とする日本の北方地域に関する様々な分野の資料が所蔵されています。

毎年、これらを含む所蔵資料を一般の方にも紹介する企画展示を附属図書館本館にて開催してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止のため学外者の入場を制限していることから、WEBによる資料公開を試みました。

令和3年3月には、平成28年度企画のリバイバルとして、当時の展示資料からピックアップしたWEB企画展示「北の動物たち-描かれた海獣-」を開催しました。

ここでは、江戸末期から明治初期の蝦夷地関係旧記（写本・木版本）や軸物の中で、色鮮やかに描かれたアザラシやオットセイなどの海獣の姿を見る

ことができます。また、紹介した資料は、オンラインで閲覧可能な北方資料データベースへのリンクを整備しており、一部画像については国際規格IIIF（International Image Interoperability Framework）に準拠した高精細画像となっています。

学外者の方の附属図書館への来館は難しい状況ですが、これまでよりも多くの方に所蔵資料を公開する形となり、今後の企画展示を多様化してゆく

良い機会となりました。

WEB展示企画「北の動物たち-描かれた海獣-」

<https://www.lib.hokudai.ac.jp/northern-studies/digital-exhibitions/2020/>

（附属図書館）



WEB企画展示トップ



資料紹介画面

# 旧病理学第一講座関係資料を大学文書館で受贈

3月30日(火)、大学文書館では、笠原正典教授(大学院医学研究院分子病理学教室)から、分子病理学教室の前身である病理学第一講座にまつわる沿革資料7点をご寄贈いただきました。

この度、受贈した資料は、初代教授の今裕博士(1878-1954年)ゆかりの資料が4点、第二代教授の武田勝男博士(1901-1981年)ゆかりの資料が3点です。

今裕博士に関する資料は、(1)今裕博士宛の長與又郎書簡(1926年2月6日付、額装)、(2)「細胞と銀反応の研究」において帝国学士院賞を受賞した際の「祝賀会芳名録」(1934年5月

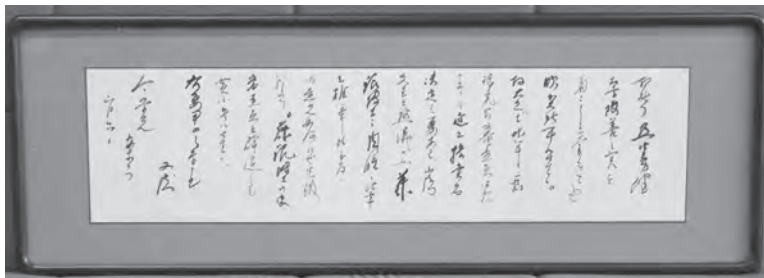
12日開催、於:東京医師会館)、(3)今裕博士が海外の並木風景を描いた油彩画と(4)1947年春に漢詩「読書可以医俗 作詩可以遣懷」を揮毫した木額です。書簡では、東京帝国大学の長與又郎教授、山極勝三郎教授、京都帝国大学の藤浪鑑教授の名前が揃っており、近代日本における癌研究の先駆者のネットワークと研究の最前線を感じ取ることができます。

武田勝男博士に関する資料は、(5)講義録、(6)「通俗講演・学術講演原稿集」、(7)1965年退官記念の「芳名録」です。講義録は1932年10月講義「Vorlesungen über allgemeine Pathologie」(一般病理学講義)から約

13点の直筆原稿が、講演原稿集は医学智識普及講演会での「ホルモンの話」(1938年7月)から約22点の直筆原稿やタイプ原稿類が綴られています。「アレルギー」、「免疫」、「癌」といった先端研究の領域における知見を、一般市民にも、専門家にも幅広く講演されていたことがうかがわれます。

今後、ご寄贈いただいた資料は大学文書館の沿革資料室収蔵庫において大切に保管し、整理作業を進めて利用に供し、大学沿革史の企画展示や年史編纂にも反映させていきます。

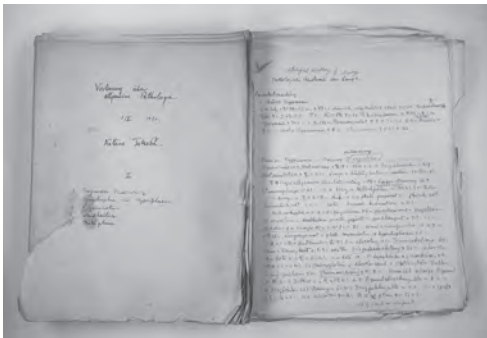
(大学文書館)



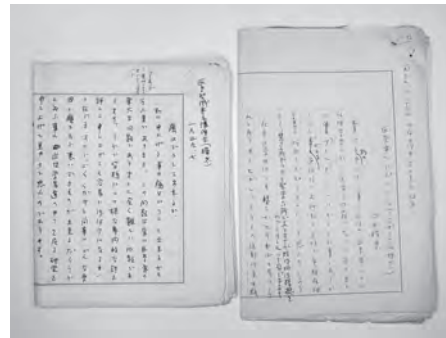
長與又郎書簡額(1926年)



油彩画(今裕作)



武田勝男講義原稿「一般病理学」



武田勝男講演原稿(1939年)

## 公共政策学連携研究部及び教育部と津別町が包括的連携協定を締結

公共政策学連携研究部及び教育部（HOPS）と津別町は、3月8日（月）に包括的連携協定を締結しました。平成28年3月に実施された津別町町づくりアイデアコンペにHOPSの所属大学院生が参加し優秀賞を受賞したことを起点に、地方創生学生サークルHALCCの活動が展開されてきました。HALCCは近年においては津別高校を舞台とした高大連携に活動領域を拡大するなど

活発に活動し続けており、津別町とHALCC及びHOPSの交流は活性化し続けています。今後、津別町とHOPSの連携を一層充実させるためにぜひとも必要ということで、協定締結が実現しました。

当日は津別町の林業会館において、佐藤多一町長、遠藤 乾公共政策学連携研究部長らが出席して締結式が行われました。HOPSとしては、地方自治

体との包括連携協定は5つ目の締結となりますが、①大学院と町による共同調査・研究、②大学院による町職員や住民などを対象とした研修機会の提供、③町の事業への大学院生の参画などを通じて、様々な形で連携を図っていくことにしています。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



包括連携協定締結式に臨む遠藤院長（右）と佐藤多一町長（左）



# 北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitious リーダー育成プログラム3期生修了式



修了生集合写真

3月10日（水）、北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（以下、ALP）3期生8名の修了式が、理学部大会議室にて海外への同時配信も含めて執り行われました。ALPとは物質科学を中心に分野横断的に学び、社会人として高い能力を養い、学位取得後には学術・研究機関だけではなく民間企業など社会の広い分野で国際的に活躍する人材を育成するための博士課程大学院教育プログラムです。2020年3月に文部科学省の補助金事業としての補助期間は終了しましたが、北大の事業として継続して活動しています。修了証書授与のあと、山口淳二理事・副学長（プログラム責任者）と石森浩一郎教授（プログラムコーディネーター）より祝辞があり、参加した修了生全員が挨拶を述べました。

## 山口淳二理事・副学長の挨拶

3期生の皆さん、コロナ禍でいろいろな活動が制限されたにもかかわらず、無事、修了の日を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。皆さんがALPに採用されてから4年半、多くの活動に参加し、ALPで養成すべき5つの力、圧倒的専門力、俯瞰力、フロンティア開拓力、国際実践力、内省的知力を磨いてきました。リーディングプログラム発足以降、博士課程修了者の持つべきジェネリックスキルとしてこれらの能力が注目されています。同時に、社会、特に民間企業においても、専門性だけではなく、これらの能力を備え、社会貢献できる人材が求められるようになりました。つまり皆さん

は世界最先端の研究に携わっただけではなく、我が国における今後の大学院教育のモデルとなる先進的な教育を受けてきたこととなります。実際、皆さんの先輩の多くは、従来の博士課程修了者の主なキャリアパス先であった大学等のアカデミアだけではなく、多様な民間企業に就職し、周囲の大きな期待に応えて、その職務に励んでいると聞いております。



山口淳二理事・副学長（プログラム責任者）の祝辞

北海道大学での博士号取得とリーディングプログラム修了は、皆さんが意識している以上に輝かしい2枚の金看板です。この先、コロナ禍は容易に収束するとは思えません。また、世界情勢の先行き不透明な状況のなかでは、これまでの常識が変化するかもしれません。そのような状況の中でもALPで培った多様な力を発揮し、グローバルリーダーとして、それぞれの分野で活躍されることを願っております。

## 石森浩一郎コーディネーターの挨拶

3期生の皆さん、修了おめでとうございます。

特に、最後の1年、コロナ禍で大変な不自由をされたと思います。やりたかったことが叶わず、残念な思いをされたこともあったかもしれません。しかし、この状況は大きく変わらないでしょうし、不自由もなくならないでしょう。これは世の常でもあるのです。この場を借りて皆さんへの贈（はなむけ）の言葉を送ります。はじめに、IT業界で成功を取めた人たちの中からラリー・エリソン氏の言葉です。エリソン氏は巨大IT企業の一つであるオラクルの創始者です。

エリソン氏は1980年代の不透明なIT業界の中で生き抜き、世界規模のソフトウェアの会社へと導きました。彼の言葉の中に「この世界では、何もしないことが一番大きなリスクになる」があります。Facebookのマーク・ザッカーバーグ氏も「確実に成功する方法はないが、必ず失敗する方法はリスクを取らないことだ」と言っています。皆さんは、人生の様々な場面で大きな決断をしていくこととなりますが、そんな時に思い出してほしいメッセージだと思います。リスクを取るからこそイノベーションや新しい価値が生まれるのです。



石森浩一郎教授（プログラムコーディネーター）

もう一つ、エリソン氏の言葉を紹介します。“I have had all of the disadvantages required for success.” 普通の人なら「有利な点があるから成功した」と言うでしょう。しかし、彼は、成功のためには“disadvantages”があった、と言ったのです。皆さんが進む先で、いろいろな困難があるかもしれません。最初の言葉と合わせると、「困難を理由にして何もしないのはダメだ。困難を利用して、新しいものを産み出してください」というメッセージなのです。先行き不透明な時代です。どの分野であっても真のリーダーに問われるのは、限られた条件の中で、どのように前に進むのか、です。皆さんも、いずれラリー・エリソン氏のように“I have had all of the disadvantages required for success.”と言えるようになってほしいと願っています。

修了生の挨拶をダイジェストにまとめて紹介

小松雄士さん：ALPを通して様々なことを経験し、自分の成長に繋がったと思っています。最後の2年間は留学していたので、同期と企業コンソーシアムを行うことはできませんでしたが、後輩の4期生に協力してもらい単位を取得することができました。立派な先輩たちに続けるよう精進します。



小松雄士さん（大学院総合化学院博士課程修了）

堤拓朗さん：はじめにALPで指導にあたってくれた先生やスタッフの皆さまに、お礼を申し上げます。僕が一番印象に残っているのは、異分野ラボビジットで数学科のラボで過ごしたことです。数学科の先生と議論を重ねることで、新しい研究分野を拓くことができたと改めて実感しています。4月から所属研究室で博士研究員として採用していただくことになったので、ALPで培った圧倒的専門力や俯瞰力を遺憾なく活かし、社会貢献できる研究者として活躍したいと思います。



堤拓朗さん（大学院総合化学院博士課程修了）

馮 智さん（中国からオンライン参加）：ALPを受講することができて、とても嬉しいです。多様なイベントが用意されていましたが、実験と重なり参加を断念したこともあり残念でした。しかし、様々な活動に参加できたことで、自分の成長を実感しています。同期3期生の皆さん、スタッフのみなさまに感謝します。これから僕は

社会人として一人前と見られるでしょう。日中友好交流に貢献し、産業界で働く決意も明確となりました。皆さんが中国へ出張や旅行に来ることを待っています。



馮 智さん（大学院総合化学院博士課程修了）

藤森俊和さん：ALPを修了することができてホッとしているという気持ちと同時に何とも言えない寂しさも感じています。最初に取り組んだ国際シンポジウムの運営を通して、海外の人とのコミュニケーションに自信を持つことができました。その後は成長を実感する4年半でした。実は、修了要件を超えたイベントへの参加について、中富先生に愚痴ってしまったことがあります。その時、中富先生から「次の4期生や後輩に繋げて行くために、参加して欲しい」と助言され、リーダーの本質に気づかせてもらいました。

話は変わりますが、先日、選抜試験やQE1、QE2の講評結果を見つけてしまい、確認してみたところ、「声が大きくて良い」「元気が良くて素晴らしい」というコメントをいただいております。自分の長所も大切に活かしたいと改めて感じました。最後になりますが、同期の皆さん、先生たち、事務局のスタッフの方々には本当に感謝しております。ありがとうございました。



藤森俊和さん（大学院総合化学院博士課程修了）

文野優華さん：私は異分野ラボビジットや研究アウトリーチの活動などが、とても印象に残っています。やはりALPでは研究では得られない様々な経

験ができるというのが一番の魅力だと思っています。4月から「株式会社トクヤマ」で働くことになりました。おそらくこれまで行ってきた有機化学とは関係の無い分野の研究になることが予想されるのですが、ALPで異分野にチャレンジする機会がもられたので、その経験を生かそうと思います。いままで本当にありがとうございました。



文野優華さん（大学院生命科学院博士課程修了）

山形 颯さん：私は数少ない数学専攻からの参加でした。同期で数学系の学生がいないので、周りが全員異分野でした。例えば文化的な価値観や、時間的な感覚がまるっきり違う中で、揉まれながら自己を成長させることができましたと思っています。また、ALPの支援を受けて、積極的に海外での活動に参加しました。おかげで国際的な研究者ネットワークに参加することができました。去年もアメリカで過ごしていましたが、コロナで余儀なく緊急帰国することになりました。しかし、今も研究を通して海外の先生とオンラインディスカッションし、研究を続けることができています。これからはALPでの活動を活かして、さらに自己研鑽しながら研究活動を続けていきたいと思っています。



山形 颯さん（大学院理学院博士課程修了）

山内直紀さん（大学院生命科学院博士課程修了）と金容俊さん（大学院総合化学院博士課程修了）は欠席しましたが金さんの挨拶を紹介します。

金 容俊さん：ALPを通して5年間様々な経験ができました。特に海外インターンシップでイギリスの研究室で3カ月間も勉強ができたことは、忘れられない経験です。私はまだ進路が決

まっていなくて、複数の可能性を考察中ですが、必ずALPで身に着けた能力を生かすことができると信じています。修了式には参加できなかったことは心残りです。ALPの先生、事務局、そして同期の皆さん、いままでどうもありが

とうございました。

(総合化学院, 理学院, 生命科学院,  
工学院, 環境科学院)

## 「省エネアクションプラン」照明LED化を実施 (先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター)

次世代物質生命科学研究センター(北キャンパス総合研究棟2号館)実験室、居室及び廊下蛍光灯のLED化を実施しました。実験室、居室および廊下の蛍光灯604本(302組)をLED管302本に交換した結果、当該機器の消費電力が半減(\*1)し、年間130万円程度の節電効果が見込まれるととも

に、蛍光灯の交換作業や予備蛍光管や廃蛍光管の管理からも解放されました。当センターでは「省エネアクションプラン」として、コロナ禍前から換気用網戸や放熱窓の設置など、省エネ対策を積極的に実施してきました。今回のLED化による省電力化により、むしろ部屋が明るくなったとの声が多く

聞かれ、コロナ禍下および冬季のメンタルヘルス対策にも効果が期待されます。

\*1：FL40型蛍光管(44W相当)二本組を6900lmタイプLED(43W)に交換。

(生命科学院・先端生命科学研究院)



交換前

交換後

## 総合博物館で第13回「卒論ポスター発表会」を開催

総合博物館では独自の教育プログラム「ミュージアムマイスター認定コース」の一環として2008年度から「卒論ポスター発表会」を開催しています。学部4年生が卒業研究をA0サイズ1枚のポスターにまとめて、さまざまな年代の市民や観光客の方々、他分野の学生や教職員にわかりやすく発表し、質問に受け答えします。本学学生の研究を広く社会に伝えるだけではなく、学生のコミュニケーション能力の向上や他分野の研究への関心の喚起を図ることを目的としています。

13回目を迎えた今年度は、2月27日（土）・28日（日）に博物館1階「知の交流」ホールで、新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで開催されました。

ポスターとホームページで発表者を

募集した結果、文学部・理学部・工学部の3つの学部から8名が参加しました。発表者は、卒業研究を市民に発表するために見直し、他学部の発表者や博物館担当教員と議論する中間発表会3回とりハーサルを通して、専門分野外の方々にも伝わるようにポスターの内容やデザイン、発表方法を学んできました。発表会当日は、緊張しながらも来場者とのコミュニケーションを楽しみながら説明していました。今年度は特に札幌市内の高校生が多数来場し、熱心に発表を聞き、研究に関する質問だけでなく、本学での学生生活についての質問を寄せて発表者と交流している様子が印象的でした。

発表会の運営も例年通り、学生が担いました。今年度は工学院・文学部・理学部・総合教育部・水産学部から5

名が参加しました。運営スタッフとして発表会の広報、プログラム作成、会場運営などをグループワークにより担当し、また発表会当日には受付や後述する各賞の授賞式の司会を担当した他、来場者をスムーズに誘導して和やかで活気あふれる場を創ることを心がけました。

発表会の最後には、2日間の来場者の投票による「来館者賞」、市民5名と本学教職員3名から成る審査員の評価による「最優秀賞」、そしてミュージアムマイスター7名が選定する「ミュージアムマイスター賞」が決定し、受賞者には賞状と記念品が授与されました。また今年度は優秀な発表をした2名の学生に特別賞も授与されました。

（総合博物館）

### 発表者と発表題目：

1. 石山 亜美（文学部 人文科学科） 「競争的協力が規範的協力か—関係流動性が協力行動の目標に与える影響—」
2. 田代 貴久（工学部 環境社会工学科） 「2018年霧島山新燃岳噴火の差分干渉SAR(サー)による観測と圧力源の推定」
3. 高橋 奈菜（工学部 環境社会工学科） 「現代日本建築家による生物分野の参照方法と建築作品への適応方法—建築分野における生物分野の影響を考察する—」
4. 大藪 隼平（理学部 地球惑星科学科） 「恐竜類ヨロイ竜における大陸分布と生息環境の傾向」
5. 和田 知里（文学部 人文科学科） 「ウマの音声はどんな意味を持っているのか？—ウマ母子間の音声コミュニケーションに関する検討」
6. 磯和 耕太郎（工学部 環境社会工学科） 「北海道大学札幌キャンパスの学生寮における教育の場としての役割と変遷」
7. 長谷川 健太（文学部 人文科学科） 「菅原氏による『元秘抄』の編纂意図」
8. 三嶋 一輝（理学部 地球惑星科学科） 「モンゴル産恐竜足跡化石から得られる古環境の示唆」

### 運営担当学生：

張 元昊（工学院修士1年）・上村 麻里恵（文学部3年）・荒岡 柊二郎（理学部1年）・細山 裕生（総合教育部1年）・村井 香穂（水産学部1年）

### 受賞者：

- \*最優秀賞 高橋 奈菜（工学部 環境社会工学科）
- \*特別賞（特設） 石山 亜美（文学部 人文科学科）・和田 知里（文学部 人文科学科）
- \*ミュージアムマイスター賞・来館者賞（2賞受賞） 長谷川 健太（文学部 人文科学科）

審査員：敬称略

教職員審査員：小澤 丈夫（北海道大学総合博物館長・工学研究院 教授）

内田 努（北海道大学 工学研究院 准教授）

高橋 英樹（北海道大学名誉教授，総合博物館 資料部研究員）

市民審査員：浅野目 祥子（NPO法人手と手 代表理事・ミュージアムカフェぼらす・ミュージアムショップぼとろ代表）

中道 洋友（札幌北高校・高文連理科専門委員長）

西村 卓也（北海道新聞 論説委員室主幹）

萩 佑（北海道遺産協議会 理事）

宮木 康二（岩田地崎建設株式会社 顧問）

マイスター審査員：太田 晶（むかわ町役場 穂別総合支所 恐竜ワールド戦略室）

山内 彩加林（生命科学院 生命科学専攻 博士課程）

杉谷 紬（文学院 人文学専攻 修士課程）

森本 智郎（生命科学院 生命科学専攻 修士課程）

遠藤 優（理学院 自然史科学専攻 修士課程）

松田 真莉子（文学院 人文学専攻 博士課程）

谷口 加奈子（理学院 自然史科学専攻 修士課程）

担当：小林 快次・澤出 有里・湯浅 万紀子（総合博物館）

発表会当日の様子や参加した学生の事後考察レポートは当館ホームページで公開しています。

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/cat/educationtopics/>



来場者に向けて説明する発表者たち



終了後の記念撮影にて

# 学生によるミュージアムグッズの企画開発ー植物・海藻標本クリアカード，北大総合博物館 建物の四季ピンバッジー

本学大学院の授業「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」では、毎年、学生達による総合博物館オリジナルのミュージアムグッズが企画開発されています。2019年度のこの授業では、2つの新しいグッズを開発しました。ミュージアムショップぽとろとオンラインショップで販売中です。

一つは、4名の大学院生が企画開発した「植物・海藻標本クリアカード」です。標本庫に保管されている標本の姿を伝えたいと、総合博物館が収蔵する27万点の陸上植物標本と14万点の海藻標本から4種類の腊葉標本を選び、標本ラベルとともにクリアなカードに仕上げました。エゾエンゴサク、レバンアツモリソウ、スサビノリ、ナガバエビモ、いずれも道内で採取された標本です。カードの台紙には大学院生が執筆した標本庫と標本の説明が掲載されています。窓辺に飾ったり、台紙にメッセージを添えてグリーティングカードとして送ったり、標本庫に収められている腊葉標本をイメージしながら使っていただきたいと思います。

もう一つは、3名の大学院生が企画開発した「北大総合博物館 建物の四季ピンバッジ」です。美しいキャンパスに建つ総合博物館を四季折々に訪ねていただきたいというメッセージをこめて、季節ごとの空を背景に、博物館の歴史ある建物がエゾヤマザクラ（春）、ポプラ（夏）、ミズナ（秋）、イチイ（冬）と共に描かれています。ピンバッジだけでなく台紙も大学院生

が制作しました。

ぜひお手にとってご覧下さい。2019年度のこの授業からも、サコッシュやトートバッグなど新しいグッズが開発されています。2021年5月にはショップに並ぶ予定です。

2019年度理学院専門科目・大学院共通授業科目「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」

■植物・海藻標本クリアカード

サイズ：横 90mm×縦 140 mm

価格：各275円（税込）

担当学生：安間理子（工学院），  
石川ふく（環境科学院），  
外山雄貴（総合化学院），  
谷口加奈子（理学院），  
松田真莉子（文学院）

協力大学院生：山本茉奈（理学院）

監修教員：小亀一弘（理学院），  
首藤光太郎（総合博物館）

指導教員：湯浅万紀子（総合博物館）

■北大総合博物館 建物の四季ピンバッジ

サイズ：約25mm

価格：各396円（税込）

担当学生：杉浦千瑛・石妹珣（医学院），  
長澤愛美（農学院）

協力：カムイ大雪バリアフリーセンター

指導教員：湯浅万紀子（総合博物館）

（総合博物館）



植物・海藻標本クリアカード



企画開発した大学院生



博物館 建物の四季ピンバッジ



担当した大学院生

# 医学部が最終講義・退職記念式典を挙行



関係者による記念撮影

医学部では、3月18日（木）、医学部学友会館「フラテ」ホールにて、最終講義・退職記念式典を挙行了しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の対策を取りながら行われ、「フラテ」ホールをオンラインの会場とし、これにWeb会議システムZoomを用い、オンライン・システムを取り入れたハイブリッド形式で実施しました。

また、令和元年度の最終講義・退職記念式典は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、開催を延期しており、令和2年度と併せて実施しました。

清水 宏教授におかれましては、2月17日（水）にご逝去されましたので、皮膚科学教室において作成したDVD映像を放映した後、同教室氏家英之教授から挨拶がありました。

最終講義終了後に引き続き行われた退職記念式典では、吉岡充弘研究院長、佐久間一郎同窓会副会長及び教授会代表者として佐邊壽孝教授から挨拶がありました。続いて、長年の功績をたたえ、感謝の意を込めて、医学部医学科学友会吉岡会長と医学部同窓会佐久間副会長から記念品が、また、学友会及び所属教室からは花束が贈呈されました。

最後に、医学部医学科3年加藤愛理さんが、「都ぞ弥生」のピアノ演奏を行い、盛会のうちに閉会となりました。

## 退職者

<令和元年度>

皮膚科学教室 清水 宏 教授  
最終講義題目「人を育てる」

<令和2年度>

分子病理学教室 笠原 正典 教授  
最終講義題目「私の研究の軌跡」

(医学研究院・医学部)



最終講義にて挨拶する氏家教授



最終講義をする笠原教授



吉岡研究院長による挨拶



佐久間医学部同窓会副会長による挨拶



佐邊教授による教授会代表挨拶



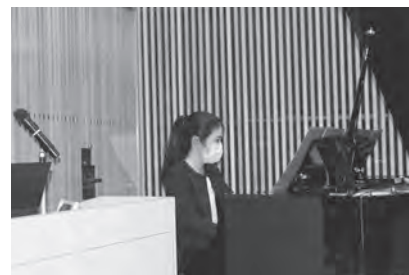
賞状及び記念品の贈呈



分子病理学教室からの花束贈呈



退職記念式典にて挨拶する笠原教授



加藤さんによるピアノ演奏

## 医学研究院医理工学グローバルセンターが第3回分子医理工学サマースクール及び第7回医学物理サマースクールを開催

医学研究院医理工学グローバルセンターは、2月15日（月）から19日（金）まで第3回GI-CoRE分子医理工学サマースクール及び第7回GI-CoRE医学物理サマースクールを開催いたしました。

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、今年度は両スクールともにオンライン開催となりました。医学研究院、工学研究院、保健科学研究院、理学研究院、北海道大学病院、アイソトープ総合センター所属の学内講師に加え、スタンフォード大学、ケンブリッジ大学等の世界的な講師がライブあるいは

オンタイムで講義を行いました。

第3回GI-CoRE分子医理工学サマースクールでは放射線生物学や分子イメージング等医理工学の基礎、応用研究、実験実施方法などの理論とデモンストレーションを網羅した包括的な講義が実施されました。

また、第7回GI-CoRE医学物理サマースクールでは、医学物理を中心とした医理工学の理論のみならず、最先端技術にふれるデモンストレーションも配信しました。

各サマースクールの一部講義については、昨年引き続き合同で行われま

した。

今回は医理工学院の履修登録者のほか、過去のサマースクール参加者や学内から希望を募った結果、延べ388名の聴講者が講義をweb視聴しました。例年と異なる遠隔方式でしたが、参加者は幅広い分野の見識を広め、活発に意見交換を行っておりました。今年度の経験を踏まえ、今後も若手育成プログラムが更に発展することが期待されます。

（医理工学院、医学研究院）



講義の様子



## 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第17期修了生に 修了証書授与

3月25日（木）、本学修士・専門職学位・博士学位記授与式後に、エンレイソウ第一会議室において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、渡邊雅彦センター長から修了証書が授与されました。

今年度は第17期生として、修士課程4名（高野一義：保健科学院，李林曦，倫学亮：文学院，黄嘉豪：生命科学学院）が所属学院の学位取得に加えて発達脳科学専攻の定める修了要件を満たし、修了が認定されました（黄さんについては9月修了のため修了証書授与は3名）。

センターでは、脳科学に関する大学院共通授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、札幌近郊での合宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数部局の基幹教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、合宿研修や修了論文の公開発表会では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の院生・教員に自分の研究を分かりやすく紹介し、議論することを重視しています。

発達脳科学専攻は、文理融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足しました。現在は、学内10学院にわたる大学院生を対象とし

て複雑な機能をもつ脳に関した分野融合的な教育プログラムを提供し、広い視野をもった次世代を担う人材の育成を進めています。これまでに修士課程115名及び博士（後期）課程24名、計139名の修了生を送り出しています。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で多くの講義がオンライン授業となったり、実習が取りやめになったりしましたが、制限された中で多くの履修生が脳科学の勉強や研究に励んでいます。

（脳科学研究教育センター）



渡邊センター長から修了証書の授与



今年度の修了生と基幹教員

# 令和2年度保健科学院長賞及び保健科学院修士課程研究発表賞授与式を挙

保健科学院長賞は、優れた学業成績と研究業績を挙げた本学院修了年次学生のうち、学業成績及び研究等に関し、優秀な成績かつ顕著な業績等であった学生（原則各コース1名）へ授与されるものです。

また、保健科学院修士課程研究発表賞は、修士論文又は特定課題研究報告書に関する公開発表会において、優れた発表を行った修士課程修了年次学生（若干名）へ授与されるものです。

このたび下記の方々が表彰者と決定

され、3月25日（木）に授与式が挙

（保健科学院）

## 令和2年度保健科学院長賞受賞者

課 程	コース名	氏 名
博士後期課程	看護学コース	蘇 雅
修士課程	保健科学コース	岡村 未里
修士課程	看護学コース	紺谷 一生



学院長賞

## 令和2年度保健科学院修士課程研究発表賞受賞者

コース 科目群	氏 名
保健科学コース 生体情報科学科目群	関島 将人
保健科学コース リハビリテーション科学科目群	田中 耀介
看護学コース 看護学科目群	紺谷 一生



修士課程研究発表賞

## 令和2年度医学部保健学科卒業研究優秀賞表彰授与式を挙

この表彰は、医学部保健学科4年次に在籍する学生で、保健科学における新しい研究課題を積極的に開拓し、優

れた卒業研究を行った個人へ授与されるものです。

このたび下記の方々が表彰者と決定

され、3月25日（木）に授与式が挙行されました。

（医学部保健学科）

専攻	氏名
看護学専攻	宇高 由莉
看護学専攻	萩野 公香
看護学専攻	高橋 大雅
看護学専攻	辻脇野乃花
放射線技術科学専攻	小亀 翔揮
放射線技術科学専攻	小平 悟史
理学療法学専攻	高村 巴菜
作業療法学専攻	佐藤 吏紗

※萩野公香さんは都合により欠席



卒業研究優秀賞

## ■お知らせ

# 令和3年度人間ドック・特定健康診査の実施について

文部科学省共済組合北海道大学支部では、文部科学省共済組合本部の指導の下、保健事業の一環として健康管理の推進を目的に人間ドック・特定健康診査を次のとおり実施しております（任意継続組合員を含む）。

なお、受付等については専門業者へ外部委託となり、組合員が直接文部科学省共済組合ホームページから申込みしていただくこととなります。

### 1. 申込期間

令和3年4月1日（木）～令和4年1月10日（月）まで

### 2. 受診期限

令和4年1月31日（月）まで

### 3. 対象者

#### ①人間ドック

令和3年4月1日現在満35歳以上となる組合員及びその被扶養配偶者、任意継続組合員本人及びその被扶養配偶者

#### ②特定健診

令和4年3月31日までに40歳以上となる組合員の被扶養者、任意継続組合員本人及びその被扶養者

#### ③生活習慣病予防健診

令和4年3月31日までに40歳以上となる組合員の被扶養者、任意継続組合員本人及びその被扶養者

※人間ドック、特定健診、生活習慣病予防健診は、受診期限内にいずれか1回受診できます。

※特定健診、生活習慣病予防健診は、組合員は受診できません。

（任意継続組合員は除く。）

※申込日及び受診日の両時点において、組合員資格または被扶養者資格があることをご確認ください。

### 4. 補助額

#### ①人間ドック

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

組合員（任意継続を含む） 30,000円（上限・税込）

被扶養配偶者（任意継続を含む） 25,000円（上限・税込）

※補助額を超えた料金は、自己負担となります。

※オプション検査料は、ドック本体料金と合わせ、補助額を超過した分は自己負担となります。

※受診料の自己負担額は、当日医療機関で支払います。

#### ②特定健診

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

全額補助（自己負担なし）

#### ③生活習慣病予防健診

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

全額補助（自己負担なし）

※オプション検査料は、全額自己負担となります。

※受診料の自己負担額は、当日医療機関で支払います。

## 5. 申込方法, 健診機関

申込方法, 健診機関につきましては, 文部科学省共済組合ホームページでご確認願います。

なお, ホームページを閲覧できない方は, FAX, 郵送での申込となりますので所属部局等の担当者へお尋ねください。

文部科学省共済組合ホームページアドレス

<http://www.monkakyosai.or.jp/>

**お問い合わせ先**

(株) ベネフィットワン・ヘルスケア健診予約受付センター

TEL 0800-8888-009 (フリーコール)

03-6870-2796 (有料)

受付時間: 平日10~21時, 土日祝10~18時

## 6. その他

平成20年度から健康保険組合に「特定健康診査」が義務づけられたことに伴い, 今回実施する健康診断結果のうち, 法定健診項目及び特定健診項目に関する診断内容及び問診結果等の個人情報については保有・利用させていただきます(目的外利用はいたしません)。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

## 博士学位記授与

3月25日（木）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は275人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は16人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

### 課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（法学）	おおくしりんいち 大 串 倫 一		契約自由の制限をめぐる憲法原理に関する一考察：契約対等の侵害に対する契約自由の憲法保障に関するドイツ憲法学説・判例の変遷を中心に 主査：教授 西村 裕一
	たにりょうた 谷 遼 大		行政法理論における主観的権利の現代化——EU環境法における「個人の権利」とそのドイツ行政法に対する影響を手がかりとして—— 主査：教授 岸本 太樹
博士（水産科学）	あべたかし 阿 部 嵩 志		遡河性サケ属魚類のシナプス開口放出関連分子に関する分子神経学的研究 主査：特任教授 安井 肇
	こみしんたろう 五 味 伸 太 郎		網漁具の状態推定と制御に関する基礎的研究 主査：教授 木村 暢夫
	まついなつき 松 井 菜 月		日本沿岸に生息するネズミイルカ <i>Phocoena phocoena</i> の成長、成熟と食性 主査：教授 高津 哲也
	ムディー ラシドゥル M d. Rashidul イスラム Islam		Studies on the industrial applications of gelatin and peptide produced from sturgeon by-products (チョウザメの副産物から得られるゼラチンとペプチドの産業応用に関する研究) 主査：特任教授 足立 伸次
	たかなおき 高 谷 直 己		慢性炎症疾患の予防基盤となるカロテノイドおよびアポカロテノイドの細胞機能調節作用に関する研究 主査：教授 酒井 隆一
	ほりうちもみ未 堀 内 萌 未		ニホンウナギの性分化機構に関する研究 主査：教授 都木 靖彰
	マニッシュ ラマiah Manish Ramaiah		Role of treated wastewater in mitigating urbanization impacts and maintaining regulatory ecosystem services (都市化の影響を緩和し調整生態系サービスを維持する上での処理水の役割) 主査：教授 沖野 龍文
博士（環境科学）	たなかしずゆき 田 中 静 幸		Studies on the onion cropping type for realizing the early shipment in northeastern Hokkaido (北海道北東部におけるタマネギの早期出荷作型の確立に関する研究) 主査：教授 星野 洋一郎
	シン 申	ユアン 元	Morphological dynamics and behavior of mitochondria through the life cycle of the brown alga, <i>Mutimo cylindricus</i> (褐藻ムチモにおける生活環を通じたミトコンドリアの形態と挙動に関する研究) 主査：教授 長里 千香子
	ユフィタ ドワイ Yufita Dwi チンタ Chinta		Studies of properties of microorganisms in bulk and rhizosphere soils following the application of cover crops (緑肥施用土壌の根域および根圏における微生物特性に関する研究) 主査：教授 星野 洋一郎

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（環境科学）	ジェイソン リー Jason Lee アンダース Anders		Effects of dietary shift and altered helminth infection on the gut microbiota of two sympatric rodents in urban environments (都市化にともなう食性と寄生虫相の改変が同所的に生息する齧歯類の腸内細菌叢に及ぼす影響) 主査：准教授 小泉 逸郎
	なん ぼ みず ほ穂 難 波 瑞 穂		The effect of salinity gradient on ecosystem functions and biodiversity of eelgrass bed communities (塩分勾配がアマモ場群集の機能と多様性に与える影響) 主査：教授 仲岡 雅裕
	うち だ よう こ子 内 田 葉 子		Studies on reproductive compensations of host plant against floral herbivore -Interspecific relationship between <i>Phengaris teleius</i> and <i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>alba</i> - (花食者に対する宿主植物の繁殖補償に関する研究 -ゴマシジミとナガボノシロワレモコウの種間関係-) 主査：教授 大原 雅
	ふく とみ ゆう いち一 福 富 雄 一		Analysis of gene network for color pattern formation and the mechanism of the prepattern determination in <i>Drosophila guttifera</i> (ミズタマシヨウジョウバエを用いた模様形成遺伝子ネットワークとプレパターン決定機構の解析) 主査：准教授 越川 滋行
	ハイリナイエニ Khairina Yeni		A trial to enhance the production yield of a duckweed, <i>Lemna gibba</i> , in food factory wastewater utilizing indigenous bacteria (食品工場排水における土着細菌を活用したウキクサ植物 <i>Lemna gibba</i> の生産収率向上の試み) 主査：教授 森川 正章
	わく い あき み実 和久井 彬 実		Ecotypic differentiation of northern plant species in mid-latitudes: the mechanisms of population maintenance in two ericaceous alpine species in northern Japan (中緯度地域における北方植物の生態型変異：ツツジ科高山植物2種の北日本における個体群維持機構) 主査：准教授 工藤 岳
	おお つか ゆう 侑 大 塚 侑		表面での鈴木-宮浦クロスカップリングを用いた蛍光溶バトクロミックビーズの合成及び光導波路分光装置によるバイオアフィニティーセンシングデバイスの構築 主査：准教授 山田 幸司
	なが お まさ のり紀 長 尾 昌 紀		TiH <sub>2</sub> を還元剤に用いたMagneli相チタン酸化物の合成とその触媒機能開拓 主査：教授 神谷 裕一
	はし もと かず たか孝 橋 本 和 孝		構造制御に基づいた高活性かつ高耐久性鉄系ペロブスカイト型酸化物触媒の開発 主査：教授 神谷 裕一
	リ 李 ス 敏 李 思 敏		Multifunctional systems based on supramolecular motions in [Ni(dmit) <sub>2</sub> ] magnetic crystals ([Ni(dmit) <sub>2</sub> ]磁性結晶における超分子運動に基づく複合機能系) 主査：教授 中村 貴義
	チン 沈 ヨウ陽 沈 陽		Studies on interparticle charge-transfer excitation: Novel band-structure analysis of semiconducting metal-oxide photocatalysts based on energy-resolved distribution of electron traps (粒子間電荷移動励起に関する研究 -電子トラップ密度のエネルギー分布にもとづく半導体金属酸化物光触媒の新規バンド構造解析) 主査：教授 大谷 文章
	タリシニー Tharishinny ラジャー モーガン Raja Mogan		Studies on inverse opal-structured titania with gold nanoparticles as novel design for photoabsorption-efficiency enhancement in photocatalysis (光吸収効率増大のための新規デザインとしての金ナノ粒子含有逆オパール構造酸化チタン光触媒に関する研究) 主査：教授 大谷 文章

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（理学）	かみ じま よし のり 上 島 芳 倫	Mean-field behavior for percolation models (パーコレーション模型に対する平均場臨界現象) 主査：教授 坂井 哲
	さ とう なお と 佐 藤 直 飛	Differential Geometry of Statistical Submanifolds (統計部分多様体の微分幾何学) 主査：准教授 古畑 仁
	とよ かわ ひさ よし 豊 川 永 喜	Absolutely continuous $\sigma$ -finite invariant measures for Markov operators and dissipative behavior of random dynamical systems (マルコフ作用素に対する絶対連続 $\sigma$ -有限不変測度とランダム力学系の散逸挙動について) 主査：特任教授 由利 美智子
	にい むら たか ゆき 新 村 貴 之	Global in time stability with respect to the rotational inertia for nonlocal extensible beam equations (梁方程式の回転慣性に関する時間大域的安定性) 主査：教授 久保 英夫
	まつ ぎか こう き 松 坂 公 暉	The Theory of Pseudo-Fan and Toric Construction of Moduli Space of Quasi Maps from $\mathbb{P}^1$ with Two Marked Points to $\mathbb{P}^1 \times \mathbb{P}^1$ (擬扇の理論および2点付き $\mathbb{P}^1$ から $\mathbb{P}^1 \times \mathbb{P}^1$ への擬写像のモジュライ空間のトーリック構成) 主査：教授 石川 剛郎
	やま がた そう 山 形 颯	Studies on combinatorics of discriminantal arrangement (判別的配置とその組合せ論的構造) 主査：准教授 Settepanella Simona
	よし だ けい すけ 吉 田 啓 佑	KMS States on Operator Algebras Associated with Self-Similar Groups (自己相似群に付随する作用素環上のKMS状態) 主査：准教授 鈴木 悠平
	おお うち まり め 大 内 まり 絵	Anomalous Hall effect on a vortex of supercurrent in type-II superconductors (第二種超伝導体の超伝導渦電流に対する異常Hall効果) 主査：教授 北 孝文
	き むら たく 木 村 たく 卓	Projective-Symmetry-Group Analysis of Majorana-Spinon-Mediated Raman Scattering in Kitaev Spin Balls (Kitaevスピン・ボールにおけるMajoranaスピノン媒介Raman散乱の拡張対称操作群による解析) 主査：教授 山本 昌司
	さわ だ まさ し 澤 田 賢 志	Pressure effect on electric and magnetic properties in $\lambda$ - $(D)_2$ GaCl <sub>4</sub> [ $D = \text{ET, BETS}$ ] proved by <sup>13</sup> C-NMR and Coupling of molecular motion and electronic state of organic molecular dimer Mott insulator $\beta'$ -(ET) <sub>2</sub> ICl <sub>2</sub> proved by <sup>1</sup> H- and <sup>13</sup> C-NMR ( <sup>13</sup> C-NMR法による、 $\lambda$ - $(D)_2$ GaCl <sub>4</sub> [ $D = \text{ET, BETS}$ ]の圧力下電子物性の研究および <sup>1</sup> H- および <sup>13</sup> C-NMR法による、ダイマーMott絶縁体 $\beta'$ -(ET) <sub>2</sub> ICl <sub>2</sub> の電子状態と結合する分子運動に関する研究) 主査：教授 河本 充司
	みず た しゅう せい 水 田 崇 聖	Interplay between Checkerboard and Quasiparticle Interference Modulations in Bi <sub>2</sub> Sr <sub>2</sub> CaCu <sub>2</sub> O <sub>8+x</sub> (Bi <sub>2</sub> Sr <sub>2</sub> CaCu <sub>2</sub> O <sub>8+x</sub> におけるチェッカーボード変調と準粒子干渉変調の相互作用) 主査：教授 小田 研
	アハマド AHMAD シャケール SHAQEER モハメド MOHAMED タハヘール THAHEER	Determination of Water Contaminant Concentration using Spectro-polarimetric Bidirectional Reflectance Factor (水域の分光及び偏光双方向反射係数を用いた汚染物質濃度の決定) 主査：教授 高橋 幸弘
しお はら けん じ 塩 原 堅 司	Study of Local Bulk Operator inside the Horizon of BTZ Black Hole (BTZ ブラックホールのホライズン内部における局所的なバルク演算子に関する研究) 主査：准教授 中山 隆一	



博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（理学）	チュン 陳 シア 珈 ルー 璦		Surface Melting of Polycrystalline Ice Thin Films (氷多結晶薄膜の表面融解に関する研究) 主査：教授 佐崎 元
	よし 吉 だ 田 たつ 辰 や 哉		Hydrodynamic escape of reduced proto-atmospheres on Mars and Earth (火星・地球における還元型原始大気の流れ力学的散逸) 主査：教授 倉本 圭
	アイ ミ フォロー Aye Mee Forro バルトシリョ Bartocillo		Molecular Evolutionary Studies on the Major Histocompatibility Complex of Japanese and Russian Raccoon Dogs, <i>Nyctereutes procyonoides</i> (日本およびロシアにおけるタヌキ <i>Nyctereutes procyonoides</i> の主要組織適合遺伝子複合体に関する分子進化学的研究) 主査：教授 増田 隆一
	さわ 澤 だ 田 あきら 明		Eco-evolutionary studies on mate choice of the Ryukyu Scops Owls <i>Otus elegans</i> on an isolated oceanic island (隔離海洋島におけるリュウキュウコノハズクの配偶者選択に関わる進化生態学研究) 主査：教授 高木 昌興
	たに 谷 うち 内 はじめ 元		Long-term evolution of a subduction zone volcano: Geology, petrology, and geochemistry of Rishiri Volcano, southern Kuril Arc (沈み込み帯火山の長期進化過程：千島弧南部, 利尻火山の地質学・岩石学・地球化学) 主査：准教授 栗谷 豪
	チョロウィット Cholawit ソンチャローンチャイキット THONGCHAROENCHAIKIT		The Application of Discriminant Function Analysis to Atlas and Axis Vertebrae of Toothed Whales: Aiding Species Identification of Zooarchaeological Remains (ハクジラ類第一・第二頸椎への判別分析の適用：遺跡出土試料の種同定に向けて) 主査：教授 増田 隆一
	なが 永 た 田 こう 康 すけ 祐		Quantitative visualization of stable isotope-labeled chromosome using isotope nanoscope (同位体ナノスコープによる安定同位体標識された染色体の定量的な可視化) 主査：教授 坂本 尚義
	ほし 星 の 野 まさ 雅 かず 和		Systematic biology and sexuality in the genus <i>Scytosiphon</i> (Scytosiphonaceae, Phaeophyceae) (褐藻カヤモノリ属 (カヤモノリ科) における系統分類, 生殖隔離, 生殖様式について) 主査：教授 小亀 一弘
	まつ 松 ぎわ 澤 ひと 仁 し 志		Seismic Imaging of the Upper Mantle with Multi-mode Surface Waves Using Broadband Seismic Arrays (広帯域地震観測網を用いたマルチモード表面波による上部マントルの地震学的イメージング) 主査：准教授 吉澤 和範
	モ ハン マド MOHAMMAD ユザリヤディ YUZARIYADI		Comprehensive Study of the Enhancement of Interplate Coupling in Adjacent Segments after Recent Megathrust Earthquakes (最近のプレート境界地震に続いて隣接セグメントで生じたプレート間固着強化に関する包括的研究) 主査：教授 日置 幸介
博士（農学）	すえ 末 なが 永 ち 千 え 絵		eコマース向け青果物サプライチェーンに関する研究 主査：教授 坂爪 浩史
	ムド Md. カウ サ ウル アラム Kauser-Ul-Alam		Studies on the color improvement of meat products using LAB that form ZnPP aerobically and the formation mechanism (好氣的にZnPPを形成する乳酸菌を用いた食肉製品の色調改善技術とそのメカニズムに関する研究) 主査：准教授 若松 純一
	イ 李 キョウ 京 ミン 珉		Survival strategy of foodborne pathogenic bacteria under low water activity environment: Contribution of glass transition phenomenon of bacterial cells (低水分活性環境における食品媒介食中毒細菌の生存戦略：細菌細胞のガラス転移現象の寄与) 主査：教授 小関 成樹

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（農学）	チョウ 趙 ビョン 秉 ヒョ 休		Development of computer-vision system based on smartphone image and artificial neural network for postharvest management of agricultural products (農産物の収穫後の管理のためのスマートフォンのイメージとニューラルネットワークを基盤としたコンピュータービジョンシステムの開発) 主査：教授 小関 成樹
	やま 山 や 谷 ゆう 祐 き 貴		合成開口レーダを利用した圃場情報の取得に関する研究 主査：特任准教授 谷 宏
	リン 林 ケン 金 ホウ 鋒		The microbial dynamics in natural farming rice paddy (自然農法水田における土壌微生物ダイナミクス) 主査：准教授 内田 義崇
	はやし 林 のり 憲 や 哉		Studies on upstream open reading frame-encoded peptides that cause ribosome stalling in plants (植物におけるリボソームの停滞を起こす上流ORFペプチドの研究) 主査：准教授 尾之内 均
	きく 菊 ち 池 あさ 麻 こ 子		糖質加水分解酵素ファミリー97が示す多様な基質認識機構 主査：教授 木村 淳夫
	くに 國 吉 吉 だい 大 ち 地		アジアとアフリカに起源する栽培イネ種間雑種の育種障壁克服と倍数体発生の遺伝学的機序 主査：教授 貴島 祐治
	JAYASINGHE ウィクム Wikum ハーシャナ Harshana		Evolution of symbiotic interactions to enhance aphid transmission of plant viruses and satellite RNAs (ウイルスやそのサテライトRNAのアブラムシ伝搬を促進する共生相互作用の進化) 主査：教授 増田 税
	おお 逢 さか 坂 みみ 文 な 那		腸内細菌による腸管粘膜免疫の調節におけるmicroRNAの役割に関する研究 主査：教授 園山 慶
	さかき 榊 ぼら 原 よし 義 みち 道		特異な環系化合物の反応性を応用した有機分子ツールの開発 主査：教授 松浦 英幸
	た 田 ぐち 口 よう 陽 だい 大		Functions, structures, and applications of enzymes acting on trehalose and its derivatives (トレハロースおよびその誘導体に作用する酵素の構造、機能ならびに応用に関する研究) 主査：准教授 佐分利 亘
	ジャン ソンハン		Elucidation of molecular bases underpinning insect-bacteria gut symbiosis (昆虫と細菌の腸内共生を支える分子基盤の解明) 主査：客員准教授 菊池 義智
	つ 津 がみ 上 ゆう 優 さく 作		乳腺上皮細胞の乳産生に対する植物エストロゲンの生理作用と作用機序の解明 主査：准教授 小林 謙
	ど 土 い 居 みき 幹 お 生		ケルセチン高含有タマネギから単離同定したピネリン酸による核内受容体PPAR $\alpha/\gamma$ 活性化に関する研究 主査：教授 松浦 英幸
	ほり 堀 しょう 将 た 太		高脂肪食摂取で増加する12 $\alpha$ 水酸化胆汁酸による脂肪肝の誘導とその発現機構 主査：教授 石塚 敏
	かわ 河 むら 村 かず 和 ひろ 洋		Effects of plantation management on biodiversity: large-scale tests considering climates and seasons (人工林の管理が生物多様性に及ぼす影響：気候と季節を考慮した広域的検証) 主査：教授 中村 太士
	まめ 豆 の 野 こう 皓 た 太		Social science research on invasive species management: Insights from outdoor cat management (外来種管理に対する社会科学的研究：ノネコ管理に基づく考察) 主査：准教授 庄子 康

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（生命科学）	ウドイ ションコル Udoy Sankar バシヤック Basak		Study on Identification of Leader and Follower Agents and its Interaction Domain from Trajectories in a Collectively Moving Colony (協同的コロニーの軌道データによる先導・従エージェントとそれらの相互作用領域の同定に関する研究) 主査：教授 小松崎 民樹（電子科学研究所）
	ツ チ トラム TU Thi Tram アン Anh		Immunostimulatory properties of CpG oligodeoxynucleotides forming monomeric guanine-quadruplex structure (単量体グアニン四重鎖構造を形成するCpGオリゴデオキシヌクレオチドの免疫活性化特性) 主査：客員准教授 山崎 智彦
	パブロ アドリアン Pablo Adrián ゴジエン ポザ Guillén Poza		Unnatural MUC1 based glycopeptides in early stage breast cancer biomarkers discovery (非天然型 MUC1糖ペプチドによる乳がん早期バイオマーカーの探索) 主査：教授 西村 紳一郎
	や ぐち かん 矢 口 完		Cellular basis underlying the intolerance to haploidy in vertebrates (脊椎動物における一倍体細胞の性質) 主査：准教授 上原 亮太
	わく い はじめ 浦 井 初		Study on Anti-MUC1 Monoclonal Antibody for Precise Recognition of Glycopeptidic Neoantigen: Approach from Epitope Defined Strategy (エピトープ規定戦略を用いた、糖ペプチドネオ抗原の正確な認識のための抗MUC1モノクローナル抗体の研究) 主査：教授 西村 紳一郎
	ア タ ナ ヤケ Atthanayake ムヂイ ヤン セラゲ Mudiyanselage トウシサ コサラ Thusitha Kosala バンダラ Bandara		Studies on multifunctional genome elements functioning in mouse spermatogenesis (マウス精子形成で機能する多機能性ゲノムに関する解析) 主査：准教授 木村 敦
	お ばた だい ち 小 畑 大 地		クロロフィル—Mg脱離酵素SGRの酵素活性の進化と触媒機構 主査：准教授 田中 亮一
	さ とう のどか 佐 藤 和		Action selection in the escape behavior of crickets (コオロギの生得的逃避行動における戦略選択) 主査：教授 小川 宏人
たけ い なつ み 武 井 夏 海		Molecular biological studies on temporal and spatial regulation of translation during oocyte maturation in mouse (マウスの卵成熟過程における翻訳の時空間制御の分子生物学的研究) 主査：准教授 小谷 友也	
博士（薬科学）	じょう もり たか ひろ 城 森 啓 宏		Calyculin生合成経路における活性化機構に関する研究 主査：教授 脇本 敏幸
	た なか りょう 田 中 亮		Cp*Co(III)およびCp*Rh(III)触媒を用いたプロトン移動型C-H官能基化反応の開発 主査：教授 松永 茂樹
	なか じま こう へい 中 島 孝 平		がん光免疫療法のメカニズム解明および適用拡大を目指した基礎的研究 主査：教授 小川 美香子
	ふか がわ せい や 深 川 聖 弥		Cp*M(III)/キラルカルボン酸ハイブリッドシステムを利用した不斉C(sp <sup>3</sup> )-H活性化反応 主査：教授 松永 茂樹
	ぶん の ゆう か 文 野 優 華		不斉C-H官能基化反応を指向した複核シッフ塩基触媒の創製 主査：教授 松永 茂樹
	やま うち なお き 山 内 直 紀		慢性痛による情動変容における拡張扁桃体の可塑的变化の役割 主査：教授 南 雅文
	やま もと かず き 山 本 一 貴		MraY阻害天然物を基盤とした新規抗薬剤耐性菌薬リードの開発研究 主査：教授 市川 聡

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（ソフトマター科学）	こまつ しょう けい 小松 陽介		Application of NMR Metabolomics to Pathological and Nutritional Fields (NMRメタボロミクスの病理学・栄養学分野への応用) 主査：教授 相沢 智康
	むらべ けい けい 村部 圭祐		Analysis of the Substrate Uptake and Release Reactions of the Light-Driven Sodium-Pump Rhodopsin (光駆動ナトリウムポンプロドプシンによる基質の取込み・放出反応の解析) 主査：教授 出村 誠
博士（臨床薬学）	えんどう りき と 遠藤 力斗		siRNA搭載脂質ナノ粒子による腫瘍微小環境のリプログラミングと新規がん治療法への展開 主査：准教授 山田 勇磨
	おかもと けい けい 岡本 敬介		抗がん剤の副作用と耐性化に着目したcyclooxygenase阻害薬の効果の検証 主査：准教授 小林 正紀
	かぶら き 素代子 蕪木 素代子		高齢者に対する適切な薬物投与設計のための体組成を考慮した腎および肝機能の評価 主査：准教授 武隈 洋
	きむら ゆき けい 木村 有希		モノカルボン酸輸送担体 (MCT) 11が2型糖尿病病態に与える影響に関する研究 主査：准教授 小林 正紀
	しら いし たか や 白 石 昂也		新規アルツハイマー病治療薬としての加齢に伴うAlcadin βの発現低下を抑制する薬剤の開発 主査：特任教授 鈴木 利治
	やすだ げん き 保田 元気		腸管モデル細胞におけるα-defensin5分泌と排出系トランスポーター発現との関連性に関する研究 主査：准教授 小林 正紀
博士（教育学）	ケン エン レイ 権 艶 麗		グローバル・シティ上海への中国朝鮮族の移動に関する研究-「移動のなかに住まう」を実践する人々の場所からの考察- 主査：准教授 土田 映子
	シン ウン ジン 申 恩 真		女子サッカー選手の労働と生活に関する研究-不安定な競技実践形態とアスリート・アイデンティティをめぐるエスノグラフィー- 主査：准教授 辻 智子
	ブン ケイ チョウ 文 慧 超		青年期における対日イメージの発達の変化-中国の若者の自己認知と他者認知に注目して- 主査：特任教授 長野 督
	よし かわ かず ゆき 吉 川 和 幸		障害のある子どもに対する保育者の子ども理解の構造とその変容-個別の指導計画及び保育記録を媒介として- 主査：准教授 川田 学
博士（学術）	ジョ ゼン スイ 徐 善 水		近代日本における風景選定イベント-メディア・イベントにおける風景の政治的メタファー- 主査：教授 渡邊 浩平
	チョウ カン ウン 趙 瀚 雲		ナショナリズムの自己再生産に関する研究-コミュニケーション・メディアとしてのネーションの可能性について- 主査：教授 鈴木 純一
博士（観光学）	キム ミョン ジュ 金 明 柱		まち歩き観光における住民の役割パフォーマンスに関する研究-長崎さるくを事例として- 主査：教授 山田 義裕
	ひろ せ せい こ 広 瀬 正 剛		旅行案内書を主な分析資料とした温泉地域の近代化過程に関する研究-有馬温泉を事例として- 主査：教授 山村 高淑
博士（保健）	やま きき しょうじろう 山 崎 尚二郎		The effects of maternal polyphenol intake during lactation on lipid metabolism in adult rat offspring (授乳期母親のポリフェノール摂取が成熟期仔ラットの脂質代謝に及ぼす影響) 主査：教授 惠 淑萍
	やま もと ゆう けい 山 本 祐 輔		リゾホスファチジルエタノールアミンの質量分析法の確立と応用に関する研究 主査：特任教授 齋藤 健
	はせがわ しん 慎 長谷川 慎		福島第一原子力発電所事故後における放射線の情報提供に関する情報学的研究 主査：准教授 杉森 博行

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（看護）	いしほ 六 戸 穂		気持ちよさを提供する温タオル貼用清拭が入院患者の心身に及ぼす影響 主査：教授 佐藤 洋子
	スウ 蘇 雅		Associated factors analysis and nomogram development for post-stroke fatigue after discharge (脳卒中後疲労の関連因子解明と退院後リスク予測モデルの開発) 主査：教授 矢野 理香
博士（工学）	いい 飯 島 智 徳		半導体量子井戸構造における井戸間電子移動を用いたスピン緩和とスイッチングの理論的研究 主査：教授 明楽 浩史
	ふじ 藤 木 結 香		複雑ネットワークにおける長距離次数相関 主査：教授 矢久保 考介
	やま 山 村 明 宏		正立等倍像を形成するレンズアレイの開発 主査：特任教授 西口 規彦
	やま 山 本 壮 太		ナノ構造半導体における電子-核スピン結合系ダイナミクス 主査：教授 足立 智
	あき 秋 田 郁 美		Direct imaging of free-standing clay mineral nanosheets and their molecular complexes via multivalent electrostatic interactions using scanning transmission electron microscopy (Free-standingな粘土鉱物ナノシートと多重静電相互作用による有機分子複合体の走査透過電子顕微鏡観察) 主査：教授 米澤 徹
	おか 岡 ゆきみ		データ同化に基づく金属の凝固シミュレーションのパラメータ推定 主査：教授 大野 宗一
	ライ LEI Yu		Study on Cu-containing High Entropy Alloys for Nuclear Fusion Application (核融合用のCu含有高エントロピー合金に関する研究) 主査：教授 橋本 直幸
	こん 金 野 佑 亮		金属導体が内在する円筒固体材料上の火炎燃え広がりと消炎現象 主査：教授 藤田 修
	グエン Nguyen Truong Gia Tri		Effect of Flame Deformation of Downward Propagating Flames Induced by Laser Irradiation Method on its Combustion Instability (レーザー照射法による管内下方伝播火炎の変形が燃焼不安定性におよぼす影響) 主査：教授 藤田 修
	お 小 川 博 紀		精密位置決めステージにおける弾性構造物に対する相対位置決め制御に関する研究 主査：准教授 江丸 貴紀
	よね 米 沢 平 成		自動車駆動系における非線形性と制御周期制約を考慮した振動制御手法に関する研究 主査：教授 梶原 逸朗
	エドゥアルド Eduardo ナルバエス Narváez Fuertes		VTOL-UAV Docking System for Heterogeneous Multi-Robot Team (異種ロボットチームのためのVTOL-UAVドッキングシステム) 主査：准教授 江丸 貴紀
	なか 中 村 幸太郎		Study on flow transition of dilute bubbly fluids -circular pipe flow and bubble convection- (希薄分散気泡流体の遷移に関する研究 -円管内流と気泡対流-) 主査：准教授 田坂 裕司
	ひら 平 野 慎太郎		単結晶CVDダイヤモンド放射線検出器の大型化に向けた基板欠陥の影響評価と検出器応用 主査：准教授 金子 純一
リウ LIU JIANDI		Studies on synthesis characteristics and mechanism of cuprous oxide nanoparticles by plasma-assisted electrolysis (プラズマ支援電解法による酸化銅(I)ナノ粒子の合成特性および合成機構に関する研究) 主査：教授 佐々木 浩一	
おか 岡 部 和 憲		急流河川における急激で大規模な河道変動に伴う側岸侵食リスクと治水対策に関する研究 主査：教授 清水 康行	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（工学）	アルネズ ARNEZ フェレル カティア FERREL Kattia ルビ Rubi		A combined approach to study meander migration in a river of the Bolivian Amazon basin: The Case of the Ichilo River (ボリビアアマゾン盆地におけるIchilo川の平面形状変遷に関する研究) 主査：教授 清水 康行
	ヤン 楊	シア 家 チアン 強	Methods for estimating permanent deformation of unsaturated aging railroad ballast under cyclic loading (繰返し荷重下の不飽和経年劣化鉄道バラストの永久変形量の推定法に関する研究) 主査：教授 石川 達也
	ない 内 とう 藤	いさ お 勲	寒冷環境下のコンクリート構造物における補修効果の持続性評価に関する研究 主査：特任教授 横田 弘
	は 長 せ 谷 かず 一 や 矢		海洋コンクリート構造物の予防保全型維持管理基準の構築に関する研究 主査：特任教授 横田 弘
	ショ 初	ジョウ 楚	中国北京市における所得階層混合型の住区計画に関する環境行動研究 主査：教授 森 傑
	あ 阿 べ 部 ゆう 佑 へい 平		熱エネルギーの面的利用の高効率化に向けた搬送動力の削減手法に関する研究 主査：特任教授 羽山 広文
	ふた 二 わたり 渡 なお 直 き 樹		ICT機器の特性を考慮したデータセンターの省エネルギー化に関する研究 主査：特任教授 羽山 広文
	こ 小 ばやし 林 か 香 なえ 苗		Coupled nitrogen and oxygen isotope effects of anaerobic ammonium oxidation (anammox) (アナモックス細菌の窒素および酸素同位体分別の解析) 主査：教授 岡部 聡
	なか 中 ぎわ 沢 よし 禎 みみ 文		Fate and Effective Control of Superfine Powdered Activated Carbon Particles in Drinking Water Treatment Process Consisting of Coagulation-Flocculation, Sedimentation, and Sand Filtration (凝集沈澱砂ろ過浄水処理における微粉化活性炭の処理性と高効率制御) 主査：教授 松井 佳彦
	と 戸 だ 田 か 賀 な 奈 こ 子		Key factors affecting the pozzolanic reaction of steel slag-dredged soil mixtures -From inorganic and organic perspectives- (浚渫土-製鋼スラグ混合土のポゾラン反応の鍵となる影響因子 -特に無機・有機の観点から-) 主査：教授 佐藤 努
クライトン フィリ Cryton Phiri		Understanding of geochemical partitioning and surface complexation modeling of heavy metals during treatment of mine drainage for green mining: Case study of the Zambian Copperbelt (グリーンマイニングのための廃水処理中の重金属分配の理解と表面錯体モデリングーザンビア国カッパーベルト地帯を例に一) 主査：教授 佐藤 努	
ホ Ho ヤ Gia ル Duc		pH-dependent leaching of arsenic from shield-tunneling excavated soils and its countermeasures (シールド工法によって掘削された土壌からのヒ素溶出のpH依存性とその対策) 主査：教授 五十嵐 敏文	
マーシアス Marthias シルワンバ Silwamba		Development of the detoxification method for zinc plant leach residues by removing heavy metals using coupled extraction-cementation (CEC) process (同時浸出-析出法に基づいた亜鉛浸出残渣からの毒性重金属の除去法の開発) 主査：准教授 伊藤 真由美	
博士（理学）	えん 遠 どう 藤 らい 頼 む 夢		Study on Lithiation and Delithiation Processes of Amorphous Silicon-Based Thin-Film Anodes for All-Solid-State Lithium-Ion Batteries (全固体リチウムイオン電池に向けた非晶質Si系薄膜負極のLi挿入・脱離過程に関する研究) 主査：教授 村越 敬
	おい 及 かわ 川 しゅん 隼 べい 平		Creation of Plasmonic Energy Transfer Systems Enabling Extreme Light Confinement (極限光集約を可能とするプラズモニクエネルギー移動システムの創出) 主査：教授 武次 徹也

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（理学）	キム 金	ヨシ ヨシ 俊	Design, Synthesis and Applications of Dumbbell-Shaped Bipyridines as Ligands for Transition Metal Catalysis (ダンベル型ビピリジン配位子の設計, 合成および遷移金属触媒反応への応用) 主査:教授 谷野 圭持
	さ 佐	とう 藤 和 都	Studies toward the Asymmetric Total Synthesis of Cyclocitrinol (シクロシトリノールの不斉全合成研究) 主査:教授 鈴木 孝紀
	たけ 竹	なか 中 将 斗	Theoretical Near-field Vibrational Spectroscopy (理論近接場振動分光学) 主査:教授 村越 敬
	チョウ 張	トク 徳 良	Catalytic Hydrogenation and Dehydrogenation of Heterocyclic Compounds through $sp^3$ -C-H Bond Activation (触媒的 $sp^3$ -C-H結合活性化によるヘテロ芳香族化合物の水素化と脱水素化反応) 主査:教授 谷野 圭持
	つづみ 堤	たく 拓 朗	<i>Ab initio</i> Molecular Dynamics Analysis based on Reduced-dimensionality Reaction Route Map (次元縮約反応経路地図に基づく第一原理分子動力学解析) 主査:教授 前田 理
	ふじ 藤	もり 森 俊 和	Development of Automated Error Control Scheme Based on Divide-and-Conquer Method for Large-Scale Quantum Chemical Calculation (大規模量子化学計算に対する分割統治法に基づいた誤差自動制御スキームの開発) 主査:教授 長谷川 淳也
	ヤン 楊	ガオ 高 梁	Surface/Interface Modulation of Hematite-based Photoanodes for Efficient Photoelectrochemical Water Oxidation (表面/界面構造制御によるヘマタイト系光電極の効率的な水の酸化反応に関する研究) 主査:教授 村越 敬
ワン 王	レイ 磊	Effect of Lithium Salt Concentration on Interfacial Solvation Structure and Electrochemical Oxygen Reduction for Nonaqueous Li-O <sub>2</sub> Battery (非水系Li-O <sub>2</sub> 電池の界面溶媒和構造と電気化学的酸素還元およびリチウム塩濃度の影響) 主査:教授 村越 敬	
博士（工学）	あき 秋	やま 山 颯 太	Copper(I)-Catalyzed Selective Synthesis of Fluorine-Containing Organoboron Compounds and their Applications (銅(I)触媒を用いた含フッ素有機ホウ素化合物の選択的合成とその応用) 主査:教授 大熊 毅
	ハム Hamdiye ECE	ディ イジエ	Lewis Acidic Catalysis of Silyl Cyanometallates in Transformations of Phenol and Aniline Derivatives (フェノールおよびアニリン誘導体変換反応におけるシリルシアノメタラートのLewis酸触媒作用) 主査:教授 伊藤 肇
	き 木	むら 村 仁 笑	Development of Microfluidic Devices for Production of Size-Controlled Lipid Nanoparticles and Application to Nanomedicines (脂質ナノ粒子作製用マイクロ流体デバイスの開発とナノ医薬品作製への応用) 主査:教授 佐藤 敏文
	くぼ 窪	だい 大 樹	Ionic Conduction in Layered Double Hydroxides and Application to Electrochemical Devices (層状複水酸化物のイオン伝導性評価と電気化学デバイスへの応用) 主査:教授 安住 和久
	こ 小	まつ 松 雄 士	Development of Paper-based Analytical Devices for Low-cost, Rapid and Straightforward Measurement of Components in Human Whole Blood (安価, 迅速, 簡便なヒト血中成分測定のためのペーパーデバイスの開発) 主査:教授 佐藤 敏文

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（工学）	ウィヤンティ フランシスカ Wiyanti Fransisca シマヌラン Simanullang		Highly Efficient Ni-Based Catalysts as Noble-Metal-Alternative for (De)Hydrogenation Reactions (水素化脱水素に有効な貴金属代替Ni触媒の開発) 主査：教授 清水 研一
	にしやま けいお 西 山 慶 音		Development of Microdevice-based Immunoassay Systems for Point-of-Need Testing (現場即時検査のためのマイクロデバイスを用いたイムノアッセイシステムの開発) 主査：教授 佐藤 敏文
	ラ ラ ファディラ Laras Fadillah		Formation of Nanostructured Anodic Films on Iron and Their Electrode Applications (鉄へのナノ構造アノード酸化皮膜の形成と電極応用) 主査：教授 安住 和久
	フウ 馮	サトシ 智	Biosynthetic Studies on a D-tryptophan-containing Lasso Peptide, MS-271 (D-トリプトファン含有ラッソペプチド天然物MS-271の生合成研究) 主査：教授 松本 謙一郎
	フ 傳	ハク 博	不織布担体を用いた間葉系幹細胞の増殖培養におけるプロセス工学的研究 主査：教授 大川 徹
博士（経営学）	フィヨリ アフェワーク Fiyori Afeworki ネガシ Negash		The Relationship between Saving and Micro Credit Program and Small Businesses in Eritrea: Evidence from Central Zone (エリトリアにおけるマイクロファイナンス機関と中小企業に関する実証分析) 主査：教授 石井 利昌
	ネ ル グ イ NERGUI エンフザヤ ENKHZAYA		The entrepreneurial process from intention to behavior: Focusing on the moderating roles of human capital, social networks, and financial capital (起業意図と起業行動の関係：人的資本、社会的ネットワーク、財務資本に着目して) 主査：教授 岩田 智
	よし 吉	ゆう 野 有	心理的エンパワーメントに関する実証研究 主査：教授 岩田 智
	なが 永	まさ 田 正	部下育成行動とリフレクション支援 主査：准教授 阿部 智和
博士（医学）	あい 相	たけし 山 健	肝細胞癌におけるAPC結合タンパクEB1発現による増殖および転移促進に関する研究 (Adenomatous polyposis coli-binding protein end-binding 1 promotes hepatocellular carcinoma growth and metastasis) 主査：准教授 七戸 俊明
	いい 飯	ゆう 田 有	脳外傷後患者における早期復職と神経心理学的検査の関連 (Association between the neuropsychological examination and early return to work after traumatic brain injury) 主査：教授 矢部 一郎
	い 伊	とう 藤 梨	羊膜由来間葉系幹細胞による移植脂肪生着向上効果の検証 (Studies on the effect of amnion-derived mesenchymal stem cells to promote the survival of fat grafts) 主査：准教授 外丸 詩野
	うら 浦	かつ 勝 郎	高純度硬化性ゲルが髄核摘出術後の腰痛に与える影響 (Effects of ultra-purified alginate gels on low back pain after discectomy) 主査：教授 田中 真樹
	オウ 王	ユ 禹 楠	Type XVII collagen is a deterministic factor of epidermal patterning (17型コラーゲンは表皮パターンの決定因子である) 主査：教授 島山 鎮次
	おお 太	ゆう 田 悠	膵管腺癌におけるマイクロ組織レベルの治療抵抗性ダイナミクス (Chemoresistance dynamics at the microtissue-level in pancreatic ductal adenocarcinoma) 主査：教授 武富 紹信



博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士 (医学)	おおむらかずまさ 大村一将	原因不明の不育症における抗Clq自己抗体の病原性に関する研究 (Pathogenic role of anti-Clq autoantibodies in recurrent pregnancy loss of unknown etiology) 主査：教授 村上 正晃	
	おだぎりしんすけ 小田切信介	オレオイルエタノールアミドのラットデキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルに対する抗炎症効果 (The anti-inflammatory effect of oleoylethanolamide on dextran sulfate sodium-induced colitis in rats) 主査：准教授 北村 秀光	
	おんだつお 恩田哲雄	原因不明の乳児重症肺高血圧症における肺静脈の連結不良を伴う肺毛細管形成異常の割合に関する研究 (Studies on the Ratio of Alveolar Capillary Dysplasia with Misalignment of Pulmonary Veins in Infants with Unexplained Severe Pulmonary Hypertension) 主査：教授 今野 哲	
	かめだまさし 亀田将史	周期的な時間予測に関わる線条体の神経活動：小脳との比較 (Neuronal correlates of temporal prediction of periodic visual stimuli in the primate striatum: Comparison with the cerebellum) 主査：教授 岩崎 倫政	
	かわいのりこ 河合典子	消化器癌に対する光感受性物質を用いた光線力学療法に関する研究 (Study on photodynamic therapy using photosensitive substance for gastrointestinal cancer) 主査：教授 坂本 直哉	
	きのわきまさよこ 木脇佐代子	生体ブタ全周性食道ESD後狭窄モデルに対するバルーン拡張実験、効率的で安全なバルーン拡張法の検討 (Experiment on balloon dilation for esophageal stenosis after endoscopic submucosal dissection in pigs.) 主査：教授 本間 明宏	
	くどうたかし 工藤孝司	ANCA関連血管炎の病態形成におけるシクロフィリンD依存性プログラム細胞死の役割 (The role of Cyclophilin D dependent necrosis in the pathogenesis of ANCA associated vasculitis) 主査：准教授 北村 秀光	
	こかぶてるふみ 小甲晃史	脊柱側弯症におけるロッド曲線形状が3次元体表面に与える影響 (Impact of the rod shape in scoliosis surgery on the back surface) 主査：教授 矢部 一郎	
	こもりやまひろかず 小森山弘和	三次元位相コントラストシネ磁気共鳴画像による高度大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術前後における血流動態の検討 (Blood flow dynamics with four-dimensional flow magnetic resonance imaging in patients with aortic stenosis before and after transcatheter aortic valve implantation) 主査：教授 南須原 康行	
	ささきだいすけ 佐々木大輔	ミトコンドリア活性化心筋前駆細胞の樹立とマウス虚血性心筋への細胞移植による治療効果に関する研究 (Studies on mitochondrion-activated cardiac progenitor cells and the therapeutic efficacy of their transplantation in an ischemia reperfusion mouse model) 主査：教授 大場 雄介	
ささもり 笹森	衝動性抑制薬の探索と衝動性制御に関わる神経基盤の解明 (Development of Anti-impulsivity Drugs and Elucidation of the Neural Mechanisms underlying Impulse Control) 主査：教授 神谷 温之		

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（医学）	しげ重	さわたく拓	レンバチニブおよびソラフェニブの治療効果予測因子の探索ならびにFGFシグナル阻害を介したレンバチニブの肝癌Cancer stem cellsへの効果 (Exploring Predictors of Therapeutic Efficacy of Lenvatinib and Sorafenib, and Analysis of Effect of Lenvatinib on Hepatocellular carcinoma Cancer Stem Cells through Inhibition of FGF Signaling) 主査：准教授 神山 俊哉
	しも下	やましゅうへい平	自己免疫疾患の疾患関連遺伝子C8orf13についての機能解析 (A functional analysis of autoimmune disease-associated gene C8orf13) 主査：教授 福原 崇介
	たか高	のぶけいすけ介	自殺リスク評価ツールの開発に向けた基盤研究 (Basic Research for the Development of Suicide Risk Assessment Tools) 主査：教授 高橋 誠
	たけ武	い井のぞむ望	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の臨床経過についての多面的バイオマーカーに関する研究 (Studies on multi-faceted biomarkers on the clinical course of patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD)) 主査：教授 渥美 達也
	たに谷	みちお夫	ハイドロゲル誘導肝癌幹細胞に対する新規治療法の開発 (Development of Novel Therapies for Hydrogel-Induced Liver Cancer Stem Cells) 主査：准教授 七戸 俊明
	つち土	だかずひさ久	高炭水化物誘導性膵β細胞量増加におけるグルコキナーゼの役割 (The role of glucokinase in high-starch diet-induced beta-cell mass expansion) 主査：教授 伊藤 陽一
	で出	くらやすひろ裕	前立腺癌の放射線治療における尿道の位置と線量低減とに関する研究 (Studies on urethral position and its dose reduction in radiotherapy for prostate cancer) 主査：教授 渡利 英道
	なか中	のしんたろう真太郎	超音波内視鏡下穿刺吸引法で得られた検体を用いた膵腫瘍内細菌叢の検討 (Efficacy of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration (EUS-FNA) to evaluate the tumor bacteria in pancreatic cancer) 主査：教授 平野 聡
	はぎ萩	おかなこ奈子	乳癌におけるがん遺伝子パネルを用いた遺伝子解析と臨床的特徴に関する研究 (Studies on genetic alterations and clinical characteristics in breast cancer by clinical targeted sequencing) 主査：教授 青山 英史
	はぎ萩	わらひかる光	ミトコンドリアへのカルシウム取り込み亢進による心室性不整脈の抑制に関する研究 (Enhanced calcium uptake into mitochondria mitigates ventricular arrhythmia in heart failure) 主査：教授 渡邊 雅彦
	はん半	だたかひさ久	高齢2型糖尿病患者における低血糖と血糖変動に関する研究 (The association between hypoglycemia and glycemic variability in elderly patients with type 2 diabetes) 主査：教授 伊藤 陽一
	ひ樋	ぐちまどか	実験的自己免疫性脳脊髄炎における中枢神経炎症の抑制と排尿機能障害の検討 (studies on the suppression of inflammation of central nervous system and urinary dysfunction in experimental autoimmune encephalomyelitis) 主査：教授 石田 晋
	ひびつ百	かんりょうた太	腰椎固定術における骨代謝マーカーの推移に関する研究 (Study on temporal profile of serum bone metabolic markers after lumbar spinal fusion surgery) 主査：教授 近藤 英司

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士 (医学)	ふじ 藤 おか 岡 しゅう 周 すけ 助		ハダカデバネズミの発がん剤への組織応答性に関する研究 (Naked mole-rats show extraordinary resistance to chemical carcinogenesis with a dampened inflammatory response) 主査：教授 小林 弘一
	ふじ 藤 た 田 りょう 諒		進行期慢性腎臓病を伴う骨粗鬆症に対するビスフォスフォネート製剤の低用量高頻度投与と高用量低頻度投与の治療効果および安全性の比較検討 (Comparison of the efficacy and renal safety of bisphosphonate between low-dose/high-frequency and high-dose/low-frequency regimens in a late-stage chronic kidney disease) 主査：教授 久住 一郎
	ふる 古 や 家 しょう 翔		心サルコイドーシスのPET診断に関する研究 (Studies on the Diagnostic Usability of PET in Patients with Cardiac Sarcoidosis) 主査：教授 若狭 哲
	まつ 松 い 居 ゆう 祐 き 樹		M2 マクロファージによる末梢神経軸索再生の制御とその分子機構に関する研究 (Elucidation of the role of M2 macrophages in the regulation of axon regeneration in peripheral nervous system and its molecular mechanism) 主査：教授 田中 伸哉
	まつ 松 やま 山 けい 圭		周期的な時間予測における運動性視床の役割 (Role of the motor thalamus in the temporal prediction of periodic events) 主査：教授 岩崎 倫政
	みや 宮 あい 愛 か 香		膵β細胞機能が2型糖尿病の病態と併存疾患に与える影響 (Contribution of pancreatic beta-cell function to the pathogenesis of type 2 diabetes and its complication) 主査：教授 久住 一郎
	みや 宮 うち 内 とし 俊 なり 成		CARD14関連遺伝性皮膚疾患における復帰変異モザイク発生機序の解明 (Elucidation of the mechanism underlying revertant mosaicism in CARD14-related genetic skin disease) 主査：教授 神谷 温之
	みや 宮 さか 坂 まもる 衛		Golgi体膜のリン脂質非対称性とGolgi体機能との関連性に関する研究 (A study on the relationship between membrane phospholipid asymmetry and function of the Golgi apparatus) 主査：教授 佐邊 壽孝
	みや 宮 ぎき 崎 たく 拓 じ 自		Aminolysis-SALSA 法を応用した細胞特異的糖鎖解析による軟骨細胞中の残存未分化iPS細胞の定量的評価法の確立 (Evaluation of Residual Human-Induced Pluripotent Stem Cells in Human Chondrocytes by Cell Type-Specific Glycosphingolipid Glycome Analysis Based on the Aminolysis-SALSA Technique) 主査：教授 近藤 英司
	むら 村 た 田 え 恵 り 理		プロテアソーム機能低下が褥瘡の病態形成に与える影響 (Decreased proteasomal function increases oxidative stress in the early stage of pressure ulcer) 主査：教授 近藤 亨
	やま 山 もと 本 まさ 真 たか 崇		小児心臓手術における組織酸素飽和度変化に関与する生理学的指標の検討 (The relationships of tissue oxygen saturation with physiological parameters in pediatric cardiac surgery) 主査：教授 工藤 興亮
	わた 渡 なべ 辺 しん 晋 や 也		社交不安症とうつ病の予測因子 ～大学生の自殺予防のための研究～ (Predictors of social anxiety disorder with major depressive episode ～a study for suicide prevention in university students～) 主査：教授 玉腰 暁子

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（歯学）	かとう 加藤 まゆこ		学童期初期における骨および歯の成熟の評価と 暦年齢, 骨年齢, 歯年齢間の関連性に関する研究 主査：教授 八若 保孝
	きむら 木村 まだ ひと ひと 真 仁		カーボンナノホーンコートチタン上でのマクロファージの挙動 主査：教授 横山 敦郎
	まつもと 松本 あい こと 愛 子		Development of Novel Orthodontic Adhesive for Protecting Teeth at Debonding (ブラケット撤去時に歯を保護する新規矯正歯科用接着材の開発) 主査：教授 吉田 靖弘
	みずの 水野 まり こと 麻梨子		睡眠時無呼吸症候群用口腔内装置の装着感に関する研究 主査：教授 山口 泰彦
	やすうら 保浦 なな 愛 七 愛		メタロチオネイン-I, II および血漿亜鉛が味覚嫌悪行動に及ぼす影響 - 129/Sv マウスを用いた行動生理学的研究 - 主査：教授 船橋 誠
	やなぎさわ 柳澤 とう こと 瞳 子		RAW細胞の継代数が破骨細胞分化誘導系に与える影響 主査：教授 飯村 忠浩
	やまの 山田 きょう こと 恭 子		睡眠時無呼吸症候群用口腔内装置装着時における顎運動の検証 主査：教授 山口 泰彦
	やまの 山田 りょう こと 怜		Comparison of prognosis of the remaining teeth between implant-supported fixed prostheses and removable partial dentures in partially edentulous patients: A retrospective study (部分歯列欠損患者におけるインプラント支持固定性補綴装置と可撤性部分床義歯の残存歯の予後の比較) 主査：教授 横山 敦郎
	イスラム ISLAM ラフィクール RAFIQUL		Histological evaluation of a novel phosphorylated pullulan-based pulp capping material: An in-vivo study (新規リン酸化プルランベース覆髄材料の組織学的評価：in-vivo研究) 主査：教授 佐野 英彦
	チュン 陳 フェイ 菲		Evaluation of shade matching of a novel supra-nano filled esthetic resin composite employing structural color using simplified simulated clinical cavities (臨床を想定した単純窩洞に構造色を用いた新規スープラナノフィラー含有コンポジットレジンの色差測定評価) 主査：教授 佐野 英彦
	はん 伴 しん こと 真 吾		レジン複合型 MTA と高周波電流の直接覆髄への応用 主査：教授 菅谷 勉
	やまもと 山本 ゆう や 裕 也		Study of a novel resin cement containing anti-microbial compound CPC-Montmorillonite (CPC モンモリロナイトを含む新規歯科用レジンセメントに関する検討) 主査：教授 吉田 靖弘
	こん 近 か な よ 加名代		FGF2と新規ケイ酸カルシウム系材料を用いた生活歯髄切断法の基礎的研究 主査：教授 樋田 京子
	しみず 清水 たつ や 達 哉		Osteocytes as main responders to Low Intensity Pulsed Ultrasound for the treatment of fracture healing (骨細胞は低出力超音波パルスによる骨折治癒において主に応答する) 主査：教授 田村 正人
	はしもと 橋本 けい じ 圭 司		Histological observation on the initial stage of vascular invasion into the secondary ossification of murine femoral epiphyseal cartilage (マウス大腿骨骨端軟骨二次骨化における初期血管侵入の組織学的解析) 主査：教授 網塚 憲生
えん 遠 どう あけ 藤 朱 美		介護保険施設入所要介護高齢者における体重減少と食形態の関係：1年間の多施設縦断研究 主査：教授 山崎 裕	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（歯学）	リミ RIME シャンミン SHAMME アカター AKTER	Effects of remaining dentin thickness, smear layer and aging on the bond strengths of contemporary universal adhesives to dentin. (象牙質に対する従来型ユニバーサルアドヒーズの残存象牙質の厚さ、スミヤー層、長期耐久性による接着強さの影響) 主査：教授 佐野 英彦
	きり 桐 越 晶 子	顎裂を有する患児に対する顎裂部への下顎外側皮質骨片移植と腸骨海綿骨移植の術後成績における2施設間比較 主査：教授 鄭 漢忠
	すず 鈴 鹿 正 顕	頭頸部陽子線治療で使用する補助装置材料の検討 主査：教授 箕輪 和行
	もり 森 谷 康 人	Histochemical assessment of accelerated bone remodeling and reduced mineralization in IL-6 deficient mice (IL-6 欠損マウスにおける骨リモデリング促進と骨基質石灰化抑制の組織学的解析) 主査：教授 網塚 憲生
博士（獣医学）	アンドリュー Andrew カタバ KATABA	Studies on toxicological effects of lead in animals for evaluation of worldwide environmental lead pollution (環境中の鉛汚染評価のための生物における鉛の毒性影響に関する研究) 主査：教授 坪田 敏男
	おお 大 谷 祐 紀	Study on the pathological crosstalk between reproduction and immunity leading to abnormal urogenital phenotypes in autoimmune disease model mice (自己免疫疾患モデルマウスの尿生殖器異常を導く生殖-免疫病態連関) 主査：教授 滝口 満喜
	きた 北 野 泰 佑	アドレナリン受容体によるアストロサイトの突起形態制御機構の解明 主査：教授 昆 泰寛
	しら 白 根 ゆ り	Changes in body condition and behavior of Hokkaido brown bears in relation to seasonal and annual variations in diet (食性の季節変化および年次変動がヒグマの栄養状態と行動様式に与える影響の解明) 主査：教授 石塚 真由美
	とり 鳥 居 佳 子	Studies on the ovarian dynamics of brown bears to establish artificial insemination protocol (人工授精技術確立に向けたヒグマの卵巣動態に関する研究) 主査：教授 坪田 敏男
	に 新 居 たけし 剛	アストロサイトにおける硫化水素の細胞内Ca <sup>2+</sup> シグナルとエネルギー代謝への作用に関する研究 主査：教授 木村 和弘
	ディプティ Dipti シュレストハ SHRESTHA	Molecular analysis of drug resistance associating gene mutations in <i>Mycobacterium tuberculosis</i> clinical isolates from Nepal (ネパールで分離された結核菌の薬剤耐性関連遺伝子変異の解析) 主査：教授 鈴木 定彦
	アリレザ Alireza ナスリ NASOORI	The effect of hibernating phase serum on osteoclastogenic and osteogenic differentiation <i>in-vitro</i> in Japanese black bears (ツキノワグマにおける <i>in-vitro</i> での破骨細胞および骨芽細胞への分化に対する冬眠期血清の効果) 主査：教授 坪田 敏男
博士（医理工学）	たか 高 柳 泰 介	金属球マーカーから放射される共振周波数を備えた球面イオン音響波（SPIRE）を用いた陽子線飛程の <i>in vivo</i> 測定法に関する研究 (Studies on <i>in vivo</i> Proton Range Verification Methodology using Spherical Ionoacoustic Waves with Resonant Frequency (SPIRE) emitted from Fiducial Spherical Metal Markers) 主査：准教授 高尾 聖心
博士（感染症学）	いそ 磯 野 真 央	Study on chemical compounds for the development of anti-ebolavirus drugs (抗エボラウイルス薬開発に向けた化合物の探索) 主査：教授 東 秀明

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（獣医学）	おく や こう すけ 奥 谷 公 亮	Studies on potential role of nonneutralizing IgA antibodies in cross-protective immunity against influenza A viruses (A型インフルエンザウイルスに対する交差感染防御における非中和IgA抗体の役割に関する研究)	主査：教授 迫田 義博
博士（感染症学）	クリスティダ エスツ Christida Estu ワスティカ WASTIKA	Surveillance of arbovirus infection in Zambia and characterization of the untranslated regions of insect-specific flaviviruses (ザンビアにおける蚊媒介性ウイルス感染症の調査, および蚊特異的フラビウイルス非翻訳領域の解析)	主査：教授 荻和 宏明
博士（獣医学）	さい とう たけし 齋 藤 健	Studies on cell tropism of hemorrhagic fever viruses and mechanisms of entry into cells (出血熱ウイルスの細胞指向性と細胞侵入メカニズムに関する研究)	主査：教授 澤 洋文
	つ の だ り さ 角 田 梨 紗	Molecular characterization of <i>Enterobacteriaceae</i> isolates from environment in Thailand (タイの環境水より分離された腸内細菌科細菌の分子性状解析)	主査：教授 東 秀明
博士（感染症学）	トーカー フラヴ Thoko Flav カパラムラ KAPALAMULA	Development of a molecular tool for the differentiation of <i>Mycobacterium bovis</i> and molecular characterization of <i>Mycobacterium bovis</i> isolates in Malawi (ウシ型結核菌遺伝子診断法の開発とマラウイにおけるウシ型結核菌分離株の遺伝学的解析)	主査：教授 東 秀明
博士（獣医学）	なか むら ゆきこ 中 村 有紀子	Estimating the Genetic Diversity and Population Structure of Tsetse Flies and African Trypanosomes in Zambia and Malawi (ザンビア, マラウイにおけるツェツェバエとアフリカトリパノソーマ原虫の遺伝的多様性と集団構造の推定)	主査：教授 大橋 和彦
	はやし ひろ たか 林 裕 貴	Studies on the prevention of influenza by vitamin D metabolite and vaccine in mice (マウスにおけるビタミンD代謝物およびワクチンを用いたインフルエンザの予防に関する研究)	主査：教授 大橋 和彦
博士（感染症学）	ラベル チニョマ Lavel Chinyama モンガ MOONGA	Molecular epidemiology of spotted fever group rickettsiae in Zambia and development of multiplex LAMP for simultaneous detection of the rickettsiae and malaria parasites (ザンビアにおける紅斑熱群リケッチアの分子疫学とマルチプレックスLAMPを利用したマラリア原虫との同時検出法の開発)	主査：教授 野中 成晃
博士（獣医学）	さじき やま と 佐治木 大 和	Studies on immunosuppression caused by prostaglandin E <sub>2</sub> during chronic infections of cattle (牛慢性感染症におけるプロスタグランジンE <sub>2</sub> を介した免疫抑制に関する研究)	主査：教授 鈴木 定彦
博士（文学）	リチャード RICHARD ハモンド HAMMOND ストーン STONE IV	How Original is Nishida Kitarō's Philosophy in <i>An Inquiry into the Good</i> ? A Critical Investigation of Japan's 'First' Philosophy (『善の研究』における西田幾多郎の哲学はどれほど独創的か? 日本「最初の」哲学をめぐる批判的研究)	主査：教授 田口 茂
	リツ 槇 栗 榎	芸術作品における道徳と美の関連性についての研究	主査：教授 藏田 伸雄
	き 村 さとし 木 村 聡	連合艦隊論	主査：准教授 川口 暁弘
	ソン 雨 かん 孫 雨 涵	在奉天総領事から見た土地商租権問題－榑原農場事件を中心に－	主査：教授 白木沢 旭児
	ふる た ゆかり 古 田 ゆかり	企業博物館とは何か－企業博物館に見られる多機能性の検証から	主査：教授 佐々木 亨

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	あい 相庭 達也		明治期北海道における戦争と慰霊 主査：教授 白木沢 旭児
博士（学術）	い 生 熊 源 一		ソヴェトの破片と生きる：「集団行為」の半世紀 主査：准教授 安達 大輔
博士（文学）	チョン 鄭 ム 門 ノ 鎬		漢籍古鈔本における漢字音の基礎的研究－鎌倉・南北朝時代加定の経書類を中心に－ 主査：特任教授 池田 証壽
	コウ 黄 ヤ 也		成瀬巳喜男と＜不確かさ＞の映画－1951年以降の作品を中心に 主査：教授 阿部 嘉昭
	リュウ 劉 カン 冠 イ 偉		日本漢字辞書研究の資料と方法に関する基礎的研究 主査：特任教授 池田 証壽
	チン 陳 セン 璇		日本現代詩の比較文学研究－田村隆一と20世紀の世界文学の共振－ 主査：教授 中村 三春
	よし 吉 田 つとむ 勉		今古文経學に関する研究 主査：教授 弼 和順
	モモタズ MOMOTAZ		Sustaining agricultural system in Bangladesh: a case study on villages along the Ganges River (バングラデシュにおける持続的農業システム－ガンジス川流域における農村の事例研究－) 主査：准教授 仁平 尊明
	キ 祁 キョウ 京		初見視奏のパフォーマンスを規定する要因の解明 主査：教授 安達 真由美
	しお 塩 崎 大 輔		不動産情報からみたニセコエリアのスキーリゾート開発に関する地理学的研究 主査：教授 橋本 雄一
博士（人間科学）	やま 山 内 健 司		The Plasticity and Selectivity of the Inhibitory Template for Visual Marking (視覚的印付けにおける抑制テンプレートの可塑性と選択性に関する研究) 主査：教授 河原 純一郎
博士（情報科学）	おお 大 原 りゅう 一		電子ホログラフィに対する調節・輻輳応答測定 主査：教授 坂本 雄児
	すず 鈴 木 元 樹		サッカー映像における戦術解析を実現するための深層学習に関する研究 主査：教授 長谷山 美紀
博士（工学）	さ さ き ひで のり 徳		深層学習を用いた回転機のトポロジー最適化に関する研究 主査：教授 五十嵐 一
	つな 綱 田 れん 錬		コアレス回転子構造を用いたアキシアルギャップモータの高効率化に関する研究 主査：教授 小笠原 悟司
博士（情報科学）	ひるま 比留間 真 悟		Study on model order reduction for Maxwell's equations based on Krylov subspace methods (クリロフ部分空間法によるマクスウェル方程式のモデル縮約法に関する研究) 主査：教授 五十嵐 一
	あたらし 新 恭 兵		A Study on Machine Learning Algorithms Using Feature Interactions (特徴の組合せを扱う機械学習アルゴリズムに関する研究) 主査：准教授 小山 聡
	しま 嶋 田 祥 太		LED反射光を用いることによるスマートフォン屋内位置認識に関する研究 主査：教授 杉本 雅則
	マン 万 カ 可		感性及び医療データにおけるプロダクションルール指向な統計解析手法に関する研究 主査：教授 水田 正弘
	むら 村 上 弘 晃		Indoor Acoustic Localization using Reflected Signals (反射波を用いることによる屋内音響測位に関する研究) 主査：教授 杉本 雅則
	リク 陸 カ 可 キョウ 鏡		Query-Aware Locality Sensitive Hashing for Similarity Search Problems (類似検索問題に対するクエリ・アウェア局所鋭敏ハッシング) 主査：教授 工藤 峰一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（工学）	かね き しょう た 金 木 奨 太		Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> /GaN界面の制御とMOSゲート高電子移動度トランジスタへの応用 主査：教授 葛西 誠也
	さい とう けん た 斉 藤 健 太		Study on Amoeba-inspired Electronic Computing System for Solving Optimization Problems (生物粘菌アメーバに倣った最適化問題を解く 電子計算システムに関する研究) 主査：教授 本久 順一
	チョウ 張 イ 維 ヨウ 楊		Study on improved implementation of a transmitter in BB84 quantum key distribution system (BB84量子鍵配送システムの送信機実装の改善に関する研究) 主査：准教授 岡本 淳
	ほり ぐち りょう ま 堀 口 竜 麻		Control of Formation and Magnetic Domain Structures in Selectively-Grown MnAs Nanostructures (選択成長したMnAsナノ構造の形成及び磁区構造制御に関する研究) 主査：特任教授 橋詰 保
	む とう さとし 武 藤 恵		動的電子顕微鏡観察法による抵抗変化メモリの動作特性とナノ構造変化に関する研究 主査：教授 末岡 和久
博士（情報科学）	ソウ 曹 エン 艶 ホウ 鳳		Study on Efficient Water Oxidation under Modal Strong Coupling Conditions (モード強結合下における水の酸化反応の高効率化に関する研究) 主査：特任教授 三澤 弘明
	やま ぐち かず し 山 口 和 志		2光子顕微鏡法を用いた補償光学による生体組織深部の可視化解析 主査：教授 雲林院 宏
	うら べ ゆう き 卜 部 有 記		A Study on Emoticon Recommendation System Considering the Content of Text Messages (テキストメッセージの内容に対して適切な顔文字を推薦する顔文字推薦システムに関する研究) 主査：教授 荒木 健治
博士（工学）	お ほん しゅん すけ 小 原 峻 介		モータ駆動用インバータの電磁ノイズ抑制に関する研究 主査：教授 小笠原 悟司
	きか もと ひろ き 坂 本 宏 紀		モデル縮約法を用いた回転機の高速度解析に関する研究 主査：教授 五十嵐 一
	シャ ン シェ ン Xiang Sheng		Multiple Paired Pixel Consistency Model for Robust Defect Detection in Printed Logotypes (印刷されたロゴタイプのロバストな欠陥検出のための複数ペアピクセル一貫性モデル) 主査：教授 田中 孝之
博士（情報科学）	もり たに りょう た 森 谷 亮 太		大規模構造物に対する3次元現況反映型モデル生成のための高精度モデリング手法と最適撮影計画手法の開発 主査：教授 金井 理



論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（環境科学）	おのちふみ 小野智郁		ローカルコモンズに着目した自然資源管理に関する研究 -モンゴル牧畜社会を事例として- 主査：准教授 石川 守
	たかまつかずや 高松一哉		Comprehensive visualization of welfare services for the elderly in a small-sized municipality: a case study of information compiled by the manager of the health and welfare division, Tsurui Village, Hokkaido (小規模自治体における高齢者福祉事業の俯瞰的可視化: 北海道鶴居村保健福祉責任者が集約した情報に関する事例研究) 主査：教授 山中 康裕
	しまはたあつし 島畑淳史		Assessment of the potential to adopt biogas plants in Hokkaido and the environmental and economic benefits based on dairy farmers' willingness (酪農家の意思を踏まえた北海道におけるバイオガスプラントの導入可能性及び環境的・経済的便益の評価) 主査：准教授 藤井 賢彦
	いわいなおと 若井尚人		A study of the researcher's expertise in environmental education for elementary school students (小学生に対する環境教育に見られた研究者の専門性に関する研究) 主査：教授 山中 康裕
博士（理学）	わたなべひろし 渡部大志		A Study of Self-organization Phenomena of Network Structure and Elements under the Constraint of Maximization of Information (情報量最大化を拘束条件にしたネットワーク構造及びネットワーク素子の自己組織化現象に関する研究) 主査：教授 行木 孝夫
博士（農学）	もちだたいすけ 持田泰佑		消化管と膵臓の内分泌機能に着目した糖尿病および肥満の予防・改善に関する研究 主査：准教授 比良 徹
	いたはしすなお 板橋直		河川集水域を対象とした農業由来の窒素負荷の算定法と水辺域での窒素除去能の発揮条件に基づく河川水質管理方策に関する研究 主査：特任教授 波多野 隆介
博士（生命科学）	たかくわあきこ 高桑暁子		Food factor and nutrients induce $\alpha$ -defensin secretion from Paneth cells and influence intestinal environment (食品成分・栄養素はPaneth細胞の $\alpha$ ディフェンシン分泌を誘導して腸内環境制御に関わる) 主査：教授 綾部 時芳
博士（教育学）	ながつしおり 長津詩織		「保育コミュニティ」の実践論理 -北海道東部のへき地保育所におけるエスノグラフィー- 主査：准教授 川田 学
博士（工学）	ほそだみつ 細田みつ充		鉄道レールの疲労による横裂の進展および破壊予測に関する研究 主査：教授 石川 達也
	きさくらこうすけ 笹倉康佑		機械学習を用いたサーバルームにおける施設管理手法に関する研究 主査：特任教授 羽山 広文
	やまもととおる 山本とある		建物の合理的なエネルギー使用を目的とした管理・運用・設計手法に関する研究 主査：特任教授 羽山 広文
	こんどうめぐみ 近藤めぐみ		宇根鉱山における地下水位および水質の挙動分析と残壁安定化を目的とした降雨対策 主査：教授 五十嵐 敏文
博士（獣医学）	しばたあきひろ 柴田明弘		Studies on the characterization of avian influenza viruses isolated from raw poultry products brought to Japan by international flight passengers (国際旅客により持ち込まれた家さん畜産物から分離された鳥インフルエンザウイルスの性状に関する研究) 主査：教授 迫田 義博
博士（文学）	うつのみやてるお 宇都宮輝夫		カール・バルト研究 -絶対的逆説の神学- 主査：教授 佐々木 啓
	なかやまたいしやう 中山大将		サハリン残留日本人の境界地域史研究 主査：教授 白木沢 旭児

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（令和3年3月9日）

- 議案・経営戦略室の改組について
- ・クロスアポイントメントの適用について
  - ・諸規則の一部改正について
- 協議事項・令和3年度年度計画について
- ・国立大学法人北海道大学における総合的な人事計画等の策定について
  - ・博士（後期）課程学生のプロジェクト研究雇用制度について
  - ・令和3年度予算について
  - ・内部質保証に係る体制・手順の明確化について
  - ・全学運用教員の措置について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・GI-CoRE協力拠点に係る認定について
- 

### 経営協議会（令和3年3月11日）

- 議題・経営協議会の組織の見直しについて
- ・経営協議会規程の改正について
  - ・令和3年度年度計画について
  - ・令和3年度予算について
- 報告事項・令和2年度運営費交付金の追加配分等について
- ・北海道大学におけるCOVID-19研究等の動向について
- その他・北海道大学 Business Intelligence（北大BI）を用いた大学の研究力分析について
- 意見交換・ブランディング力を活かした広報戦略等について
- 

### 教育研究評議会（令和3年3月17日）

- 議題・名誉教授の選考について
- ・経営協議会の組織の見直しについて
  - ・経営協議会の学外委員について
  - ・令和3年度年度計画について
  - ・北海道、札幌市、株式会社ニトリホールディングスとの連携協定について
  - ・令和3年度予算について
  - ・内部質保証に係る体制・手順の明確化について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・寄附講座等の設置及び更新について
- ・共同プロジェクト拠点に係る認定について
  - ・全学運用教員の措置について
  - ・全学運用教員の中間評価の報告について
- 

### 役員会（令和3年3月23日）

- 議案・旅費支給における宿泊料の一部見直しについて
- ・自己啓発休業制度の新設について
  - ・就業規則関連規程の一部改正について
  - ・北海道、札幌市、株式会社ニトリホールディングスとの連携協定について
  - ・令和3年度年度計画について
  - ・国立大学法人北海道大学における総合的な人事計画等の策定について
  - ・博士（後期）課程学生のプロジェクト研究雇用制度について
  - ・令和3年度予算について
  - ・内部質保証に係る体制・手順の明確化について
  - ・諸規則の一部改正について
  - ・経営協議会の組織の見直しについて
  - ・北海道大学ビジュアルイメージの制定について
- 報告事項・事務組織の見直しについて
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

## ■ 学内規程

---

### 北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年3月16日海大達第12号)

令和2年4月1日付け及び同年5月1日付けで、薬学研究院に産業創出分野を新設したことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学災害等危機対策規程の一部を改正する規程

(令和3年3月16日海大達第13号)

令和2年10月1日付けで、新たに役員及び副学長が就任したことに伴い、災害等危機対策本部の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学職員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年3月24日海大達第14号)

### 国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年3月24日海大達第15号)

### 国立大学法人北海道大学職員育児休業・介護休業等規程の一部を改正する規程

(令和3年3月24日海大達第16号)

### 国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(令和3年3月24日海大達第17号)

### 国立大学法人北海道大学職員退職手当規程の一部を改正する規程

(令和3年3月24日海大達第18号)

### 国立大学法人北海道大学職員表彰規程の一部を改正する規程

(令和3年3月24日海大達第19号)

教職協働を通じた質の高い法人経営及び個々の事情にあった多様なワーク・ライフ・バランスの実現に資するため、雇用期間の定めのない職員（教員及び保育園職員を除く。）が在職中に当該職員の身分を保有したまま修学できる自己啓発休業制度を新設することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(令和3年4月1日海大達第20号)

令和3年4月1日付けで、経営戦略室について、任務の精選及び組織構成の見直しを行い、企画、立案等の機能を更に強化するため、総長室を構成する室とすること、人獣共通感染症リサーチセンターを人獣共通感染症国際共同研究所に改組すること並びに本学に監事支援室を置くことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第21号)

令和3年4月1日付けで、農学院農学専攻に置くコースに含める国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センターとの連携分野である専門分野を変更すること、薬学研究院及び医学研究院に置く寄附分野を新設すること、工学研究院に置く寄附分野を廃止すること並びに人獣共通感染症リサーチセンターを人獣共通感染症国際共同研究所に改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第22号)

令和3年4月1日付けで、国立大学法人北海道大学経営協議会規程を一部改正すること及び本学に監事支援室を、病院事務部に次長を置くことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

### 国立大学法人北海道大学経営協議会規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第23号)

経営協議会を柔軟で機動的な会議体とし、及び総長の任期と学外委員の任期の不均衡を解消するため、経営協議会の組織及び学外委員の再任に係る規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

---

**国立大学法人北海道大学評価規程等の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第24号)

令和3年4月1日付けで、人獣共通感染症リサーチセンターを人獣共通感染症国際共同研究所に改組すること、本学に監事支援室を置くこと、人材育成本部に専任の教員が配置されること及び定義規定等を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学総長室規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第25号)

経営戦略室について、任務の精選及び組織構成の見直しを行い、企画、立案等の機能を更に強化するため、総長室を構成する室とすることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学監事監査規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第26号)

監事が十分かつ適切に監査業務を遂行し、より効果的に牽制機能を果たすことができるようにするため、令和3年4月1日付けで監事支援室を新設すること並びに役員及び職員が行わなければならない監事への報告に係る規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第27号)

アドミッションセンター及び同センターの各部門等の構成員等に係る規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学アドミッションセンター企画運営会議規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第28号)

令和3年4月1日付け、国立大学法人北海道大学アドミッションセンター規程の一部改正に伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第29号)

創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備を登録することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第30号)

令和3年4月1日付けで、総務企画部広報課に卒業生・基金室を、本学に監事支援室を、病院事務部に次長を置くこと及び人獣共通感染症リサーチセンターを人獣共通感染症国際共同研究所に改組することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**北海道大学通則の一部を改正する規則**

(令和3年4月1日海大達第31号)

休学期間中の他大学における単位等の取扱いを明確にすること及び北海道大学大学院通則と平仄を合わせて規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**北海道大学大学院通則の一部を改正する規則**

(令和3年4月1日海大達第32号)

①令和2年6月30日付けで大学院設置基準の一部が改正され、他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位の認定が柔軟化されたこと並びに修士課程及び博士課程（博士後期課程を除く。）において、入学前の既修得単位等を勘案した在学期間の短縮制度が設けられたこと、②休学期間中の他大学院における単位等の取扱いを明確にすること、③北海道大学通則と平仄を合わせて規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**北海道大学の第1年次の学生に係る履修、修学等に関する規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第33号)

第1年次の学生の休学期間中の他大学における単位等の取扱いを明確にすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

---

 北海道大学の学士課程における授業科目の成績の評価に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第34号)

大学院の学生がどの程度の学習成果を上げているのかを他大学及び社会が理解できるようにするため、修士課程、博士課程及び専門職学位課程における授業科目の成績の評価の取扱いを定めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

## 北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第35号)

## 北海道大学文学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第57号)

## 北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第58号)

## 北海道大学法学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第59号)

## 北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第60号)

## 北海道大学理学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第61号)

## 北海道大学医学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第62号)

## 北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第63号)

## 北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第65号)

## 北海道大学工学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第66号)

## 北海道大学農学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第67号)

## 北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第68号)

## 北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第70号)

学部及び現代日本学プログラム課程において、①休学期間中の他大学における単位等の取扱いを見直し、又は明確にすること、②より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ること（理学部、工学部、農学部及び水産学部）、③北海道大学の学士課程における授業科目の成績の評価に関する規程の一部改正、④帯広畜産大学が提供する授業科目名の変更（獣医学部）に伴い、所要の改正を行ったものです。

---

---

北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第36号)

北海道大学専門横断科目規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第38号)

北海道大学国際交流科目規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第39号)

北海道大学の学士課程における授業科目の成績の評価に関する規程の一部改正に伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第37号)

新渡戸カレッジにおいて、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第40号)

大学院の教育課程において、より適切な教育効果を得るために、大学院共通授業科目の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第41号)

令和2年4月1日付け、国立大学法人北海道大学宿舍貸与規程の一部改正を踏まえ、北農寮の自動車保管場所の使用料を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

国立大学法人北海道大学船員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年4月1日海大達第42号)

令和2年12月26日付け、船員法施行規則の一部改正に基づき、船員との労働契約の締結に際し、文書の交付により明示する労働条件に新たな事項を加えることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年4月1日海大達第44号)

令和2年12月26日付け、船員法施行規則の一部改正に伴い、特任教員のうち船員である者に対する労働条件の明示に係る規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年4月1日海大達第43号)

①北海道大学病院に勤務する医療職(A)の職員について、日勤の勤務時間帯の区分によって休憩時間前後の勤務時間に差異が生じることによる半日の年次有給休暇の実質的な時間の不均衡を解消し、半日の年次有給休暇の取得を促進するため、勤務時間の途中に置く休憩時間を改めること、②北海道大学病院栄養管理部に勤務する職員の勤務時間を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第45号)

任期を定めて採用する教員について、その任期が定年に達した日以降における最初の3月31日を超える場合は、再任されることができないことを明確にすること及び令和3年4月1日付けで、大学院経済学研究院に、大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号に基づき任期を定める部局テニユアトラック認定制度を適用する講師及び助教を置くこととすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

---

**国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第46号)

①北海道大学病院栄養管理部に勤務する職員の勤務時間を見直すこと、②北海道大学病院に勤務する医療職（A）の職員について、日勤の勤務時間帯の区分によって休憩時間前後の勤務時間に差異が生じることによる半日の年次有給休暇の実質的な時間の不均衡を解消し、半日の年次有給休暇の取得を促進するため、勤務時間の途中に置く休憩時間を改めること、③工学研究院工学系技術センターに勤務する職員及び教育学事務部において教務担当を命ぜられた職員について、授業支援業務のため、新たな勤務時間帯の区分を設けること、④保健センターに勤務する看護師について、診療後の報告書作成業務のため、新たな勤務時間帯の区分を設けることに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学職員育児休業・介護休業等規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第47号)

**国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第48号)

**国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第49号)

令和3年4月1日付け、国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部改正に伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学職員表彰規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第50号)

令和3年4月1日付けで、人獣共通感染症リサーチセンターを人獣共通感染症国際共同研究所に改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学契約規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第51号)

公共調達のお考えに基づき、企画競争による契約方法を随意契約に整理することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学旅費規則の一部を改正する規則**

(令和3年4月1日海大達第52号)

国における取扱い及び本学における支給実態を踏まえ、公的資金の執行について対外的な説明を果たすことができる適正なものとするため、旅行者が旅行中に自宅又は親族若しくは知人の住居に宿泊する場合の宿泊料の取扱いを見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学旅費規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第53号)

令和3年4月1日付けで、本学に監事支援室を置くこと並びに国における取扱い及び本学における支給実態を踏まえ、公的資金の執行について対外的な説明を果たすことができる適正なものとするため、旅行者が旅行中に自宅又は親族若しくは知人の住居に宿泊する場合の宿泊料の取扱いを見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第54号)

経営戦略室について、任務の精選及び組織構成の見直しを行い、企画、立案等の機能を更に強化するため、総長室を構成する室とすること並びに卒業生及び同窓会との連携並びに北大フロンティア基金の基盤を強化するため、総務企画部広報課に卒業生・基金室を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

**国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程**

(令和3年4月1日海大達第55号)

令和2年4月1日付け、国立大学法人北海道大学宿舍貸与規程の一部改正及び令和3年4月1日付けで北農寮の自動車保管場所の使用料を見直すことを踏まえ、外国人研究者等宿泊施設及びゲストハウスおしよろの自動車保管場所の使用料を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

---

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第56号)

本学のオープンファシリティについて、設備の登録及び取消を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

北海道大学病院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第64号)

病院の研究機能をより強化するため、令和3年4月1日付けで新たに医療・ヘルスサイエンス研究開発機構を設置し、同機構の下に既存の研究関連組織を再配置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

北海道大学獣医学部・帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程協議会規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第69号)

北海道大学獣医学部・帯広畜産大学畜産学部共同獣医学課程協議会における協議の結果について、報告等を行う会議体を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第71号)

北海道大学大学院水産科学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第72号)

北海道大学大学院環境科学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第73号)

北海道大学大学院理学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第74号)

北海道大学大学院農学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第75号)

北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第76号)

北海道大学大学院教育学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第77号)

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第78号)

北海道大学大学院保健科学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第79号)

北海道大学大学院工学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第80号)

北海道大学大学院総合化学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第81号)

北海道大学大学院経済学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第82号)

北海道大学大学院医学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第83号)

北海道大学大学院歯学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第84号)



## 北海道大学大学院獣医学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第85号)

## 北海道大学大学院医理工学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第87号)

## 北海道大学大学院国際感染症学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第88号)

## 北海道大学大学院国際食資源学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第89号)

## 北海道大学大学院文学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第90号)

## 北海道大学大学院情報科学院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第91号)

## 北海道大学大学院公共政策学教育部規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第92号)

①令和2年6月30日付けで大学院設置基準の一部が改正され、他大学院の単位互換及び入学前の既修得単位の認定が柔軟化されたこと並びに修士課程及び博士課程（博士後期課程を除く。）において、入学前の既修得単位等を勘案した在学期間の短縮制度が設けられたこと、研究科等において、②休学期間中の他大学院における単位等の取扱いを明確にすること（環境科学院、教育学院、経済学院及び歯学院以外）、③より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ること（法学研究科、理学院、生命科学院、国際広報メディア・観光学院、工学院、医理工学院、情報科学院及び公共政策学教育部）に伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第86号)

大学院獣医学研究院の業務運営を効率的に行うため、令和3年4月1日付けで、大学院獣医学研究院附属動物病院長の任期の取扱いを見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

## 北海道大学低温科学研究所規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第93号)

令和3年4月1日付けで、低温科学研究所の水・物質循環部門及び生物環境部門の研究分野を廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

## 北海道大学電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第94号)

電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センターの研究分野を新設することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

## 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第95号)

## 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター共同利用・共同研究拠点運営委員会規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第96号)

## 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター共同利用・共同研究拠点共同研究委員会規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第97号)

人獣共通感染症対策に資する研究及び教育をより強力に推進するため、令和3年4月1日付けで、人獣共通感染症リサーチセンターを人獣共通感染症国際共同研究所に改組することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

## 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第98号)

フィールド研究を活性化し、より社会の要請に対応できるよう、教育研究体制を強化するため、北方生物圏フィールド科学センターの教育研究部に置く領域を再編することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

---

## 北海道大学国際連携研究教育局規程の一部を改正する規程

(令和3年4月1日海大達第99号)

国際連携研究教育局に置くグローバルステーションについて、令和3年3月31日付けで3拠点の設置期間が満了すること及び令和3年4月1日付けで新たな拠点を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## ■ 研修

### 令和3年度北海道地区国立大学法人等初任職員研修（一般職）

開催期間：令和3年4月7日～9日

開催場所：オンライン

研修目的：北海道地区国立大学法人等の職員としての心構えを自覚させるとともに、初任職員として必要な基礎的知識を付与することを目的とする。



訓示（寶金清博総長）



受講風景



特別講話（村田善則理事）



受講風景

（総務企画部人事課）

## ■ 表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
3.3.17	駐日ベルギー王国大使館 Roxane de BILDERLING大使	両国の交流に関する懇談



Roxane de BILDERLING 駐日ベルギー王国大使（中央）

（国際部国際連携課）

# ■人事

令和3年3月4日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	中 園 和 貴	厚生労働省大臣官房人事課長補佐

令和3年3月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (辞職)	渡 部 要 一	大学院工学研究院教授

令和3年3月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年)	久保川 厚	大学院地球環境科学研究院教授
	加 藤 敦 之	大学院理学研究院教授
	蓬 田 清	大学院理学研究院教授
	有 賀 早 苗	大学院農学研究院教授
	幸 田 敏 明	大学院先端生命科学研究院教授
	北 村 倫 夫	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	橋 本 聡	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	安 住 和 久	大学院工学研究院教授
	武 田 雅 哉	大学院文学研究院教授
	和 田 博 美	大学院文学研究院教授
(任期満了)	坂 田 章 吉	大学院工学研究院教授
	大 塚 夏 彦	国際連携研究教育局・北極域研究センター教授
	CRETON COSTANTINO	国際連携研究教育局教授
	HONG WEI	国際連携研究教育局教授
	HOURET DOMINIQUE	国際連携研究教育局教授
	HUI CHUNGYUEN	国際連携研究教育局教授
	LINDNER ANKE	国際連携研究教育局教授
(辞職)	吉 田 徹	大学院法学研究科教授
	加 藤 昌 子	大学院理学研究院教授
	清 水 伸 一	大学院医学研究院教授
	杉 本 敦 子	国際連携研究教育局・北極域研究センター教授
【准教授】 (定年)	小 泉 均	大学院工学研究院准教授
【助手】 (定年)	古 田 伊都子	大学院医学研究院助手
【部長】 (定年)	太 田 裕 美	国際部長
	深 澤 博 昭	北海道大学病院事務部長
【事務長】 (定年)	徳 山 雅 一	法学研究科・法学部事務長
	長 野 剛 志	環境科学事務部事務長
	成 澤 顕 久	北方生物圏フィールド科学センター事務長
	笹 原 英 明	北キャンパス合同事務部事務長



大学院医理工学院長 (期間：令和5年3月31日まで)	久下 裕 司	アイソトープ総合センター教授
大学院国際感染症学院長 (期間：令和5年3月31日まで)	堀内 基 広	大学院獣医学研究院教授
大学院国際食資源学院長を命ずる (期間：令和5年3月31日まで)	高橋 昌 志	大学院農学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部長 大学院公共政策学教育部長 (期間：令和5年3月31日まで)	空井 護	大学院公共政策学連携研究部教授
電子科学研究所長 (期間：令和5年3月31日まで)	居城 邦 治	電子科学研究所教授
人獣共通感染症国際共同研究所長 (期間：令和4年3月31日まで)	鈴木 定 彦	人獣共通感染症国際共同研究所教授
情報基盤センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	棟朝 雅 晴	情報基盤センター教授
アイソトープ総合センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	工藤 興 亮	大学院医学研究院教授
観光学高等研究センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	山村 高 淑	国際連携研究教育局・観光学高等研究センター教授
北極域研究センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	深町 康	北極域研究センター教授
広域複合災害研究センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	山田 孝	大学院農学研究院教授
人間知・脳・AI研究教育センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	田口 茂	大学院文学研究院教授
外国語教育センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	奥 聡	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
数理・データサイエンス教育研究センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	大本 亨	大学院理学研究院教授
総合博物館長 (期間：令和5年3月31日まで)	小澤 丈 夫	大学院工学研究院教授
保健センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	橋野 聡	保健センター教授
埋蔵文化財調査センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	小杉 康	大学院文学研究院教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長 (期間：令和4年3月31日まで)	辻 康 夫	国際連携研究教育局・大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	門出 健 次	大学院先端生命科学研究院教授
大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	渡辺 精 一	大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター教授
大学院医学研究院附属動物実験施設長 (期間：令和5年3月31日まで)	渡辺 雅 彦	大学院医学研究院教授
大学院獣医学研究院附属動物病院長 (期間：令和5年3月31日まで)	片桐 成 二	大学院獣医学研究院教授
水産学部附属練習船おしよろ丸船長 (期間：令和4年3月31日まで)	亀井 佳 彦	水産学部附属練習船おしよろ丸准教授
水産学部附属練習船うしお丸船長 (期間：令和5年3月31日まで)	坂岡 桂一郎	水産学部附属練習船うしお丸准教授
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター長 (期間：令和5年3月31日まで)	長山 雅 晴	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
【副研究科長・副研究院長等】 大学院理学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	齋藤 睦	大学院理学研究院教授

大学院理学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	村越敬	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	市川聡	国際連携研究教育局・大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	久保友彦	大学院農学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	野口伸	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	出村誠	大学院先端生命科学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	奥聡	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	泉典洋	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	永田晴紀	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	幅崎浩樹	大学院工学研究院教授
大学院医学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	岩崎倫政	大学院医学研究院教授
大学院医学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	田中伸哉	創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院医学研究院教授
大学院獣医学研究院副研究院長 (期間：令和5年3月31日まで)	迫田義博	大学院獣医学研究院教授
電子科学研究所副所長 (期間：令和5年3月31日まで)	太田裕道	電子科学研究所教授
人獣共通感染症国際共同研究所副所長 (期間：令和4年3月31日まで)	澤洋文	人獣共通感染症国際共同研究所教授
<b>【教育研究評議会評議員】</b> (期間：令和5年3月31日まで) (期間：令和5年3月31日まで) (期間：令和5年3月31日まで) (期間：令和5年3月31日まで) (期間：令和5年3月31日まで) (期間：令和5年3月31日まで)	齋藤睦 市川聡 野口伸 幅崎浩樹 岩崎倫政 迫田義博	大学院理学研究院教授 国際連携研究教育局・大学院薬学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院工学研究院教授 大学院医学研究院教授 大学院獣医学研究院教授
<b>【教授】</b> 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 国際連携研究教育局・大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院水産科学研究院教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院薬学研究院教授 大学院薬学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院先端生命科学研究院教授 大学院先端生命科学研究院教授	川村力 齋藤正彰 齋藤由起 辻康夫 清水宗敬 山本正伸 大本亨 栗谷豪 徂徠和夫 大西俊介 小林正紀 浅野真一郎 当真要 東山寛 藤野介延 相沢智康 黒川孝幸	大学院法学研究科准教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大阪大学准教授 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院水産科学研究院准教授 国際連携研究教育局・大学院地球環境科学研究院教授 国際連携研究教育局・大学院理学研究院教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院医学研究院准教授 大学院薬学研究院准教授 大学院農学研究院准教授 愛媛大学准教授 大学院農学研究院准教授 大学院農学研究院准教授 国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授 国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授

大学院先端生命科学研究院教授  
 大学院先端生命科学研究院教授  
 大学院先端生命科学研究院教授  
 大学院保健科学研究院教授  
 大学院保健科学研究院教授  
 大学院保健科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院保健科学研究院教授  
 大学院工学研究院教授  
 大学院工学研究院教授  
 大学院工学研究院教授  
 大学院工学研究院教授  
 大学院医学研究院教授  
 大学院医学研究院教授  
 大学院医学研究院教授  
 大学院歯学研究院教授  
 大学院獣医学研究院附属動物病院教授  
 大学院文学研究院教授  
 大学院文学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院文学研究院教授  
 大学院文学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院文学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院情報科学研究院教授  
 大学院公共政策学連携研究部教授  
 大学院公共政策学連携研究部教授  
 北海道大学病院教授  
 北海道大学病院教授  
 低温科学研究所教授  
 電子科学研究所教授  
 電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授  
 スラブ・ユーラシア研究センター教授  
 北方生物圏フィールド科学センター教授  
 北方生物圏フィールド科学センター教授  
 国際連携研究教育局・観光学高等研究センター教授  
 国際連携研究教育局・アイヌ・先住民研究センター教授  
 北極域研究センター教授  
 高等教育推進機構教授  
 (転出)  
 東北大学教授  
 大阪大学教授

グ ン 劍 萍  
 出 村 誠  
 芳 賀 永  
 荒 木 敦 子  
 田 高 悦 子  
 千見寺 貴 子  
 山 内 太 郎  
 杉 山 隆 文  
 高 野 伸 栄  
 渡 部 要 一  
 岩 崎 倫 政  
 田 中 伸 哉  
 谷 口 浩 二  
 山 本 恒 之  
 池 中 良 徳  
 佐 藤 健太郎  
 高 瀬 克 範  
 谷 本 晃 久  
 宮 嶋 俊 一  
 吉 開 将 人  
 赤 井 恵  
  
 有 村 博 紀  
 今 井 英 幸  
 大 鐘 武 雄  
 小 野 哲 雄  
 齊 藤 晋 聖  
 杉 本 雅 則  
 中 村 篤 祥  
 長谷山 美 紀  
 吉 岡 真 治  
 渡 邊 日出海  
 ALLAN JAMES  
 ZILBERSTEIN SHLOMO  
 DUTKIEWICZ ERYK  
 HUANG XIAOJING  
 LIU REN PING  
 岩 谷 将  
 渡 部 要 一  
 近 藤 英 司  
 佐 藤 典 宏  
 田 中 亮 一  
 居 城 邦 治  
 中 垣 俊 之  
 田 畑 伸一郎  
 玖 村 朗 人  
 清 水 宗 敬  
 山 村 高 淑  
 加 藤 博 文  
 深 町 康  
 亀 野 淳  
  
 櫛 橋 明 香  
 赤 井 恵

国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院先端生命科学研究院教授  
 (採用)  
 (採用)  
 大学院保健科学研究院准教授  
 大学院保健科学研究院教授  
 大学院公共政策学連携研究部教授  
 大学院公共政策学連携研究部教授  
 (採用)  
 国際連携研究教育局・大学院医学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院医学研究院教授  
 (採用)  
 大学院歯学研究院准教授  
 大学院獣医学研究院准教授  
 大学院文学研究院准教授  
 大学院文学研究院准教授  
 大学院文学研究院教授  
 大学院文学研究院准教授  
 大学院文学研究院教授  
 大阪大学教授  
 (大阪大学を本籍機関としてクロスアポイントメント適用)  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 創成研究機構化学反応創成研究拠点・国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授  
 国際連携研究教育局教授  
 国際連携研究教育局教授  
 国際連携研究教育局教授  
 国際連携研究教育局教授  
 国際連携研究教育局教授  
 大学院法学研究科教授  
 大学院工学研究院教授  
 国際連携研究教育局・北海道大学病院教授  
 国際連携研究教育局・北海道大学病院教授  
 低温科学研究所准教授  
 国際連携研究教育局・電子科学研究所教授  
 国際連携研究教育局・電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授  
 国際連携研究教育局・スラブ・ユーラシア研究センター教授  
 大学院農学研究院教授  
 大学院水産科学研究院教授  
 観光学高等研究センター教授  
 アイヌ・先住民研究センター教授  
 国際連携研究教育局・北極域研究センター教授  
 高等教育推進機構准教授  
  
 大学院法学研究科教授  
 大学院情報科学研究院教授



国土交通省	森 木 亮	北極域研究センター教授
【副学長】 (転出) 横浜国立大学副学長・事務局長	関 崎 徳 彦	総務企画部長
【部長・次長】 企画調整役(兼) 監事支援室長 総務企画部長 総務企画部次長(兼) 総務企画部人事課長 国際部長 附属図書館事務部長 工学系事務部長 北海道大学病院事務部次長 (転出) 帯広畜産大学事務局次長 東海国立大学機構図書館事務部長 旭川医科大学事務局次長	大 道 元 河 野 孝 紀 粒 來 英 雄 本 村 宏 明 鈴 木 秀 樹 佐々木 博 之 西 村 敏 信  佐々木 津 祥 相 原 雪 乃 成 田 昭 夫	工学系事務部長(兼) 企画調整役 総務企画部次長(兼) 総務企画部総務課長 日本学術振興会総務部総務課長 九州大学国際部長 筑波大学学術情報部長 財務部次長 文部科学省初等中等教育局財務課課長補佐  施設部施設企画課長 附属図書館事務部長 北海道大学病院医療支援課長
【課長・事務長・室長】 総務企画部総務課長 総務企画部企画課長 総務企画部広報課長(兼) 総務企画部広報課卒業生・基金室長 総務企画部人事課厚生労務室長 財務部主計課長 財務部経理課長 研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長 施設部施設企画課長 施設部環境配慮促進課長 国際部国際連携課長 附属図書館研究支援課長 法学研究科・法学部事務長 環境科学事務部事務長 メディア・観光学事務部事務長 医学系事務部総務課長 北海道大学病院医療支援課長 低温科学研究所事務長 北キャンパス合同事務部事務長 (出向復帰) 工学系事務部総務課長 北方生物圏フィールド科学センター事務長 (出向) 北海道教育大学総務企画部総務課長 小樽商科大学学生支援課長 函館工業高等専門学校総務課長 苫小牧工業高等専門学校総務課長 (転出) 東京大学本部人事企画課長 文部科学省 日本学術振興会経営企画部企画調整官 九州大学図書館企画課長	平 松 亨 寺 野 印 成 菊 池 洋 美 桃 山 光 樹 宮 倉 尚 之 眞 野 茂 樹 佐々木 好 美 佐々木 匡 史 成 田 芳 道 阿 部 成 剛 鶴 澤 和 往 横 岡 政 紀 岡 野 賢 馬 場 勝 浩 小 澤 嘉 磨 井 上 義 彦 伊 藤 美 香 中 田 雄 二  松 橋 和 哉 岩 佐 俊 明  土 橋 祐 美 勘 原 和 彦 八 戸 勇 人 佐 藤 規 久  水 口 隼 人 片 山 則 行 金 子 郁 代 結 城 憲 司	総務企画部企画課長 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室ゲノム改変研究対策専門官 総務企画部広報課長 工学系事務部総務課長 福島大学財務課長 研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長 財務部経理課長 施設部環境配慮促進課長 北見工業大学施設課長 日本学術振興会研究事業部研究助成企画課課長代理 富山大学図書館情報課長 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 施設部施設企画課課長補佐 メディア・観光学事務部事務長(兼) 財務部 総務企画部人事課厚生労務室長 北見工業大学総務課長 医学系事務部総務課長 低温科学研究所事務長  苫小牧工業高等専門学校総務課長 旭川医科大学総務部研究支援課長  総務企画部総務課課長補佐 総務企画部総務課安全衛生室室長補佐 函館キャンパス事務部事務長補佐 北海道大学病院管理課課長補佐  総務企画部人事課長 財務部主計課長 国際部国際連携課長 附属図書館研究支援課長

※教育研究組織及び教育研究組織に置く事務部の名称変更等に係る配置換は記載省略

○教育研究組織

・「人獣共通感染症リサーチセンター」→「人獣共通感染症国際共同研究所」

新任部局長等紹介

令和3年4月1日付

理学院長に



ながい たかや  
**永井 隆哉 教授**

令和3年3月31日限りで網塚 浩大学院理学院長が任期満了となり、その後任として永井隆哉教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

理学研究院長・理学部長に



あみつか ひろし  
**網塚 浩 教授**

令和3年3月31日限りで堀口健雄理学研究院長・理学部長が任期満了となり、その後任として網塚 浩教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

昭和63年3月 東京大学理学部卒業  
平成4年1月 東京大学大学院理学系研究科第1種博士課程退学  
平成7年3月 博士(理学)(東京大学)  
平成4年2月 大阪大学教養部助手  
平成6年4月 大阪大学理学部助手  
平成8年4月 大阪大学大学院理学研究科助手  
平成15年11月 北海道大学大学院理学研究科助教授  
平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院助教授  
平成19年4月 北海道大学大学院理学研究院准教授  
平成22年10月 北海道大学大学院理学研究院教授  
平成31年4月 } 北海道大学大学院理学研究院副研究院長  
令和3年3月 }

略 歴

生 年 月 日 昭和39年3月27日  
昭和62年3月 北海道大学理学部卒業  
平成元年3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了  
平成元年6月 北海道大学大学院理学研究科博士後期課程退学  
平成元年7月 北海道大学理学部助手  
平成6年3月 博士(理学)(北海道大学)  
平成7年4月 北海道大学大学院理学研究科助手  
平成7年5月 } オランダ・Van der Waals-Zeeman研究所(文部省在外研究員)  
平成8年2月 }  
平成7年10月 北海道大学大学院理学研究科講師  
平成12年5月 北海道大学大学院理学研究科助教授  
平成17年4月 北海道大学大学院理学研究科教授  
平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授  
平成26年4月 } 北海道大学総長補佐、北海道大学創成研究機構副機構長  
平成29年3月 }  
平成26年4月 } 北海道大学創成研究機構共用機器管理センター長  
平成27年12月 }  
平成28年1月 } 北海道大学グローバルファシリティーセンター長  
平成30年3月 }  
令和2年1月 } 北海道大学グローバルファシリティーセンター長  
現 在 }  
平成29年4月 } 北海道大学大学院理学院院长  
令和3年3月 }

薬学研究院長・薬学部長に



きはら あきお  
**木原 章雄 教授**

令和3年3月31日限りで佐藤美洋薬学研究院長・薬学部長が任期満了となり、その後任として木原章雄教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

生命科学院長に



さとう よしひろ  
**佐藤 美洋 教授**

令和3年3月31日限りで山下正兼大学院生命科学院長が任期満了となり、その後任として佐藤美洋教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和45年5月26日  
平成5年3月 京都大学理学部卒業  
平成7年3月 京都大学大学院理学研究科修士課程修了  
平成10年3月 京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了  
平成10年3月 博士(理学)(京都大学)  
平成13年1月 北海道大学大学院薬学研究科助手  
平成17年1月 北海道大学大学院薬学研究科助教授  
平成18年4月 北海道大学大学院薬学研究科助教授  
平成19年4月 北海道大学大学院薬学研究科准教授  
平成20年4月 北海道大学大学院薬学研究科教授  
平成29年4月 } 北海道大学大学院薬学研究科副研究院長  
令和3年3月 }  
平成29年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
令和3年3月 }

略 歴

生 年 月 日 昭和40年10月1日  
昭和63年3月 北海道大学薬学部卒業  
平成2年3月 北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了  
平成2年4月 北海道大学薬学部教務職員  
平成5年9月 博士(薬学)(北海道大学)  
平成7年10月 北海道大学薬学部助手  
平成10年4月 北海道大学大学院薬学研究科助手  
平成11年4月 北海道大学大学院薬学研究科講師  
平成13年4月 北海道大学大学院薬学研究科助教授  
平成16年4月 北海道大学大学院薬学研究科教授  
平成18年4月 北海道大学大学院薬学研究科教授  
平成27年4月 } 北海道大学大学院薬学研究科副研究院長  
平成29年3月 }  
平成27年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
平成29年3月 }  
平成29年4月 } 大学院薬学研究科副院長・薬学部長  
令和3年3月 }

メディア・コミュニケーション研究院長・  
国際広報メディア・観光学院長に



かわい やすし  
**河合 靖 教授**

令和3年3月31日限りで西川克之メディア・コミュニケーション研究院長・国際広報メディア・観光学長が任期満了となり、その後任として河合 靖教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和34年10月12日  
 昭和59年3月 北海道大学文学部卒業  
 昭和59年4月 北海道帯広柏葉高等学校教諭  
 昭和63年4月 北海道遠軽高等学校教諭  
 平成3年8月 アラバマ大学教育学部修士課程修了  
 平成7年3月 アラバマ大学教育学部博士課程退学  
 平成7年4月 北海道大学言語文化学部講師  
 平成7年12月 教育学博士（アラバマ大学）  
 平成8年6月 北海道大学言語文化学部助教授  
 平成19年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授  
 平成21年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授  
 平成31年4月 } 北海道大学外国語教育センター長  
 令和3年3月 }

医学研究院長・医学院長・医学部長に



ひなげやま しげつぐ  
**畠山 鎮次 教授**

令和3年3月31日限りで吉岡充弘医学研究院長・医学院長・医学部長が任期満了となり、その後任として畠山鎮次教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和40年11月15日  
 平成2年3月 北海道大学医学部医学科卒業  
 平成6年3月 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了  
 平成6年3月 博士（医学）（北海道大学）  
 平成6年4月 アメリカ合衆国ワシントン大学医学部博士研究員  
 平成7年6月 アメリカ合衆国国立予防衛生研究所（NIH）国立癌研究所博士研究員  
 平成9年3月 九州大学生体防御医学研究所助手  
 平成12年11月 九州大学生体防御医学研究所助教授  
 平成16年7月 北海道大学大学院医学研究科教授  
 平成23年4月 } 北海道大学アイソトープ総合センター長  
 令和3年3月 }  
 平成23年9月 } 北海道大学大学院医学研究科附属動物実験施設長  
 平成25年8月 }  
 平成25年4月 北海道大学役員補佐  
 平成26年4月 } 北海道大学総長補佐  
 平成29年3月 }  
 平成29年4月 北海道大学大学院医学研究院教授  
 平成29年4月 } 北海道大学大学院医学研究院副研究院長  
 令和3年3月 }

獣医学院長に



いしづか まゆみ  
**石塚 真由美 教授**

令和3年3月31日限りで昆泰寛獣医学院長が任期満了となり、その後任として石塚真由美教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

平成6年3月 北海道大学獣医学部卒業  
 平成10年3月 北海道大学大学院獣医学研究科博士課程修了  
 平成10年3月 獣医学博士（北海道大学）  
 平成10年11月 日本学術会議特別研究員  
 平成11年2月 国立環境研究所 研究員  
 平成12年10月 北海道大学大学院獣医学研究科 助手  
 平成16年4月 北海道大学大学院獣医学研究科 助教授/准教授  
 平成22年6月 北海道大学大学院獣医学研究科 教授  
 平成29年4月 北海道大学大学院獣医学研究院 教授

獣医学研究院長・獣医学部長に



たきぐち みつよし  
**滝口 満喜 教授**

令和3年3月31日限りで堀内基広獣医学研究院長・獣医学部長が任期満了となり、その後任として滝口満喜教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和38年6月5日  
 昭和62年3月 北海道大学獣医学部卒業  
 平成元年3月 北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了  
 平成元年4月 } 民間等  
 平成5年9月 }  
 平成5年10月 北海道大学獣医学部附属家畜病院助手  
 平成7年4月 北海道大学大学院獣医学研究科助手  
 平成11年12月 博士（獣医学）（北海道大学）  
 平成12年7月 北海道大学大学院獣医学研究科講師  
 平成16年6月 北海道大学大学院獣医学研究科助教授  
 平成16年10月 酪農学園大学獣医学部教授  
 平成19年10月 北海道大学大学院獣医学研究科教授  
 平成22年4月 } 北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院長  
 平成29年3月 }  
 平成29年4月 北海道大学大学院獣医学研究院教授  
 平成29年4月 } 北海道大学大学院獣医学研究院副研究院長  
 令和3年3月 }  
 平成29年4月 } 北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院長  
 令和3年3月 }  
 平成31年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員  
 令和3年3月 }  
 令和3年4月 北海道大学大学院獣医学研究院長・獣医学部長

医理工学院長に



くげ ゆうじ 久下 裕司 教授

令和3年3月31日限りで白土博樹医理工学院長が任期満了となり、その後任として久下裕司教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

昭和60年3月 京都大学薬学部卒業  
 昭和62年3月 京都大学大学院薬学研究科修士課程修了  
 平成8年5月 博士(薬学)(京都大学)  
 昭和62年4月 } 民間(武田薬品工業株式会社)  
 平成11年3月 }  
 平成11年4月 北海道大学医学部寄附講座教員  
 平成12年4月 北海道大学大学院医学研究科寄附講座教員  
 平成14年12月 京都大学大学院薬学研究科助教授  
 平成19年10月 北海道大学大学院医学研究科教授  
 平成21年4月 北海道大学アイソトープ総合センター教授

国際感染症学院長に



ほりうち もとひろ 堀内 基広 教授

令和3年3月31日限りで大橋和彦国際感染症学院長が任期満了となり、その後任として堀内基広教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和39年2月26日  
 昭和61年3月 北海道大学獣医学部卒業  
 昭和63年3月 北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了  
 昭和63年4月 } 民間(日本ロシユ株式会社研究所)  
 昭和63年12月 }  
 昭和64年1月 帯広畜産大学畜産学部助手  
 平成6年6月 博士(獣医学)(北海道大学)  
 平成7年6月 帯広畜産大学原虫病分子免疫研究センター助教授  
 平成7年6月 岐阜大学大学院連合獣医学研究科助教授  
 平成9年7月 } 米国立衛生研究所ロッキーマウンテン研究所訪問研究員  
 平成11年7月 }  
 平成12年4月 帯広畜産大学原虫病研究センター助教授  
 平成15年8月 北海道大学大学院獣医学研究科教授  
 平成25年4月 } 北海道大学役員補佐  
 平成26年3月 }  
 平成26年4月 } 北海道大学総長補佐  
 平成27年3月 }  
 平成26年7月 北海道大学国際連携研究教育局教授  
 平成27年4月 北海道大学高等教育推進機構教授  
 平成29年4月 } 北海道大学大学院獣医学研究院長・獣医学部長  
 令和3年3月 }  
 令和3年4月 北海道大学大学院国際感染症学院長

国際食資源学院長に



たかはし まさし 高橋 昌志 教授

令和3年3月31日限りで井上京大学院国際食資源学院長が任期満了となり、その後任として高橋昌志教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和38年4月11日  
 昭和61年3月 北海道大学農学部卒業  
 昭和63年3月 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了  
 平成8年12月 農学博士(北海道大学)  
 昭和63年4月 } 農林水産省・畜産試験場  
 平成13年3月 }  
 平成13年4月 } 独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構  
 平成24年6月 }  
 平成24年7月 北海道大学大学院農学研究科教授

公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長に



そらい まもる 空井 護 教授

令和3年3月31日限りで遠藤 乾公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長が任期満了となり、その後任として空井 護教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和42年11月25日  
 平成2年3月 東京大学法学部卒業  
 平成4年3月 東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了  
 平成4年4月 東京大学大学院法学政治学研究科助手  
 平成7年9月 東北大学法学部助教授  
 平成18年4月 北海道大学大学院法学研究科教授  
 平成26年4月 北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授

電子科学研究所長に

<sup>いじろ</sup> 居城 <sup>くにはる</sup> 邦治 教授



令和3年3月31日限りで中垣俊之電子科学研究所長が任期満了となり、その後任として居城邦治教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

昭和61年3月 東京工業大学工学部卒業  
 昭和63年3月 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了  
 平成3年3月 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了  
 平成3年3月 工学博士（東京工業大学）  
 平成2年4月 } 日本学術振興会特別研究員  
 平成4年3月 }  
 平成4年4月 東京工業大学生命理工学部助手  
 平成5年4月 } 独・フンボルト財団奨学研究員  
 平成6年3月 } (Johannes Gutenberg-Universität Mainz, Germany)  
 平成6年4月 北海道大学電子科学研究所講師  
 平成10年4月 北海道大学電子科学研究所助教授  
 平成16年3月 北海道大学電子科学研究所教授  
 平成27年4月 } 北海道大学電子科学研究所副所長  
 令和3年3月 }  
 平成28年6月 北海道大学電子科学研究所教授及び  
 北海道大学国際連携研究教育局教授

アイソトープ総合センター長に

<sup>くどう</sup> 工藤 <sup>こうすけ</sup> 與亮 教授



令和3年3月31日限りで畠山鎮次アイソトープ総合センター長が任期満了となり、その後任として工藤與亮教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和46年1月9日  
 平成7年3月 北海道大学医学部卒業  
 平成7年5月 北海道大学医学部附属病院医員  
 平成7年12月 厚生連総合病院旭川厚生病院医師  
 平成9年4月 北海道大学医学部附属病院医員  
 平成9年6月 医療法人禎心会セントラルCIクリニック医師  
 平成15年3月 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了  
 平成15年3月 博士（医学）（北海道大学）  
 平成15年4月 北海道大学医学部附属病院医員  
 平成16年4月 北海道大学大学院医学研究科助手  
 平成19年4月 北海道大学病院助教  
 平成20年4月 岩手医科大学講師  
 平成25年4月 北海道大学病院准教授  
 令和元年8月 北海道大学大学院医学研究院教授

外国語教育センター長に

<sup>おく</sup> 奥 <sup>さとし</sup> 聡 教授



令和3年3月31日限りで河合 靖外国語教育センター長が任期満了となり、その後任として奥 聡教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和36年8月29日  
 昭和60年3月 北海道大学文学部卒業  
 昭和63年3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了  
 平成2年3月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程退学  
 平成2年4月 北海道大学文学部助手  
 平成9年12月 コネチカット大学大学院言語学部修士課程修了  
 平成10年8月 Ph.D（言語学）（コネチカット大学）  
 平成10年9月 北海道大学言語文化部助教授  
 平成19年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授  
 平成27年4月 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授

数理・データサイエンス教育研究センター長に

<sup>おおもと</sup> 大本 <sup>とおる</sup> 亨 教授



令和3年3月31日限りで長谷山 美紀数理・データサイエンス教育研究センター長が任期満了となり、その後任として大本 亨教授が発令されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和40年8月18日  
 昭和63年3月 東京工業大学理学部卒業  
 平成2年3月 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了  
 平成5年3月 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了  
 平成5年3月 博士（理学）（東京工業大学）  
 平成5年4月 日本学術振興会特別研究員  
 平成6年3月 鹿児島大学理学部助手  
 平成8年8月 鹿児島大学理学部講師  
 平成9年6月 鹿児島大学理学部助教授  
 平成16年3月 北海道大学大学院理学研究科助教授  
 平成19年4月 北海道大学大学院理学研究院准教授  
 平成24年11月 北海道大学大学院理学研究院教授  
 平成29年7月 } 北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター副センター長  
 令和3年3月 }

## 部局長等（再任）紹介

令和3年4月1日付

## 農学院長・農学研究院長・農学部長に

にしむら たかのり  
西邑 隆徳 教授

西邑隆徳教授は、平成31年4月1日から農学院長・農学研究院長・農学部長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 工学院長・工学研究院長・工学部長に

せとぐち つよし  
瀬戸口 剛 教授

瀬戸口剛教授は、平成31年4月1日から工学院長・工学研究院長・工学部長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 情報基盤センター長に

むねとも まさはる  
棟朝 雅晴 教授

棟朝雅晴教授は、平成31年4月1日から情報基盤センター長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 北極域研究センター長に

ふかまち やすし  
深町 康 教授

深町 康教授は、平成31年4月1日から北極域研究センター長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 人間知・脳・AI研究教育センター長に

たぐち しげる  
田口 茂 特任教授

田口 茂教授は、平成31年4月1日から人間知・脳・AI研究教育センター長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 先端生命科学研究院長に

もんで けんじ  
門出 健次 教授

門出健次教授は、平成31年4月1日から先端生命科学研究院長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 人獣共通感染症国際共同研究所長に

すずき やすひこ  
鈴木 定彦 教授

鈴木定彦教授は、令和元年4月1日から人獣共通感染症リサーチセンター長を務め、改組に伴い、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和4年3月31日までです。

## 観光学高等研究センター長に

やまむら たかよし  
山村 高淑 教授

山村高淑教授は、平成31年4月1日から観光学高等研究センター長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 広域複合災害研究センター長に

やまだ たかし  
山田 孝 教授

山田 孝教授は、平成31年4月1日から広域複合災害研究センター長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 総合博物館長に

おざわ たけお  
小澤 丈夫 教授

小澤丈夫教授は、平成31年4月1日から総合博物館長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。任期は、令和5年3月31日までです。

## 保健センター長に

はしの  
橋野 聡 教授

---

橋野 聡教授は、平成31年4月1日から保健センター長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

## 埋蔵文化財調査センター長に

こすぎ やすし  
小杉 康 教授

---

小杉 康教授は、平成31年4月1日から埋蔵文化財調査センター長を務め、令和3年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和5年3月31日までです。

新任部課長等紹介

令和3年4月1日付



総務企画部次長（兼）人事課長に

つぶらい ひでお  
粒来 英雄 氏

昭和44年11月22日生  
昭和63年4月 東北大学主計課  
平成4年4月 東京大学主計課  
平成4年7月 文部省大臣官房総務課  
平成4年10月 文部省大臣官房会計課  
平成6年4月 文部省大臣官房人事課  
平成12年4月 人事院給与局給与第四課  
平成13年1月 人事院公平審査局審査課  
平成13年4月 人事院勤務条件局給与第二課  
平成14年4月 文部科学省大臣官房人事課給与班給与第三係長  
平成16年4月 文部科学省大臣官房人事課給与班給与第二係長  
平成17年4月 文部科学省大臣官房人事課給与班給与第三係長  
平成18年4月 国立高等専門学校機構本部事務局総務課課長補佐  
平成19年4月 国立高等専門学校機構本部事務局総務課課長補佐（併）人事課課長補佐  
平成20年4月 国立高等専門学校機構本部事務局人事課課長補佐  
平成21年4月 九州大学総務部人事課長  
平成23年4月 国立科学博物館経営管理部経営管理課長  
平成25年7月 東京大学本部人事企画課長（兼）人事給与課長  
平成27年4月 文部科学省大臣官房人事課高齢者雇用対策官（命）任用計画官  
平成28年4月 文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課評価・研究開発法人支援室室長補佐  
平成29年4月 国立高等専門学校機構本部事務局人事課長  
平成31年4月 日本学術振興会総務部総務課長  
令和2年4月 日本学術振興会総務部総務課長（兼）監査・研究公正室長  
令和2年8月 日本学術振興会総務部総務課長



国際部長に

もとむら ひろあき  
本村 宏明 氏

昭和43年10月12日生  
平成19年3月 青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修了  
平成5年4月 神戸大学経営学部  
平成8年4月 文部省大臣官房政策課  
平成9年9月 文部省学術国際局国際企画課  
平成10年4月 外務省在ブルガリア大使館三等書記官  
平成13年4月 外務省在ブルガリア大使館二等書記官  
平成13年6月 文部科学省大臣官房国際課企画調整室資料係長  
平成15年8月 文部科学省国際統括官付ユネスコ第三係長  
平成16年4月 文部科学省国際統括官付ユネスコ第一係長  
平成18年10月 名古屋大学研究協力・国際部国際課長  
平成20年4月 名古屋大学国際部国際企画課長  
平成21年4月 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室補佐（併）人物交流専門官  
平成22年9月 外務省在インドネシア大使館一等書記官  
平成23年5月 外務省在インドネシア大使館一等書記官（併）ASEAN代表部一等書記官  
平成25年4月 文部科学省国際統括官付国際統括官補佐  
平成27年4月 文部科学省大臣官房国際課補佐  
平成30年4月 九州大学国際部長（兼）外国人留学生・研究者サポートセンター長  
令和3年4月 北海道大学国際部長



工学系事務部長に

さ さ き ひろゆき  
佐々木 博之 氏

昭和63年10月 北海道大学  
平成4年10月 北海道大学医学部附属病院管理課  
平成8年4月 北海道大学経理部主計課  
平成13年4月 室蘭工業大学会計課専門職員  
平成14年4月 室蘭工業大学会計課用度係長  
平成15年4月 北海道大学経理部第一契約課政府調達掛長  
平成16年4月 北海道大学監査室監査掛長  
平成17年4月 北海道大学財務部主計課財務法規係長  
平成19年4月 北海道大学財務部主計課係長  
平成20年4月 北海道大学学術国際部研究協力課課長補佐  
平成22年4月 北海道大学財務部主計課課長補佐  
平成24年4月 北海道大学財務部資産運用管理課長  
平成28年4月 北海道大学財務部調達課長  
平成29年4月 北海道大学財務部次長（兼）調達課長  
平成29年10月 北海道大学政策調整室長  
令和2年10月 北海道大学財務部次長  
令和3年4月 北海道大学工学系事務部長



附属図書館事務部長に

すずき ひでき  
鈴木 秀樹 氏

昭和39年2月生  
昭和63年4月 東京学芸大学附属図書館  
平成8年4月 文部省大臣官房調査統計企画課情報図書係主任  
平成9年4月 文部省大臣官房調査統計企画課専門職員（兼）調査統計企画課情報図書係長  
平成10年4月 文部科学省大臣官房政策課専門職員（兼）資料係長  
平成13年1月 国立国会図書館資料提供部複写課主査  
平成14年4月 広島大学図書館部学術情報サービス課長  
平成16年4月 九州大学附属図書館コンテンツ整備課長  
平成18年4月 東京大学附属図書館情報サービス課長  
平成21年4月 国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長  
平成23年4月 新潟大学附属図書館学術情報管理課長  
平成25年4月 京都大学附属図書館情報管理課長  
平成27年4月 京都大学附属図書館学術支援課長  
平成28年4月 京都大学附属図書館図書館企画課長本部構内（文系）共通事務部図書担当課長  
平成29年4月 筑波大学学術情報部長  
平成30年4月 北海道大学附属図書館事務部長





北海道大学病院事務部次長に  
にしむら としのぶ  
**西村 敏信 氏**

昭和48年 1月生  
平成 9年 3月 北海学園大学経済学部卒業  
平成 9年 4月 北海道大学  
平成12年 4月 高等教育局大学課  
平成14年 4月 高等教育局私学部私学行政課  
平成16年10月 高等教育局国立大学法人支援課専門職  
平成18年 4月 高等教育局国立大学法人支援課支援第二係長  
平成19年 4月 高等教育局私学部私学助成課助成第一係長  
平成22年 4月 高等教育局私学部私学助成課総括係長  
平成23年 4月 小樽商科大学財務課長  
平成26年 4月 初等中等教育局財務課高校修学支援室室長補佐  
平成29年 4月 北海道大学病院経営企画課長  
平成31年 4月 初等中等教育局財務課課長補佐  
令和 3年 4月 北海道大学病院事務部次長



総務企画部企画課長に  
てらの あきなり  
**寺野 印成 氏**

昭和55年 5月生  
平成17年 3月 北海道大学大学院理学研究科修了  
平成18年10月 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課原子力規制室  
平成23年 1月 資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力政策課技術二係長  
平成23年 4月 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課専門職  
平成24年 4月 文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課  
原子力規制室規制第2係長  
平成24年 9月 原子力規制委員会原子力規制庁安全規制管理官  
(試験研究炉・再処理・加工・使用担当)付試験研究炉係長  
平成26年 3月 原子力規制委員会原子力規制部安全規制管理官  
(新型炉・試験研究炉・廃止措置担当)付試験研究炉係長  
平成26年 4月 原子力規制委員会長官官房放射線対策・  
保障措置課放射線規制室総括係長  
平成29年 4月 原子力規制委員会原子力規制庁原子力規制部  
安全規制管理官(PWR担当)付原子力保安検査官  
平成29年 7月 原子力規制委員会原子力規制庁原子力規制部  
実用炉監視部門原子力運転検査官  
平成30年 5月 原子力規制委員会原子力規制部実用炉審査部門安全審査専門職  
令和 2年 4月 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課  
生命倫理・安全対策室ゲノム改変研究対策専門官



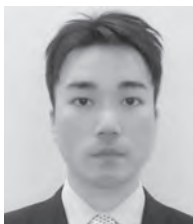
財務部主計課長に  
みやくら なおゆき  
**宮倉 尚之 氏**

昭和42年 4月11日生  
昭和61年 3月 東京都立足立高校卒業  
昭和61年 4月 大学入試センター会計課  
平成 8年 4月 文部科学省高等教育局学生課  
平成11年 4月 学位授与機構学務課係長  
平成12年 4月 大学評価・学位授与機構学位審査課係長  
平成14年 4月 文部科学省高等教育局私学行政課係長  
平成17年 4月 国立教育政策研究所庶務課課長補佐  
平成19年 4月 室蘭工業大会計課長  
平成21年 4月 静岡大学財務課長  
平成23年 4月 国立高等専門学校機構企画課長  
平成26年 4月 佐賀大学財務課長  
平成28年 4月 鳥取大学財務課長  
平成30年 4月 福島大学財務課長  
令和 3年 4月 北海道大学財務部主計課長



施設部環境配慮促進課長に  
なりた よしみち  
**成田 芳道 氏**

昭和42年 3月 2日生  
平成元年 6月 帯広畜産大学  
平成 6年 4月 北海道大学  
平成16年 4月 北海道教育大学事務局財務部施設課専門職  
平成19年 4月 北海道大学医学系事務部会計課係長  
平成22年12月 北海道大学病院管理課係長  
平成24年 4月 北海道大学施設部環境配慮促進課係長  
平成26年 4月 帯広畜産大学経営管理部施設課課長補佐  
平成28年 4月 北海道教育大学事務局財務部施設課副課長  
平成29年 4月 小樽商科大学施設課長  
令和 2年 4月 北見工業大学施設課長  
令和 3年 4月 北海道大学施設部環境配慮促進課長



国際連携課長に

あべ なりたけ  
**阿部 成剛 氏**

平成10年4月 日本学術振興会事業部研究協力課  
 平成11年4月 〃 総務部研究者養成課  
 平成12年10月 〃 国際事業部地域交流課  
 平成13年11月 〃 総務部主計課  
 平成14年11月 海外機関研修(アレクサンダー・フォン・フンボルト財団)  
 平成15年11月 独立行政法人日本学術振興会国際事業部地域交流課  
 平成17年9月 〃 研究事業部研究事業課主任  
 平成18年10月 〃 研究事業部研究事業課係長  
 平成20年4月 文部科学省科学技術・学術政策局調査調整課専門職  
 平成22年4月 独立行政法人日本学術振興会研究事業部最先端研究助成課係長  
 平成25年4月 〃 総務企画部企画情報課係長(兼) グローバル学術情報センター係長  
 平成26年7月 〃 ワシントン研究連絡センター副センター長  
 平成28年10月 〃 人材育成事業部大学連携課専門員  
 平成30年10月 〃 人材育成事業部大学連携課課長代理  
 令和2年4月 〃 研究事業部研究助成企画課課長代理  
 令和3年4月 北海道大学国際部国際連携課長



附属図書館研究支援課長に

うぞわ かずゆき  
**鵜澤 和往 氏**

昭和40年1月生  
 昭和62年3月 國學院大學文学部卒業  
 昭和62年4月 北海道大学工学部  
 平成9年4月 学術情報センター  
 平成10年4月 学術情報センター雑誌目録情報係長  
 平成11年4月 学術情報センター相互協力係長  
 平成12年4月 国立情報学研究所計量情報係長  
 平成15年4月 国立情報学研究所コンテンツ形成管理係長  
 平成16年4月 国立情報学研究所目録情報管理係長  
 平成17年4月 北海道大学附属図書館情報管理課雑誌受入係長  
 平成19年4月 北海道大学附属図書館情報管理課係長  
 平成20年4月 北海道大学附属図書館情報サービス課付係長  
 平成21年4月 北海道大学附属図書館利用支援課付係長  
 平成23年4月 北海道大学附属図書館学術システム課係長  
 平成26年4月 北海道大学附属図書館管理課長補佐  
 平成28年4月 旭川医科大学図書館情報課長  
 平成31年4月 富山大学図書館情報課長  
 令和3年4月 北海道大学附属図書館研究支援課長



法学研究科・法学部事務長に

よこおか まさき  
**横岡 政紀 氏**

昭和43年2月2日生  
 平成2年3月 札幌大学経済学部卒  
 平成2年4月 北海道郵政局  
 平成3年4月 北海道大学  
 平成18年4月 法学研究科・法学部会計係長  
 平成20年4月 北海道大学病院経営企画課係長  
 平成21年4月 財務部主計課係長  
 平成25年7月 小樽商科大学財務課課長代理  
 平成26年10月 小樽商科大学企画戦略課課長代理  
 平成27年4月 北海道大学財務部主計課課長補佐  
 平成29年4月 理学・生命科学事務部事務課課長補佐  
 令和3年4月 法学研究科・法学部事務長



環境科学事務部事務長に

おかの けん  
**岡野 賢 氏**

昭和41年1月30日生  
 昭和59年4月 国立日高少年自然の家  
 昭和63年5月 北海道大学  
 平成15年4月 北見工業大学会計課用度係長  
 平成16年4月 北見工業大学財務課契約係長  
 平成18年4月 北海道大学財務部調達課調達第三係長  
 平成19年4月 北海道大学財務部調達課係長  
 平成21年4月 北海道大学工学系事務部経理課係長  
 平成23年4月 北海道大学財務部経理課係長  
 平成26年7月 理学・生命科学事務部事務課課長補佐  
 平成29年4月 北海道大学施設部施設企画課課長補佐  
 令和3年4月 環境科学事務部事務長



工学系事務部総務課長に

まつはし かずや  
松橋 和哉 氏

昭和40年4月2日生  
 平成元年3月 北海学園大学法学部卒業  
 平成元年11月 小樽商科大学  
 平成15年4月 北海道大学経理部経理課  
 平成17年4月 苫小牧工業高等専門学校会計課用度係長  
 平成17年10月 苫小牧工業高等専門学校会計課総務係長(併)出納係長  
 平成19年4月 苫小牧工業高等専門学校総務課財務係長  
 平成20年4月 北海道大学学術国際部研究協力課係長  
 平成22年7月 北海道大学学術部研究協力課係長  
 平成23年4月 北海道大学工学系事務部会計課係長  
 平成26年4月 室蘭工業大学地域連携推進グループコーディネーター  
 平成28年4月 北海道大学研究推進部産学連携課課長補佐  
 平成31年4月 苫小牧工業高等専門学校総務課長  
 令和3年4月 北海道大学工学系事務部総務課長



北海道大学病院医療支援課長に

いのうえ よしひこ  
井上 義彦 氏

昭和37年10月9日生  
 昭和62年3月 北海学園大学法学部卒業  
 昭和56年4月 北海道大学  
 平成7年4月 国立大雪青年の家  
 平成10年4月 北海道大学  
 平成13年4月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター専門職員(天塩研究林担当)  
 平成16年4月 北海道大学病院医療企画課専門職員(外来担当)  
 平成17年10月 北海道大学病院医事課外来係長  
 平成18年4月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター会計係長  
 平成19年4月 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター係長(会計担当)  
 平成21年4月 旭川医科大学病院医療支援課長  
 平成23年4月 釧路工業高等専門学校学生課長  
 平成26年4月 釧路工業高等専門学校総務課長  
 平成27年4月 釧路工業高等専門学校研究協力室長(兼務)  
 平成28年4月 苫小牧工業高等専門学校総務課長  
 平成31年4月 北見工業大学総務課長(総務担当)  
 令和3年4月 北海道大学病院医療支援課長



北方生物圏フィールド科学センター事務長に

いわさ としあき  
岩佐 俊明 氏

昭和40年2月3日生  
 昭和58年4月 北海道大学  
 平成15年4月 北海道大学経理部第一契約課専門職員  
 平成16年4月 北海道大学財務部調達課政府調達掛長  
 平成19年4月 北海道大学監査室係長(監査担当)  
 平成21年4月 北海道大学財務部主計課係長(総務担当)  
 平成22年4月 北海道大学医学系事務部総務課課長補佐  
 平成24年4月 北海道大学研究推進部外部資金戦略課課長補佐  
 平成27年4月 小樽商科大学企画戦略課課長代理  
 平成28年4月 研究推進部産学連携課長  
 平成31年4月 旭川医科大学総務部研究支援課長  
 令和3年4月 北方生物圏フィールド科学センター事務長

新任教授紹介

令和3年4月1日付



法学研究科教授に

かわむら ちから 氏  
**川村 力 氏**

法学政治学専攻現代法講座

最終学歴

東京大学大学院法学政治学研究科修士課程修了（平成17年3月）

専門分野

商法



法学研究科教授に

さいとう ゆき 氏  
**齋藤 由起 氏**

法学政治学専攻現代法講座

最終学歴

北海道大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学（平成17年3月）

専門分野

民法



北方生物圏フィールド  
科学センター教授に

しみず むねたか 氏  
**清水 宗敬 氏**

水圏研究領域  
生態系変動解析分野

生年月日

昭和43年7月30日

最終学歴

北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程修了（平成9年3月）  
博士（水産学）（北海道大学）

専門分野

魚類生理学



理学研究院教授に

くりたに たけし 氏  
**栗谷 豪 氏**

地球惑星科学部門  
地球惑星システム科学分野

生年月日

昭和47年10月23日

最終学歴

東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（平成12年3月）  
博士（理学）（東京大学）

専門分野

火成岩岩石学，地球化学



理学研究院教授に

そらい かずお 氏  
**徂徠 和夫 氏**

物理学部門非線形物理学分野

生年月日

昭和44年7月26日

最終学歴

東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（平成10年3月）  
博士（理学）（東京大学）

専門分野

銀河物理学，観測天文学



薬学研究院教授に

おにし しゅんすけ 氏  
**大西 俊介 氏**

医療薬学部門医療薬学分野

生年月日

昭和45年3月30日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成13年3月）  
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

再生医療，消化器病学



薬学研究院教授に

こばやし まさき  
**小林 正紀 氏**

医療薬学部門医療薬学分野

生年月日

昭和54年10月16日

最終学歴

北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了（平成16年3月）  
博士（薬学）（北海道大学）

専門分野

医療薬学・臨床薬学



農学研究院教授に

あさの しんいちろう  
**浅野 眞一郎 氏**

基盤研究部門応用生命科学分野

生年月日

昭和40年5月29日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科修士課程中退（平成2年3月）  
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

昆虫病理学，微生物防除学，応用分子昆虫学



農学研究院教授に

とうま よう  
**当真 要 氏**

基盤研究部門生物機能化学分野

生年月日

昭和53年10月8日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成20年3月）  
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

土壌学，物質循環学



農学研究院教授に

ひがしやま かん  
**東山 寛 氏**

基盤研究部門農業経済学分野

生年月日

昭和42年1月9日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成6年3月）  
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

農業経営学



農学研究院教授に

ふじの かいえん  
**藤野 介延 氏**

基盤研究部門生物資源科学分野

生年月日

昭和35年5月12日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科修士課程修了（昭和60年3月）  
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

植物生理学



保健科学研究院教授に

あらかい あつこ  
**荒木 敦子 氏**

保健科学部門健康科学分野

生年月日

昭和44年1月21日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成23年3月）  
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

健康科学，環境疫学



保健科学研究院教授に

ただか えつこ  
**田高 悦子 氏**

保健科学部門創成看護学分野

**生年月日**

昭和40年 9月 9日

**最終学歴**

東京大学大学院医学系研究科博士課程修了（平成13年 3月）  
保健学博士（東京大学）

**専門分野**

地域看護学・公衆衛生看護学



保健科学研究院教授に

ちけんじ たかこ  
**千見寺 貴子 氏**

保健科学部門  
リハビリテーション科学分野

**最終学歴**

札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程後期修了（平成23年 3月）  
作業療法学博士（札幌医科大学）  
札幌医科大学大学院医学研究科  
医学博士（札幌医科大学）

**専門分野**

ライフサイエンス，再生医療



医学研究院教授に

たにくち こうじ  
**谷口 浩二 氏**

病理学分野分子病理学教室

**最終学歴**

東京大学医学部医学科卒業（平成12年 3月）  
九州大学大学院医学系学府博士課程修了（平成19年 3月）  
博士（医学）（九州大学）

**専門分野**

実験病理学，分子腫瘍学，消化器外科学



歯学研究院教授に

やまもと つねゆき  
**山本 恒之 氏**

口腔医学部門口腔機能学分野  
口腔機能解剖学教室

**最終学歴**

新潟大学大学院歯学研究科博士課程修了（昭和62年 3月）  
歯学博士（新潟大学）

**専門分野**

口腔解剖学，口腔組織学



獣医学研究院教授に

いけなか よしのり  
**池中 良徳 氏**

附属動物病院

**生年月日**

昭和55年 3月 30日

**最終学歴**

信州大学大学院総合工学系研究科博士課程修了（平成20年 3月）  
博士（理学）（信州大学）

**専門分野**

環境毒性学 機器分析化学



文学研究院教授に

きとう けんたろう  
**佐藤 健太郎 氏**

人文学部門歴史学分野

**生年月日**

昭和44年 3月 27日

**最終学歴**

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位修得退学（平成14年 3月）  
博士（文学）（東京大学）

**専門分野**

中東イスラーム史（特に西地中海地域）



文学研究院教授に

たかせ かつのり  
**高瀬 克範 氏**

人文学部門歴史学分野

**生年月日**

昭和49年 3月16日

**最終学歴**

北海道大学大学院文学研究科博士課程 修了（平成13年 3月）  
博士（文学）（北海道大学）

**専門分野**

考古学



文学研究院教授に

みやじま しゅんいち  
**宮嶋 俊一 氏**

人文学部門哲学宗教学分野

**最終学歴**

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了（平成17年 9月）  
博士（文学）（東京大学）

**専門分野**

宗教学, 死生学



情報科学研究院教授に

なかむら あつよし  
**中村 篤祥 氏**

情報理工学部門  
知識ソフトウェア科学分野

**生年月日**

昭和38年10月23日

**最終学歴**

東京工業大学大学院理学研究科修士課程情報科学専攻修了（昭和63年 3月）  
博士（理学）（東京工業大学）

**専門分野**

機械学習, データマイニング



低温科学研究所教授に

たなか りょういち  
**田中 亮一 氏**

生物環境部門生物適応分野

**最終学歴**

京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成 9年 3月）  
博士（理学）（京都大学）

**専門分野**

植物生理学



高等教育推進機構教授に

かめの じゅん  
**亀野 淳 氏**

高等教育研究部

**生年月日**

昭和40年 3月12日

**最終学歴**

北海学園大学大学院経済学研究科修士課程修了（平成13年 3月）  
修士（経済学）（北海学園大学）

**専門分野**

キャリア教育, 人的資源管理論

## 訃報

名誉教授 おおくほ まさひこ 大久保正彦 氏  
(享年82歳)



名誉教授 大久保正彦先生が、令和3年3月8日にご逝去されました。先生は、昭和13年7月31日神奈川県横浜市に生まれ、昭和36年3月北海道大学農学部畜産学科を卒業、同年10月北海道大学農学部助手に採用され、昭和57年7月助教授、平成7年4月教授に昇任され、平成11年4月北海道大学

院農学研究科教授に配置換となりました。平成9年8月から平成13年3月まで北海道大学農学部附属牧場長、平成13年4月から平成14年3月まで北海道大学北方生物圏フィールド科学センター副センター長を務められ、同年3月に停年により退職され、北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

先生は、一貫して反芻家畜のエネルギー代謝に関する研究、子牛の育成に関する研究、家畜の管理・行動に関する研究、放牧に関する研究など、多岐に渡る研究を進めてこられました。これらの研究は、土地を基盤とした家畜生産システムに関する研究としてまとめられ、農業生産と環境調和を家畜の生理・行動から生産まで総合的に捉え直した研究として、学会のみならず産業界からも高く評価されました。こうした研究のほか、先生は、毎年中国北

東部の黒竜江省を訪問され、穀類を多給しつつある酪農から自給飼料多給の酪農への転換をするため、効果的な自給飼料の給与方法を提案されました。これにより生乳生産量を落とすことなく穀類給与を減らす技術指導と普及に成功され、後に国家プロジェクトとして推進されるに至りました。このような先生の功績は、平成10年に中国政府から経済発展に貢献した外国人を表彰する「友誼賞」として賞されるに至りました。

先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大な貢献に感謝申し上げ、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(農学院・農学研究院・農学部)



# 資料

## 令和3年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等	募集人員	入学者数		一般選抜・総合型選抜・国際総合入試（備考）								その他	
				人数		比率		人数		比率			
		全体	女子	道内	道外	道内	道外	R2年度卒業	過年度卒業	R2年度卒業	過年度卒業	人数	比率
総合入試文系	95	99	39	19	78	19.2%	78.8%	83	14	83.8%	14.1%	2	2.0%
国際総合入試	5	3	3	0	2	0.0%	66.7%	2	0	66.7%	0.0%	1	33.3%
計	100	102	42	19	80	18.6%	78.4%	85	14	83.3%	13.7%	3	2.9%
総合入試理系													
数学重点選抜群	129	132	17	40	92	30.3%	69.7%	103	29	78.0%	22.0%		0.0%
物理重点選抜群	233	235	21	83	150	35.3%	63.8%	156	77	66.4%	32.8%	2	0.9%
化学重点選抜群	233	234	52	76	157	32.5%	67.1%	168	65	71.8%	27.8%	1	0.4%
生物重点選抜群	175	176	74	24	150	13.6%	85.2%	132	42	75.0%	23.9%	2	1.1%
総合科学選抜群	247	248	79	91	156	36.7%	62.9%	179	68	72.2%	27.4%	1	0.4%
国際総合入試	10	7	4	3	3	42.9%	42.9%	6	0	85.7%	0.0%	1	14.3%
計	1,027	1,032	247	317	708	30.7%	68.6%	744	281	72.1%	27.2%	7	0.7%
文学部	155	161	64	58	101	36.0%	62.7%	132	27	82.0%	16.8%	2	1.2%
教育学部	30	30	13	13	17	43.3%	56.7%	24	6	80.0%	20.0%		0.0%
法学部	180	188	61	74	113	39.4%	60.1%	131	56	69.7%	29.8%	1	0.5%
経済学部	160	160	30	68	92	42.5%	57.5%	113	47	70.6%	29.4%		0.0%
理学部													
数学科	13	14	0	1	11	7.1%	78.6%	6	6	42.9%	42.9%	2	14.3%
物理学科	10	10	1	3	7	30.0%	70.0%	7	3	70.0%	30.0%		0.0%
化学科	23	23	3	6	17	26.1%	73.9%	17	6	73.9%	26.1%		0.0%
生物科学科													
生物学専修分野	10	10	2	1	9	10.0%	90.0%	8	2	80.0%	20.0%		0.0%
高分子機能学専修分野	5	5	1	1	4	20.0%	80.0%	4	1	80.0%	20.0%		0.0%
小計	15	15	3	2	13	13.3%	86.7%	12	3	80.0%	20.0%	0	0.0%
地球惑星科学科	10	10	2	2	8	20.0%	80.0%	8	2	80.0%	20.0%		0.0%
計	71	72	9	14	56	19.4%	77.8%	50	20	69.4%	27.8%	2	2.8%
医学部													
医学科	102	102	32	32	69	31.4%	67.6%	59	42	57.8%	41.2%	1	1.0%
保健学科													
看護学専攻	67	68	66	51	17	75.0%	25.0%	58	10	85.3%	14.7%		0.0%
放射線技術科学専攻	35	37	18	28	9	75.7%	24.3%	27	10	73.0%	27.0%		0.0%
検査技術科学専攻	35	36	31	27	9	75.0%	25.0%	29	7	80.6%	19.4%		0.0%
理学療法専攻	17	18	6	6	12	33.3%	66.7%	14	4	77.8%	22.2%		0.0%
作業療法専攻	17	17	9	12	5	70.6%	29.4%	11	6	64.7%	35.3%		0.0%
小計	171	176	130	124	52	70.5%	29.5%	139	37	79.0%	21.0%	0	0.0%
計	273	278	162	156	121	56.1%	43.5%	198	79	71.2%	28.4%	1	0.4%
歯学部	43	43	13	15	28	34.9%	65.1%	21	22	48.8%	51.2%		0.0%
薬学部	24	26	6	2	22	7.7%	84.6%	13	11	50.0%	42.3%	2	7.7%
工学部													
応用理工系学科	38	39	7	9	29	23.1%	74.4%	26	12	66.7%	30.8%	1	2.6%
情報エレクトロニクス学科	38	40	4	5	32	12.5%	80.0%	27	10	67.5%	25.0%	3	7.5%
機械知能工学科	30	30	1	2	27	6.7%	90.0%	19	10	63.3%	33.3%	1	3.3%
環境社会工学科	53	55	6	10	44	18.2%	80.0%	32	22	58.2%	40.0%	1	1.8%
計	159	164	18	26	132	15.9%	80.5%	104	54	63.4%	32.9%	6	3.7%
農学部	53	55	14	1	54	1.8%	98.2%	34	21	61.8%	38.2%		0.0%
獣医学部	35	37	20	1	36	2.7%	97.3%	25	12	67.6%	32.4%		0.0%
水産学部	175	179	46	54	122	30.2%	68.2%	120	56	67.0%	31.3%	3	1.7%
現代日本学プログラム	-	19	14	-	-	-	-	-	-	-	-	19	100.0%
合計	2,485	2,546	759	818	1,682	32.1%	66.1%	1,794	706	70.5%	27.7%	46	1.8%
インテグレイテッド・サイエンス・プログラム（ISP）（2020.10入学）	-	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7	100.0%

備考：「一般選抜・総合型選抜・国際総合入試」の欄には、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、外国の学校等卒業生、帰国子女入試による入学者及び外国人留学生は含まれない。これらの入学者は、「その他」の欄に計上している。

（学務部入試課）

## 令和3年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

北海道	818	509	309	32.1%
-----	-----	-----	-----	-------

東北	121	85	36	4.8%
----	-----	----	----	------

青森県	25	18	7
-----	----	----	---

岩手県	15	12	3
-----	----	----	---

宮城県	26	13	13
-----	----	----	----

秋田県	17	15	2
-----	----	----	---

山形県	21	12	9
-----	----	----	---

福島県	17	15	2
-----	----	----	---

関東	704	518	186	27.7%
----	-----	-----	-----	-------

茨城県	49	36	13
-----	----	----	----

栃木県	25	22	3
-----	----	----	---

群馬県	28	23	5
-----	----	----	---

埼玉県	87	70	17
-----	----	----	----

千葉県	64	53	11
-----	----	----	----

東京都	315	215	100
-----	-----	-----	-----

神奈川県	136	99	37
------	-----	----	----

北陸・中部	368	293	75	14.5%
-------	-----	-----	----	-------

新潟県	26	21	5
-----	----	----	---

富山県	29	20	9
-----	----	----	---

石川県	36	31	5
-----	----	----	---

福井県	15	11	4
-----	----	----	---

山梨県	9	8	1
-----	---	---	---

長野県	32	27	5
-----	----	----	---

岐阜県	21	16	5
-----	----	----	---

静岡県	64	47	17
-----	----	----	----

愛知県	136	112	24
-----	-----	-----	----

地域名	入学者	男子	女子	地域%
-----	-----	----	----	-----

近畿	310	236	74	12.2%
----	-----	-----	----	-------

三重県	22	19	3
-----	----	----	---

滋賀県	19	16	3
-----	----	----	---

京都府	44	35	9
-----	----	----	---

大阪府	92	67	25
-----	----	----	----

兵庫県	81	58	23
-----	----	----	----

奈良県	39	33	6
-----	----	----	---

和歌山県	13	8	5
------	----	---	---

中国・四国	111	78	33	4.4%
-------	-----	----	----	------

鳥取県	10	6	4
-----	----	---	---

島根県	7	5	2
-----	---	---	---

岡山県	12	7	5
-----	----	---	---

広島県	34	25	9
-----	----	----	---

山口県	5	4	1
-----	---	---	---

徳島県	11	9	2
-----	----	---	---

香川県	12	9	3
-----	----	---	---

愛媛県	18	12	6
-----	----	----	---

高知県	2	1	1
-----	---	---	---

九州・沖縄	68	45	23	2.7%
-------	----	----	----	------

福岡県	36	25	11
-----	----	----	----

佐賀県	0	0	0
-----	---	---	---

長崎県	5	3	2
-----	---	---	---

熊本県	7	3	4
-----	---	---	---

大分県	5	3	2
-----	---	---	---

宮崎県	3	2	1
-----	---	---	---

鹿児島県	3	3	0
------	---	---	---

沖縄県	9	6	3
-----	---	---	---

その他	46	23	23	1.8%
-----	----	----	----	------

高等学校卒業程度認定試験等	12	8	4
---------------	----	---	---

帰国子女入試	5	4	1
--------	---	---	---

外国人留学生	29	11	18
--------	----	----	----

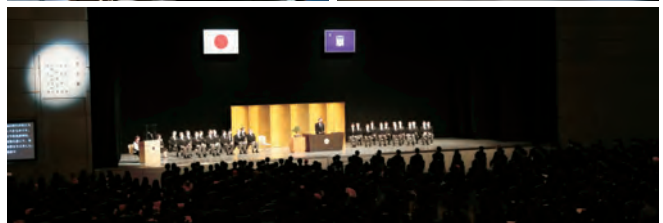
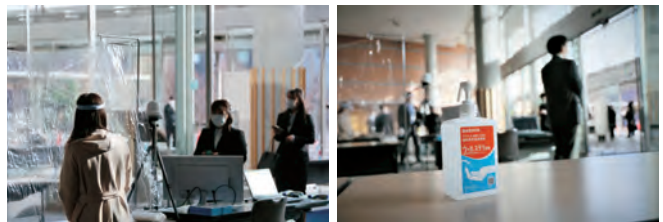
入学者数合計	2,546	1,787	759
--------	-------	-------	-----

※地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

(学務部入試課)

## 編集メモ

- 2年ぶりの入学式が行われた令和3年4月。検温や手の消毒等感染症対策のため、受付ではフェイスシールド姿の職員が新生を迎えました。遅れて入学式を行った令和2年度入学生も、すでに1年共に学んだ学友たちと改めて“北大に入学したのだ”と感じているようでした。



- ついに長かった冬も終わり、雪は溶けたといえども、まだまだ肌寒い北海道の春。大学構内の道端に目をやると、ひっそりと春の花たちが咲いています。忙しい年度初めこそ少し立ち止まって、頑張っている花々に元気をもらうのも良いのかもしれません。



## 裏表紙メモ

4月後半に入り、春を感じるようになりました。新しい場所、新しい仲間に加え、すっかり定着した「新しい生活様式」が仲間入りした春。観測開始以来2番目に早く開花した桜は、今年も変わらぬ場所で花を咲かせています。

## キャンパス風景 13 北大生協会館前（北8条西7丁目）



北大時報 ④ No.805 令和3年4月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2162 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>